

文 学 部

履 修 要 項

昭 和 62 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月 8日(水) 入学式(学部・短大)
- 9日(木) } 新入生オリエンテーション
- 14日(火) } 在校生成績発表(学部・短大)
- 9日(木) }
- 10日(金) }
- 9日(木) } 体育実技Ⅱ受講届(種目選択届)
- 10日(金) } 受付(学部2年次生)
- 9日(木) } 在校生成分証明登録(学部・短大)
- 20日(月) }
- 13日(月) } 在校生成績質疑応答(学部・短大)
- 18日(土) }
- 15日(水) 前期授業開始
- 22日(水) } 履修届受付(学部・短大)
- 27日(月) } (学部により受付日が異なる)
- 5月 7日(木) } 春季健康診断
- 13日(水) } (卒業年次生対象)
- 25日(月) } 卒業論文論題受付
- 6月10日(水) } (締切日は正午まで)
- 7月 6日(月) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英
- 11日(土) } 米文)・法学部・短大国文・英文の
- 15日(水) } 1年次生および経済学部の2年次生)
- 21日(火) } 中間試験(授業平常どおり)
- 21日(火) 前期授業最終日
- 22日(水) } 前期終了科目定期試験
- 23日(木) }
- 24日(金) } 夏季休暇第1日(9月14日まで)
- 24日(金) } 体育実技Ⅱ集中授業コース・
- 28日(火) } シーズンコース(テニス)
- 28日(火) } (学部2年次生)
- 28日(火) } 前期終了科目定期試験欠試届(追試
- 28日(火) } 験申込)受付締切

後 期

- 9月 7日(月) } 補講期間
- 12日(土) }
- 16日(水) 後期授業開始
- 17日(木) } 前期終了科目定期試験成績発表(質
- 18日(金) } 疑応答)および再試験申込受付

- 25日(金) } 前期追・再試験(授業平常どおり)
- 10月 1日(木) }
- 1日(木) } 専攻コース指定届受付
- 2日(金) } (歴史・社会学科1年次生)
- 5日(月) }
- 8日(木) } 秋季健康診断(1~3年次生対象)
- 15日(木) } 第105回開校記念日(全学休業)
- 11月11日(水) } 転部・転科試験願書受付
- 13日(金) }
- 27日(金) } 転部・転科試験
- 12月 1日(火) } 卒業論文受付(締切日は正午まで)
- 10日(木) }
- 3日(木) } 編入学試験願書受付
- 11日(金) }
- 19日(土) } 冬季休暇第1日(1月7日まで)
- 19日(土) } 体育実技Ⅱ集中授業コース
- 23日(水) } (学部2年次生)
- 21日(月) 編入学試験

昭和63年

- 1月 8日(金) 後期授業再開
- 14日(木) 後期授業最終日
- 16日(土) }
- 27日(水) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 28日(木) }
- 2月 5日(金) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
- 6日(土) } 科目)
- 6日(土) } 定期試験欠試届受付締切(学部4年
- 6日(土) } 次生・短大生)
- 6日(土) } 定期試験欠試届(追試験申込)受付
- 8日(月) } 締切(学部1~3年次生)
- 8日(月) } 卒業論文口頭試問
- 15日(月) } 体育実技Ⅱシーズンコース
- 19日(金) } (スキーA・B)(学部2年次生)
- 18日(木) } 成績発表(質疑応答)および追・再試
- 19日(金) } 験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 25日(木) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
- 3月 2日(水) } 追試験(学部1~3年次生)
- 19日(土) } 卒業生名簿発表(学部・短大)
- 25日(金) } 卒業式(学部・短大)

目 次

I	単位制と学年制	
1.	単位制と学年制	(1)
2.	授業科目の単位計算	(1)
3.	授業科目の区分	(1)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	
1.	卒業に必要な単位数	(2)
2.	卒業論文	(15)
3.	学 士 号	(15)
III	授業科目の履修方法	
1.	一般教育科目の履修方法	(16)
2.	外国語科目の履修方法	(18)
3.	保健体育科目の履修方法	(21)
4.	基礎教育科目の履修方法	(22)
5.	専門教育科目の履修方法	(22)
6.	随意科目の履修方法	(46)
7.	再履修科目の履修方法	(46)
8.	授業科目のコード番号について	(47)
IV	履修科目の登録（履修届）とその作成順序	
1.	履修科目の登録	(48)
2.	履修届記入上の注意	(49)
3.	履修届（時間割）の作成順序	(50)
V	試験および成績評価	
1.	定期試験	(52)
2.	中間試験	(52)
3.	追・再試験	(52)
4.	受験心得	(53)
5.	成績評価・単位認定	(53)
6.	試験時間	(53)

VI 進級について	(54)
VII クラス制およびクラス主任	(55)
VIII 教職課程・資格講座	(55)
IX 事務取扱いについて	
1. 成績発表・成績証明書	(56)
2. 授業時間	(56)
3. 事務室の事務受付時間	(56)
4. 休 講	(56)
5. 掲 示	(56)
6. 問い合わせ	(56)
X 学籍について	
1. 修業年限と在学年数	(57)
2. 休 学	(57)
3. 復 学	(57)
4. 退 学	(58)
5. 除 籍	(58)
6. 懲 戒	(58)
7. 再 入 学	(58)
8. 編 入 学 (学士入学)	(58)
9. 転部・転科	(59)
10. 学生氏名・保証人	(59)
11. 学生番号	(59)
XI 既修得単位の認定について	(60)
XII 届書・願書について	(61)
XIII 各種証明書取扱い窓口	(62)
試験実施規程 (抜粋)	(63)
進 級 規 程	(65)
講 義 内 容	(67)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準に従って授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4カ年以上(7カ年を超えてはならない)である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

英米文学科

A. 60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	28	} 130以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	14	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		5	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	7	28	72	
	選 択		36		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

B. 58・59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	28	} 130以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	14	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		5	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	7	28	72	
	選 択		36		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

英米文学科

C. 57年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修得単位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	28	} 130以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	14	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		5	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	6	24	72	
	選 択		40		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

地理学科

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

歴史学科

[日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻]

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

〔考古学専攻〕

A. 62年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	128以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	10	38	72	
	選 択		26		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

B. 60・61年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	128以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	32	72	
	選 択		32		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

[考古学専攻]

C. 59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 128以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	32	72	
	選 択		32		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

社会学科

〔社会学コース〕

A. 60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

B. 57～59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

〔社会学コース〕

C. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	32	72	
	選 択		32		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

〔社会福祉コース〕

A. 60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

B. 57～59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

〔社会福祉コース〕

C. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	9	36	72	
	選 択		28		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

[心理学コース]

A. 60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

B. 57~59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

〔心理学コース〕

C. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	11	38	72	
	選 択		26		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標をたて、2年次以降その研究目標に関連する適当な選択科目を履修し、4年次で提出しなければならない。提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を認定する。

イ. 論題提出について

- (1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月25日（月）～6月10日（水）正午まで（教務部⑥番窓口）

ロ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 論文は所定用紙（大学売店にて販売）を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

ハ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
- (2) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日（火）～10日（木）正午まで（教務部⑥番窓口）

〔提出期間に遅れたとき、または授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕

ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査・口頭試問を行い可否を判定する。

口頭試問日 2月8日（月）

3. 学 士 号

大学に4カ年以上（7カ年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の称号が与えられる。

国文学科	}文学士
英米文学科		
文学部 地理学科		
歴史学科		
社会学科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。(再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。)
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 各学科「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次で必修とする。
- ハ. 各学科2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

学科	分野	人文分野	社会分野	自然分野	計
国文学科		16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
英米文学科		16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
地理学科		12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)
歴史学科		16 (4)	12 (3)	8 (2)	36 (9)
社会学科		12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)

※ () 内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

分野 学科	人文分野			社会分野			自然分野			
	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位	備考	授業科目	単位	修得単位
国 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学I」 ・「宗教学 II」を含め て4科目16 単位選択必 修	法 学 憲 法	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		〔日本国憲法〕 2単位を含む(2年次)	4			心 理 学	4	
	哲 学	4		経 済 学	4			人 類 学	4	
	論 理 学	4		社 会 学	4					
	歴 史 学	4		地 理 学	4					
芸 術 学 (日本・西洋)	4									
英 米 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学I」 ・「宗教学 II」を含め て4科目16 単位選択必 修	法 学 憲 法	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		〔日本国憲法〕 2単位を含む	4			心 理 学	4	
	哲 学	4		経 済 学	4			人 類 学	4	
	論 理 学	4		社 会 学	4					
	歴 史 学	4		地 理 学	4					
芸 術 学 (日本・西洋)	4									
地 理 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学I」 ・「宗教学 II」を含め て3科目12 単位選択必 修	法 学 憲 法	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	数 学	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		〔日本国憲法〕 2単位を含む	4			物 理 学	4	
	哲 学	4		経 済 学	4			化 学	4	
	文 学	4		社 会 学	4			生 物 学	4	
	芸 術 学 (日本・西洋)	4		文 化 人 類 学	4					
歴 史 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学I」 ・「宗教学 II」を含め て4科目16 単位選択必 修	法 学 憲 法	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		〔日本国憲法〕 2単位を含む	4			地 学	4	
	哲 学	4		経 済 学	4			心 理 学	4	
	論 理 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4	
	文 学	4		地 理 学	4					
芸 術 学 (日本・西洋)	4									
社 会 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学I」 ・「宗教学 II」を含め て3科目12 単位選択必 修	法 学 憲 法	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		〔日本国憲法〕 2単位を含む	4			生 物 学	4	
	論 理 学	4		政 治 学	4			地 学	4	
	文 学	4		経 済 学	4			人 類 学	4	
	歴 史 学	4		地 理 学	4					
芸 術 学 (日本・西洋)	4									

※ 国文学科の56年度以前入学生は「論理学」を1年次必修とする。57年度以降入学生は選択必修とする。

※ 「宗教学I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1外国語

年次	学 科	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
		科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1	年 次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
2	年 次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
3	年 次	—	—	1	2	—	—	—	—	—	—
	計	4	8	5	10	4	8	4	8	4	8

第2外国語

年次	学 科	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
		科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1	年 次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数	備考
英語 1G	2		1G・1R2科目を必修とする。ただし1Gは「英会話I」または「英語LLI」に代替できる。(ただし英米文学科は「英会話I」に代替できない。)	LLI (ランゲージ・ラボラトリー)
英語 1R	2			
英会話 I	2			
英語LLI	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ドイツ語 1G	2	文 法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修とする。	
ドイツ語 1R	2	講 読		
フランス語 1G	2	文 法		
フランス語 1R	2	講 読		
中国語 1G	2	文 法		
中国語 1R	2	講 読		
スペイン語 1G	2	文 法		
スペイン語 1R	2	講 読		
ロシア語 1G	2	文 法		
ロシア語 1R	2	講 読		

※ 英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語として2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修とすること。ただし、英米文学科は英語を第1外国語とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 2AⅠ	2		中 国 語 2AⅠ	2	講 読
英 語 2AⅡ	2		中 国 語 2AⅡ	2	講 読
ド イ ツ 語 2AⅠ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2AⅠ	2	講 読
ド イ ツ 語 2AⅡ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2AⅡ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2AⅠ	2	講 読	ロ シ ア 語 2AⅠ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2AⅡ	2	講 読	ロ シ ア 語 2AⅡ	2	講 読

※ 英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通し、はば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達的能力を発展させ、応用力を修得する。

3年次の履修（英米文学科のみ）

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数
英 語 3A	2	講 読	3Aを1科目必修

※「英語3A」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、7月初旬に登録する。従って1年次生は前期の授業で十分考慮の上登録すること。なお、英米文学科は英語を第1外国語とする。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

A. 60年度以降入学生適用

講義と実技に分かれる。講義は1年次に1科目2単位、実技は1年次1科目1単位「体育実技Ⅰ」、2年次1科目1単位「体育実技Ⅱ」の3科目4単位を必修とする。

	授業科目	単位	備考
講義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は月曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、「体育実技受講要領」を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 59年度以前入学生適用

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授業科目	単位	備考
講義	保健体育理論	2	前期または後期
実技	体育実技	2	通年

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で各年次別履修順序は、次表のとおりである。

年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
1年次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎自然地理学	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	基礎英語ⅠA	2	基礎人文地理学	4			社会福祉概論	4
	基礎中国文学	4	基礎英語ⅠB（会話）	2					心理学概論	4
2年次			基礎英語ⅡA	2						
			基礎英語ⅡB（会話）	2						

（注意）「基礎自然地理学」は「基礎地学（自然地理学）」を、「基礎人文地理学」は「基礎地理学（人文地理学）」を名称変更したものである。

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	国文学科	英米文学科		地理学科	歴史学科			社会学科					
		58年度以降入学生適用	57年度以前入学生適用		日本史 東洋史 西洋史	考古学		57年度以降入学生適用			56年度以前入学生適用		
						28年度以降入学生適用	26年度以前入学生適用	社	福	心	社	福	心
必修科目	36(12)	28(7)	24(6)	16(6)	32(8)	38(10)	32(8)	48(12)	48(12)	28(8)	32(8)	36(9)	38(11)
選択科目	28	36	40	48	32	26	32	16	16	36	32	28	26
卒業論文	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
計	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72

※（ ）内の数字は科目数

国文学科

必修科目(44単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国文学講読Ⅰ	2		国語学演習Ⅰ	2	1科目2単位選択必修 〔原則として卒業論文 に関連のある分野の 演習を履修すること。〕
			国文学演習Ⅰ(上代)	2	
2 年 次 必 修			国文学演習Ⅰ(中古)	2	
国語学概論	4		国文学演習Ⅰ(中世)	2	
国文学概論	4		国文学演習Ⅰ(近世)	2	
国文学講読Ⅱ	2		国文学演習Ⅰ(近代)	2	
中国文学講読	2		4 年 次 必 修		
			国文学研究	4	
3 年 次 必 修			国文学史(上代)	4	1科目4単位選択必修 〔3年次で必修または 選択として履修した 科目以外を履修する こと。〕
国文学史(上代)	4	1科目4単位 選択必修	国文学史(中古)	4	
国文学史(中古)	4		国文学史(中世)	4	
国文学史(中世)	4		国文学史(近世)	4	
国文学史(近世)	4		国文学史(近代)	4	
国文学史(近代)	4		国語学演習Ⅱ	2	1科目2単位選択必修 〔卒業論文に関連のある分 野の演習を履修すること。〕
国語学研究	4	国文学演習Ⅱ	2		
国文学講読Ⅲ	2		卒業論文	8	15頁参照

(注意) 3年次で「国文学演習Ⅰ」を履修した者は原則として4年次も「国文学演習Ⅱ」を、また3年次で「国語学演習Ⅰ」を履修した者は4年次でも「国語学演習Ⅱ」を履修すること。

選 択 科 目 (28単位以上) (2年次以降の履修科目)

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
A	上 代 文 学	4		国 学 特 講 Ⅱ	4	
	中 古 文 学	4		国 学 特 講 Ⅲ	4	
	中 世 文 学	4		国 学 特 講 Ⅳ	4	
	近 世 文 学	4		国 学 史 (上 代)	4	選 択 科 目 と し て 履 修 を 希 望 す る 者 は 必 修 と し た 科 目 以 外 を 3 年 次 ま た は 4 年 次 で 履 修 す る こ と。
	近 代 文 学	4		国 学 史 (中 古)	4	
	国 語 史	4	休 講 } 隔 年 開 講	国 学 史 (中 世)	4	
	国 語 学 史	4		国 学 史 (近 世)	4	
	文 学 概 論	4		国 学 史 (近 代)	4	
	言 語 学 概 論	4		上 代 文 学 講 読	2	
	有 職 故 実	4	休 講	近 代 文 学 講 読	2	
国 学 特 講 Ⅰ	4					

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
B	中 国 文 学	4		日 本 文 化 史 Ⅰ	4	休 講 } 隔 年 開 講
	中 国 文 学 演 習	4		日 本 文 化 史 Ⅱ	4	
	中 国 文 学 概 論	4		現 代 美 術	4	
	東 洋 思 想 研 究	4		書 道 実 習 Ⅰ	4	
	英 米 文 化	4	旧「外国文学」	書 道 実 習 Ⅱ	4	
	仏 教 概 論	4		美 術 史 概 説	4	
	日 本 史 概 説 Ⅰ	4	古代, 中世	美 術 史	2	
	日 本 史 概 説 Ⅱ	4	近世, 近代	書 道 史	2	
日 本 民 俗 学	4		編 集 実 務	2		

(注意) 「国文学特講」のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、時代・履修順序等との関係はない。

「A群」より5科目以上、「B群」より2科目以上選び履修されたい。

英米文学科

必修科目

A. 58年度以降入学生適用（36単位）

2年次必修			4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		卒業論文	8	15頁参照
英作文 I	4		2年次または3年次必修		
3年次必修			英文学史 I	4	※ 2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修
音声学	4		英文学史 II	4	
英語史	4		米文学史	4	
シェイクスピア	4				

※「英文学史 I」・「英文学史 II」・「米文学史」のうち2科目を選択必修とし、残りの1科目は専門選択科目として履修できない。

B. 57年度以前入学生適用（32単位）

2年次必修			2年次または3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		英文学史 I	4	1科目4単位 選択必修
3年次必修			英文学史 II	4	
音声学	4	旧「英語学研究」	米文学史	4	
英語史	4		3年次または4年次必修		
4年次必修			批評論研究	4	
卒業論文	8	15頁参照	シェイクスピア	4	

選 択 科 目

A. 58年度以降入学生適用 (36単位以上)

B. 57年度以前入学生適用 (40単位以上)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英 文 学 史 I	4	2・3・4	※イ 必修とした 科目以外を 履修するこ と。	英 文 学 演 習 I (中世)	4	3・4	
英 文 学 史 II	4	2・3・4		英 文 学 演 習 II (英文学16・17c.)	4	3・4	※ホ
米 文 学 史	4	2・3・4		英 文 学 演 習 IV (英文学18c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 I (英文学16・17c.)	4	3・4		英 文 学 演 習 V (詩19・20c.)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 II (英文学18c.)	4	3・4		英 文 学 演 習 VI (小説I 19c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 III (詩19・20c.)	4	2・3・4		英 文 学 演 習 VII (小説II 20c.)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 IV (小説I 19c.)	4	2・3・4		英 文 学 演 習 VIII (批評19・20c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 V (小説II 20c.)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 I (詩)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 VI (批評19・20c.)	4	3・4		米 文 学 演 習 II (小説I)	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 I (詩)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 III (小説II)	4	3・4	
米 文 学 特 講 II (小説I)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 IV (小説III)	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 III (小説II)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 V (批評)	4	3・4	
米 文 学 特 講 IV (小説III)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 VI (小説IV)	4	3・4	
米 文 学 特 講 V (批評)	4	3・4		英 米 演 劇 演 習	4	2・3・4	※へ
英 米 演 劇 特 講	4	2・3・4	※ロ	時 事 英 語	4	2・3・4	旧 「英米時文研究」
英 作 文 I	4	3・4	※ハ	商 業 英 語	4	3・4	
英 米 語 学 演 習 (英語学)	4	3・4		ラ テ ン 語 特 講	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英語史)	4	3・4		英 米 文 化	4	2・3・4	旧「外国文学」
英 米 語 学 演 習 (英文法)	4	3・4		日 本 文 化 史 I	4	2・3・4	} 隔年 休講 開講
英 米 語 学 演 習 (英作文II)	4	3・4	※ニ	日 本 文 化 史 II	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英会話)	2	3・4		現 代 美 術	4	2・3・4	

※イ. 57年度以前入学生適用

※ロ. 57年度以前入学生で「英文学特講VII (演劇19・20c.)」・「米文学特講VI (演劇)」の単位をいずれか修得した者は、「英米演劇特講」を履修できない。

※ハ. 57年度以前入学生適用 旧「英米語学演習 (英作文)」

※ニ. 58年度以降入学生適用

※ホ. 57年度以前入学生で「英文学演習Ⅱ（英文学16c.）」・「英文学演習Ⅲ（英文学17c.）」の単位をいずれか修得した者は、「英文学演習Ⅱ（英文学16・17c.）」を履修できない。

※へ. 57年度以前入学生で「英文学演習Ⅸ（演劇19・20c.）」の単位を修得した者は、「英米演劇演習」を履修できない。

（注意）同一科目は再度履修しても単位にはならない。

◇ 演習科目の履修方法

I) 履修科目数

イ. 2・3・4年次に演習1科目（4単位）ずつ、あわせて3科目（12単位）を極力履修すること。

ロ. 2年次で履修できる演習科目は1科目とする。

ハ. 3年次で履修できる演習科目は3科目以内とする。

ニ. 4年次で履修できる演習科目は2科目以内とする。

II) 履修上の注意

イ. 各種演習科目とも先着50名で締め切る。なお、教務部に「単位履修届」を提出する前に、受講希望の科目担任の先生に本人が直接届け出て「単位履修届」に捺印を受けること。

ロ. 担任の先生に届け出る日・時・場所については、教務部の掲示板に掲示するので注意すること。

ハ. 57年度以前入学生で（旧）「英米語学演習（英作文）」の履修希望者は、「英作文Ⅰ」を履修すること。なお、その場合「英作文Ⅰ」の4講座のうちいずれかひとつを選択し、担任の先生に本人が直接届け出て「単位履修届」に捺印を受けること。捺印の日時は、他の演習科目と同じとする。

地理学科

必修科目（24単位）

2年次必修		3年次必修		4年次必修	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
自然地理学実習 （地図学実習を含む）	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検Ⅱ	2	卒業論文 (15頁参照)	8
野外巡検Ⅰ	2				

※「地理学総論」は「地理学研究法および地理学史」の名称変更。

（注意）「地理学演習」および「野外巡検（Ⅰ・Ⅱ）」の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部および地理学教室の掲示板に掲示するので注意すること。

選択科目(48単位以上)

2 年 次 選 択			3 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
地 形 学 I	4		歴 史 地 理 学	4	
集 落 地 理 学	4		人 口 地 理 学	4	
郷 土 地 理 学	4		経 済 地 理 学 II	4	
経 済 地 理 学 I	4		原 書 講 読	4	
交 通 地 理 学	4		日 本 地 誌 II	4	
地 図 学	4	旧「地図学概説」	外 国 地 誌 II	4	
日 本 地 誌 I	4		地 理 学 特 講 I	2	
外 国 地 誌 I	4		3 ・ 4 年 次 選 択		
3 年 次 選 択			文 化 地 理 学	4	
地 質 学	4		都 市 地 理 学	4	
地 球 物 理 学	4	休 講	計 量 地 理 学	4	
地 形 学 II	4		空 中 写 真 判 読 法 及 び 測 量 学	4	
気 候 学	4		日 本 地 誌 III	4	
土 壌 地 理 学	4		外 国 地 誌 III	4	
海 洋 学 及 び 陸 水 学	4		応 用 地 理 学 I	4	
環 境 地 理 学	4		応 用 地 理 学 II	4	

(注意) 上記のように学年次別に選択科目を分けているが、内容からみて上級学年が下級学年の科目を履修するのはさしつかえない。しかし、下級学年が上級学年の科目を履修することはできない。

◎ 測量士補資格について

地理学科の学生で、「地図学」・「空中写真判読法及び測量学」・「自然地理学実習」・「地理学演習」の単位を修得し、さらに「地形学（I・II）」・「地質学」・「地球物理学」・「応用地理学（I・II）」のうち2科目の単位を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後1カ年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科（1年次の秋頃に各自専攻コースを届け出ること。）

必修科目

(1) 日本史専攻（40単位）

A. 56年度以降入学生適用

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ(考古学)で代替える。
日本史学史	4		4年次必修		
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ（日本史）	4	
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	15頁参照
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

B. 55年度以前入学生適用

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ(考古学)で代替える。
日本史学史	4		4年次必修		
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ（日本史）	4	
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	15頁参照
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				

(2) 東洋史専攻 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(東洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)で代替できる。
東洋史学史	4		4年次必修		
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(東洋史)	4	
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	15頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(3) 西洋史専攻 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(西洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)で代替できる。
西洋史学史	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(西洋史)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	15頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(4) 考古学専攻

A. 62年度以降入学生適用 (46単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		考古発掘実習	2	
考古学史	4		考古学実習(写真)	4	1科目4単位 選択必修
考古学概説Ⅰ(日本)	4		考古学演習(測量)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		考古学実習(石器)	4	
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修	考古学実習(土器)	4	
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		3年次必修		
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰで代替できる。
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	15頁参照

B. 61年度以前入学生適用 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰで代替できる。
考古学史	4		4年次必修		
考古学概説Ⅰ(日本)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		卒業論文	8	15頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				

選 択 科 目 (2 年 次 以 降 の 履 修 科 目)

日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻 (32単位以上)

考古学専攻 (62年度以降入学生適用, 26単位以上)

(61年度以前入学生適用, 32単位以上)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 史 各 説 I	4		東 洋 史 特 講 I (古 代)	4	旧「東洋史特講Ⅶ」
日 本 史 各 説 II	4	休 講	東 洋 史 特 講 II (古 代)	4	
日 本 史 各 説 III	4		東 洋 史 特 講 III (古 代)	4	休 講
日 本 史 各 説 IV	4		東 洋 史 特 講 IV (中 世)	4	休 講
東 洋 史 各 説 I (古 代)	4	休 講 旧「東洋史各説Ⅱ」	東 洋 史 特 講 V (中 世)	4	休 講
東 洋 史 各 説 II (古 代)	4		東 洋 史 特 講 VI (中 世)	4	旧「東洋史特講Ⅲ・Ⅵ」
東 洋 史 各 説 III (中 世)	4	休 講 旧「東洋史各説Ⅰ」	東 洋 史 特 講 VII (近 世)	4	
東 洋 史 各 説 IV (中 世)	4		東 洋 史 特 講 VIII (近 世)	4	休 講
東 洋 史 各 説 V (近 世)	4	休 講 旧「東洋史各説Ⅲ」	東 洋 史 特 講 IX (近 世)	4	休 講
東 洋 史 各 説 VI (近 世)	4		東 洋 史 特 講 X (近・現代)	4	
東 洋 史 各 説 VII (近・現代)	4		東 洋 史 特 講 XI (近・現代)	4	旧「東洋史特講Ⅳ」
東 洋 史 各 説 VIII (周 辺 史)	4		東 洋 史 特 講 XII (近・現代)	4	休 講 旧「東洋史特講Ⅱ」
東 洋 史 各 説 IX (周 辺 史)	4	旧「東洋史各説Ⅳ」	東 洋 史 特 講 XIII (周 辺 史)	4	旧「東洋史特講Ⅴ」
東 洋 史 各 説 X (周 辺 史)	4	旧「東洋史各説Ⅱ」	東 洋 史 特 講 XIV (周 辺 史)	4	旧「東洋史特講Ⅰ」
西 洋 史 各 説 I	4		東 洋 史 特 講 XV (周 辺 史)	4	
西 洋 史 各 説 II	4	休 講	西 洋 史 特 講 I	4	
西 洋 史 各 説 III	4		西 洋 史 特 講 II	4	休 講
西 洋 史 各 説 IV	4	休 講	西 洋 史 特 講 III	4	
考 古 学 各 説 I	4	休 講	西 洋 史 特 講 IV	4	
考 古 学 各 説 II	4	休 講	西 洋 史 特 講 V	4	休 講
考 古 学 各 説 III	4		西 洋 各 国 史 I	4	
考 古 学 各 説 IV	4		西 洋 各 国 史 II	4	
日 本 史 特 講 I (古 代)	4	休 講	西 洋 各 国 史 III	4	
日 本 史 特 講 II (中 世)	4		西 洋 各 国 史 IV	4	
日 本 史 特 講 III (中 世)	4		考 古 学 特 講 I	4	休 講
日 本 史 特 講 IV (近 世)	4		考 古 学 特 講 II	4	
日 本 史 特 講 V (近 世)	4		考 古 学 特 講 III	4	休 講
日 本 史 特 講 VI (近 代)	4	休 講	考 古 学 特 講 IV	4	} 隔 年 開 講
日 本 史 特 講 VII (近 代)	4		古 文 書 学	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	
古 文 書 講 読 I	4		人 文 地 理 学 概 説	4		
古 文 書 講 読 II	4		地 誌 学	4		
日 本 仏 教 史 I	4	休 講 } I と III は 隔 年 開 講	哲 学 史	4		
日 本 仏 教 史 II	4		歴 史 哲 学	4		
日 本 仏 教 史 III	4		仏 教 美 術	4		
日 本 文 化 史 I	4	休 講 } 隔 年 開 講	西 域 美 術 史	4		
日 本 文 化 史 II	4		美 術 史 概 説	4		
西 洋 文 化 史 I	4	休 講	ラ テ ン 語 特 講	4		
西 洋 文 化 史 II	4	休 講	演 習 I	4	}	
西 洋 文 化 史 III	4		演 習 II	4		
考 古 学 実 習 (写 真)	4	}	日 本 史 概 説 I (古 代・中 世)	4		
考 古 学 実 習 (測 量)	4		日 本 史 概 説 II (近 世・近 代)	4		
考 古 学 実 習 (石 器)	4		(注)	東 洋 史 概 説 I (古 代・中 世)		4
考 古 学 実 習 (土 器)	4		東 洋 史 概 説 II (近 世・近 代)	4		
考 古 発 掘 実 習	2		西 洋 史 概 説 I (古 代・中 世)	4		
有 職 故 実	4	休 講	西 洋 史 概 説 II (近 世・近 代)	4		
中 国 歴 史 文 学	4		考 古 学 概 説 I (日 本)	4		
日 本 民 俗 学	4		考 古 学 概 説 III (外 国)	4		
歴 史 地 理 学	4					

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※ 55年度以前入学生は「考古学概説Ⅱ(外国)」を履修することはできない。

〔名称変更科目〕

新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
東洋史特講Ⅰ(古 代)	東洋史特講Ⅶ(古代史)	東洋史各説Ⅰ(古 代)	東 洋 史 各 説 Ⅱ
東洋史特講Ⅵ(中 世)	東洋史特講Ⅲ(中世史) 東洋史特講Ⅵ(中世史)	東洋史各説Ⅲ(中 世)	東 洋 史 各 説 Ⅰ
東洋史特講Ⅺ(近現代)	東洋史特講Ⅳ(近代・現代史)	東洋史各説Ⅴ(近 世)	東 洋 史 各 説 Ⅲ
東洋史特講Ⅻ(近現代)	東洋史特講Ⅱ(近世・近代史)	東洋史各説Ⅸ(周辺史)	東 洋 史 各 説 Ⅳ
東洋史特講Ⅼ(周辺史)	東洋史特講Ⅴ(西・中央アジア史)	東洋史各説Ⅹ(周辺史)	東 洋 史 各 説 Ⅱ (59年度光嶋担当分)
東洋史特講Ⅽ(周辺史)	東洋史特講Ⅰ(中国周辺史)	考 古 学 実 習 (写 真)	考 古 学 実 習 Ⅰ (写 真)
		考 古 学 実 習 (測 量)	考 古 学 実 習 Ⅲ (測 量)
		考 古 学 実 習 (石 器)	考 古 学 実 習 Ⅱ (記 録)
		考 古 学 実 習 (土 器)	考 古 学 実 習 Ⅳ (調 査)

社会学科（1年次の秋頃各自専攻コースを届け出ること。）

(1) 社会学コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用（56単位）

2年次必修			2・3・4年次必修			
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	5科目20単位 選択必修	
社会学史	4		産業社会学	4		
社会学方法論	4		都市社会学	4		
3年次必修			農村社会学	4		
社会調査	4		家族社会学	4		
社会調査実習	4		法社会学	4		
演習Ⅰ	4	社会	宗教社会学	4		
4年次必修			社会心理学	4		
演習Ⅱ	4	社会	社会病理学	4		
卒業論文	8	15頁参照	外書講読Ⅰ	4		
			外書講読Ⅱ	4		
			社会学特講Ⅰ	4		
			社会学特講Ⅱ	4		休講
			社会学特講Ⅲ	4		休講

（注意）「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目（2年次以降の履修科目）

A. 57年度以降入学生適用（16単位以上）

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
マスコミュニケーション	4	(注)	社会学原論	4	
産業社会学	4		図書館学Ⅰ	4	
都市社会学	4		図書館学Ⅱ	4	
農村社会学	4		社会福祉方法総論	4	
家族社会学	4		社会福祉法制	4	
法社会学	4		社会保障概論	4	
宗教社会学	4		老人福祉論	4	
社会心理学	4		児童福祉論	4	
社会病理学	4		地域福祉論	4	
外書講読Ⅰ	4		基礎心理学Ⅰ	4	
外書講読Ⅱ	4		産業心理学	4	
社会学特講Ⅰ	4		グループ・ダイナミックス	4	
社会学特講Ⅱ	4		休講	民法	4
社会学特講Ⅲ	4	労働法		4	
		休講	行政法	4	
			経済原論	4	
			社会政策	4	

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用（40単位）

2 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		社 会 政 策	4	
社 会 学 原 論	4		演 習 II	4	社会
社 会 統 計 学	4		卒 業 論 文	8	15頁参照
宗 教 社 会 学	4				
3 年 次 必 修					
社 会 調 査	4				
演 習 I	4	社会			

（注意）「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用（32単位以上）

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会学方法論	4		労働法	4	
マスコミュニケーション	4		経済原論	4	
産業社会学	4		社会学特講Ⅰ	4	旧「社会学特講」
都市社会学	4		社会学特講Ⅱ	4	休講
農村社会学	4		社会学特講Ⅲ	4	休講
家族社会学	4		社会福祉法制	4	
法社会学	4		社会保障概論	4	
社会心理学	4		老人福祉論	4	
外書講読Ⅰ	4		児童福祉論	4	
外書講読Ⅱ	4		地域福祉論	4	
2・3・4年次選択			基礎心理学Ⅰ	4	
図書館学Ⅰ	4		産業心理学	4	
図書館学Ⅱ	4		社会福祉方法総論	4	
グループ・ダイナミックス	4	旧「集団理論」	3・4年次選択		
行政法	4		社会病理学	4	
民法	4		社会調査実習	4	旧「社会調査実習Ⅰ」

(2) 社会福祉コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用（56単位）

2 年 次 必 修			2・3・4 年 次 必 修			
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	
社 会 保 障 概 論	4		A 群	公 的 扶 助 論	4	A群とB群より、 それぞれ3科目 ずつ、合計6科 目24単位選択 必修
社 会 福 祉 法 制	4			障 害 福 祉 論	4	
社 会 福 祉 方 法 総 論	4			老 人 福 祉 論	4	
3 年 次 必 修				児 童 福 祉 論	4	
社 会 福 祉 実 習 I	4			母 子 福 祉 論	4	
演 習 I	4	福祉		医 療 社 会 事 業 論	4	
4 年 次 必 修				地 域 福 祉 論	4	
演 習 II	4	福祉		社 会 福 祉 事 業 発 達 史	4	
卒 業 論 文	8	15頁参照		社 会 福 祉 管 理 運 営 論	4	
				福 祉 外 書 講 読	4	
			B 群	リハビリテーション論	4	
				社 会 福 祉 調 査 論	4	

（注意）「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（16単位以上）

2・3・4年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
公的扶助論	4	(注)	宗教社会学	4	
障害福祉論	4		産業社会学	4	
老人福祉論	4		都市社会学	4	
児童福祉論	4		農村社会学	4	
母子福祉論	4		家族社会学	4	
医療社会事業論	4		法社会学	4	
地域福祉論	4		社会病理学	4	
社会福祉事業発達史	4		障害児教育原論	4	旧「異常児教育原論」
社会福祉管理運営論	4		障害児教育方法論	4	旧「異常児教育方法論」
福祉外書講読	4		障害児病理	4	休講 旧「異常児病理」
リハビリテーション論	4		障害児心理	4	休講 旧「異常児心理」
社会福祉調査論	4		図書館学Ⅰ	4	
ケースワーク論	4		図書館学Ⅱ	4	
グループワーク論	4		社会政策	4	
海外社会福祉論	4	青少年問題研究	4		
社会福祉学特講Ⅰ	4	行政法	4		
社会福祉学特講Ⅱ	4	労働法	4		
社会福祉学特講Ⅲ	4	民法	4		
基礎心理学Ⅰ	4	経済原論	4		
基礎心理学Ⅱ	4	4年次選択			
社会心理学	4	社会福祉実習Ⅱ	4		
グループ・ダイナミックス	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※ 「社会福祉実習Ⅱ」を履修する者は「社会福祉実習Ⅰ」取得者に限る。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用（44単位）

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		社会福祉演習Ⅰ	4	旧「社会福祉実習」
社 会 学 原 論	4		演 習 Ⅰ	4	福祉
社会福祉法制	4		4 年 次 必 修		
3 年 次 必 修			社 会 政 策	4	
社 会 調 査	4		演 習 Ⅱ	4	福祉
社会福祉事業発達史	4	旧「社会福祉事業史」	卒 業 論 文	8	15頁参照

（注意）「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用（28単位以上）

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会保障概論	4	旧「社会保障論」	基礎心理学Ⅰ	4	
児童福祉論	4		グループ・ダイナミックス	4	
老人福祉論	4		宗教社会学	4	
地域福祉論	4		産業社会学	4	
ケースワーク論	4	旧「ケース・ワーク論」	都市社会学	4	
グループワーク論	4	旧「グループ・ワーク」	農村社会学	4	
基礎心理学Ⅱ	4	旧「精神発達学」	法社会学	4	
社会心理学	4		図書館学Ⅰ	4	
家族社会学	4		図書館学Ⅱ	4	
障害児教育原論	4	旧「異常児教育原論」	民法	4	
2・3・4年次選択			経済原論	4	
公的扶助論	4		行政法	4	
母子福祉論	4		労働法	4	
医療社会事業論	4	旧「医療社会事業」	青少年問題研究	4	
リハビリテーション論	4		障害児病理	4	休講 旧「異常児病理」
福祉外書講読	4	旧「外書講読Ⅲ」	障害児心理	4	休講 旧「異常児心理」
海外社会福祉論	4		障害福祉論	4	
社会福祉方法総論	4		3・4年次選択		
社会福祉管理運営論	4		障害児教育方法論	4	旧「異常児教育方法論」
社会福祉学特講Ⅰ	4	旧「社会福祉特講Ⅰ」	社会病理学	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4	旧「社会福祉特講Ⅱ」			
社会福祉学特講Ⅲ	4	旧「社会福祉特講Ⅲ」			

(3) 心理学コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用 (36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心理学研究Ⅲ(実習)	2	1科目2単位 選択必修
心 理 統 計 学	4		心理学研究Ⅳ(実習)	2	
心理学実験(実習)	2		心理学研究Ⅴ(実習)	2	
基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	1科目4単位 選択必修	心理学研究Ⅵ(実習)	2	1科目4単位選 択必修(2年次 で必修または選 択として履修し た科目以外を履 修すること。)
基 礎 心 理 学 Ⅱ	4		基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅲ	4		基 礎 心 理 学 Ⅱ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅳ	4		基 礎 心 理 学 Ⅲ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅴ	4		基 礎 心 理 学 Ⅳ	4	
3 年 次 必 修			基 礎 心 理 学 Ⅴ	4	
心 理 学 研 究 法	4		4 年 次 必 修		
心理学研究Ⅰ(実習)	2		演 習	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		卒 業 論 文	8	15頁参照

(注意) 「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の内容については講義内容欄を参照のこと。

選択科目（2年次以降の履修科目）

A. 57年度以降入学生適用（36単位以上）

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
基礎心理学Ⅰ	4	必修として履修した科目以外を履修すること。	心理学特講Ⅱ	4	
基礎心理学Ⅱ	4		心理学特講Ⅲ	4	
基礎心理学Ⅲ	4		精神医学	4	
基礎心理学Ⅳ	4		精神病理学	4	休講
基礎心理学Ⅴ	4		心身医学	4	休講
心理学研究Ⅰ(実習)	2	3・4年次選択3年次で必修とした科目以外を履修すること。	宗教社会学	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		産業社会学	4	
心理学研究Ⅲ(実習)	2		家族社会学	4	
心理学研究Ⅳ(実習)	2		社会病理学	4	
心理学研究Ⅴ(実習)	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究Ⅵ(実習)	2		社会福祉方法総論	4	
生理心理学	4		障害福祉論	4	
児童心理学	4		老人福祉論	4	
産業心理学	4		児童福祉論	4	
グループ・ダイナミクス	4		民法	4	
カウンセリング	4		経済原論	4	
心理検査法	4		行政法	4	
禅心理学	4		労働法	4	
心理学特講Ⅰ	4				

（注意） 2年次における「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の選択科目としての履修は、3科目以内とする。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用（46単位）

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基礎心理学Ⅰ	4	旧「人格心理学」	心理学研究Ⅳ(実習)	2	1科目2単位 選択必修 旧「心理学実験 演習(上級)」
グループ・ダイナミクス	4	旧「集団理論」	心理学研究Ⅴ(実習)	2	
精神医学	4		心理学研究Ⅵ(実習)	2	
心理学実験(実習)	2	旧「心理学実験演習 (初級)」	心理学特講Ⅰ	4	旧「臨床心理学Ⅱ(方法)」
3 年 次 必 修			心理統計学	4	旧「精神測定法」
基礎心理学Ⅲ	4	旧「学習行動理論」	4 年 次 必 修		
基礎心理学Ⅴ	4	旧「臨床心理学Ⅰ(理論)」	心理検査法	2	旧「臨床実習」
心理学研究Ⅰ(実習)	2		演 習	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		卒 業 論 文	8	15頁参照
心理学研究Ⅲ(実習)	2				

※ 「心理学実験演習(上級)」の単位を既に修得している場合は、成績表には「心理学研究Ⅰ(実習)」として記載する。

選択科目（2年次以降の履修科目）

B. 56年度以前入学生適用（26単位以上）

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
基礎心理学Ⅱ	4	旧「精神発達学」	精神病理学	4	休講
基礎心理学Ⅳ	4	旧「社会心理学」	心身医学	4	休講 旧「精神身体医学」
心理学研究Ⅰ(実習)	2	3・4年次選択 3年次で必修とし た科目以外を履修 すること。 旧「心理学実験 演習(上級)」	宗教社会学	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		産業社会学	4	
心理学研究Ⅲ(実習)	2		家族社会学	4	
心理学研究Ⅳ(実習)	2		社会病理学	4	
心理学研究Ⅴ(実習)	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究Ⅵ(実習)	2		社会福祉方法総論	4	
生理心理学	4	旧「精神生理学」	障害福祉論	4	
児童心理学	4		老人福祉論	4	
産業心理学	4		児童福祉論	4	
カウンセリング	4		行政法	4	
禅心理学	4		民法	4	
心理学特講Ⅱ	4		労働法	4	
心理学特講Ⅲ	4		経済原論	4	

※ 「心理学実験演習(上級)」の単位を既に修得した者は、「心理学研究Ⅰ(実習)」は履修できない。

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 会 話 II	2		宗教学特講 I・II・III	4	
ド イ ツ 語 F	2		哲学特講 I・II	4	
フ ラ ン ス 語 F	2		宗 教 人 類 学	4	
中 国 語 F	2		民 間 信 仰 論	4	
ス ペ イ ン 語 F	2		日 本 宗 教 文 化 史	4	
ロ シ ア 語 F	2		民 衆 宗 教 成 立 史	4	
英 語 LLII	2		歴 史 哲 学	4	歴史学科を除く
ド イ ツ 語 FLL	2	初級・中級	日 本 民 俗 学	4	国文・歴史学科を除く
フ ラ ン ス 語 FLL	2	初級・中級	美 術 史 概 説	4	国文・歴史学科を除く
中 国 語 FLL	2	初級・中級	東 洋 思 想 研 究	4	国文学科を除く
ス ペ イ ン 語 FLL	2	初級・中級	日 本 仏 教 史	4	歴史学科を除く
ロ シ ア 語 FLL	2	初級・中級	日 本 文 化 史 I	4	国文・英米文・歴史学科を除く
英 語 (海外演習)	2	※			

※ 「英語 (海外演習)」は、ハワイ大学およびカリフォルニア大学で行われる短期留学サマーセミナーで、1年次生より履修できる。なお、詳細については、講義内容 (P. 79) を参照のこと。

(注意) 「歴史哲学」は「歴史思想史」を、「民衆宗教成立史」は「民衆仏教成立史」を名称変更したものである。

○ 外国人留学生対象の随意科目「日本語F」について (1年次生より履修できる。)

イ. 1年次生は、学年始めに実施する「日本語テスト」の結果により「日本語F」科目を指定するので、その指定された科目を履修すること。

ロ. 2次生以上の学生もできるだけ履修することが望ましい。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 語 F (I)	2	基 礎 1	日 本 語 F (IV)	2	応 用 2
日 本 語 F (II)	2	基 礎 2	日 本 語 F (V)	2	演 習
日 本 語 F (III)	2	応 用 1			

7. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目 (受験しなかった科目を含む) を翌年度に再度履修することをいう。この場合、授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。(休学の場合も同様)

- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。
- ニ. 外国語（英米文学科の3Aは除く）・体育実技Ⅰ（59年度以前入学生は体育実技）・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」(本校で授業を行う)で履修すること。
ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

8. 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部、学科番号は「学生番号（P. 59参照）」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人文分野		1（必修）・2（選択）
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	2
外国語科目	2	
保健体育科目	4	
実技		1
講義		2
専門教育科目	5	
必修科目		1・2・3
選択科目		5・6・7・8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3・4・5・6・7・8

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	15科目	——
2年次	14科目以内	17科目以内
3年次	14科目以内	17科目以内
4年次	1科目以上	

- イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ，随意科目は，上記表の制限外とする。
- ロ. 外国人留学生を対象とする随意科目「日本語 F (I~V)」は，1年次生より履修することができ，上記表の制限外とする。
- ハ. 4年次生は最低1科目以上とし，最高制限を設けないが，卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。
- ニ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

- イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること。）
- ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。
- ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。
- ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。
- ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。
- ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月 曜 日				
	授 業 科 目	科 目 コ ー ド	担 任	担 任 コ ー ド
一 時 限	ド イ ツ 語 1 G	212201	百 済	879
	~~~~~			
二 時 限	保健体育理論(前期)	214201	長 濱	A10
	保健体育理論(後期)			622
~~~~~				
三 時 限	宗 教 学 I	210101	平井(俊)	735
~~~~~				
四 時 限	論 理 学	210203	國 嶋	306
	~~~~~			
五 時 限	自 然 科 学 概 論	210401	宇和川	104
	~~~~~			

正しい記入例

曜 日	時 限	再 履	科 目 名	科 目 コ ー ド	担 任	担 任 コ ー ド	
月    (1)	1		ド イ ツ 語 1 G	2 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9	
	2		保健体育理論(前期)	2 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0	
	3		宗 教 学 I	2 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5	
	4	○		論 理 学	2 1 0 2 0 3	國 嶋	3 0 6
	5			自 然 科 学 概 論	2 1 0 4 0 1	宇和川	1 0 4

- イ. 楷書体で正確に記入すること。
- ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
- ハ. 授業時間表のとおり記入すること。
- ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段・後期終了科目は下段に記入すること。
- ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
- ヘ. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
- (1) 科目名・科目コード、担任名・担任コードが一致しない場合
  - (2) 時限を誤って記入した場合
  - (3) 間違い易い数字で記入した場合(例 0と6, 1と7)
  - (4) その他、不明瞭に記入した場合
- ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
- チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
- リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

### 3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

#### 国文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学，基礎国文学，基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読Ⅰ（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から4科目選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	4
1年次履修制限科目数			15

#### 英米文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論，基礎英語ⅠA，ⅠB（必修）	3
5	一般教育科目	人文分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野：開講科目の中から1科目を選択必修	1
1年次履修制限科目数			15

## 地理学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎自然地理学, 基礎人文地理学 (必修)	2
5	一般教育科目	人文分野: 開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野: 開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

## 歴史学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野: 開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

## 社会学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉概論, 心理学概論 (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修 社会分野 } 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	5
1年次履修制限科目数			15

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月から2月にかけて実施される。
- ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担任名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとじた上で提出すること。  
なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。  
(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目によって担任者が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### I) 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

#### II) 再試験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。  
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

#### III) 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習、その他実験実習を伴う科目は追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担任教員に申し出て指導を受けること。

#### 4. 受 験 心 得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペン又はボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意をすること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意をすること。
  - (1) 代人として受験したり、又は代人受験を依頼すること。
  - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
  - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机、壁等への書き込みを利用すること。
  - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
  - (5) 私語及び動作、メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
  - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
  - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
  - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部窓口にて手続きをすること。

#### 5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。  
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良(70点)以下とする。

#### 6. 試 験 時 間

定期試験実施時間（前期・後期とも）		追(再)試験実施時間(前期)	追(再)試験実施時間(後期)
1時限 9：30～10：30	4時限 14：30～15：30	1時限 16：10～17：00	1時限 9：30～10：20
2時限 11：00～12：00	5時限 15：50～16：50		2時限 10：50～11：40
3時限 13：00～14：00	6時限 17：10～18：10	2時限 17：10～18：00	3時限 13：00～13：50
			4時限 14：10～15：00
			5時限 15：20～16：10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.63）ので参照のこと。

## VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

○ 注意進級とは、進級の基準単位数に達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。

これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。

○ 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が、13単位以上不足している場合。

進級規程が掲載されている（P.65）ので参照のこと。

## Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。
- ロ. クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

## Ⅷ 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得の課程・講座は、教職課程、学校図書館司書教諭講座、博物館学講座、社会福祉主事講座および社会教育主事講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、博物館学、社会福祉主事および社会教育主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会教育の場として十分に利用され、その目的、使命を達成する博物館、社会福祉を増進させるための機関等および青少年に対して行われる組織的な教育活動である教育施設の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。（授業科目の講義内容は当該履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

開講されている課程・講座

課 程 ・ 講 座 名	備 考
教 職 課 程	2年次より
学校図書館司書教諭講座	〃
博 物 館 学 講 座	〃
社 会 福 祉 主 事 講 座	〃
社 会 教 育 主 事 講 座	〃

## IX 事務取扱いについて

### 1. 成績発表・成績証明書

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年度生以外は原則として発行しない。

### 2. 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～10:30	10:40～12:10	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

### 3. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

### 4. 休 講

- イ. 休講は担任教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口に申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、国電（山手，中央，京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

### 5. 掲 示

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

### 6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定，休講，授業，学籍，試験，成績，その他）は，間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは，必ず登校のうえ，掲示板を見るか，関係事務室窓口で問い合わせること。

## X 学籍について

### 1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことで、本学の修業年限は4年である。
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有していられる期間のことで、本学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

### 2. 休学

傷病その他の理由で引き続き2カ月以上修学することができない者は、その理由を付して、保証人連署の休学願を提出し、許可を得て休学することができる。

#### I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
  - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
  - (2) 外国で修学する場合は修学先・修学目的・在留期間を証明する書類
  - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2カ月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

#### II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1カ年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4カ年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

#### III) 休学する場合の学費

休学を願ひ出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学費
4月1日～9月30日	前期分納入済のこと。(後期分免除)
10月1日～11月30日	前期分・後期分共納入のこと。

#### IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

### 3. 復学

- イ. 休学者が復学する場合は、前期学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月7日までに提出し、許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

#### 4. 退 学

傷病その他やむを得ない理由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し、許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を明記し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日については、次のとおりとする。

(1) 当該期学費納入者……退学願提出日

(2) 当該期学費未納者……学費納入済学期の最終日

#### 5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納入を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

#### 6. 懲 戒

イ. 本学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

#### 7. 再入学

本大学を中途退学した者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可する。

イ. 退学後3年以内の者に限る。(出願時を基準とする。)

ロ. 在学年数が、従前在学の期間と、再入学後卒業までの期間の通算が7年以内で修業できる見込みの者。

ハ. 1年次在学中に退学した者、除籍者および退学処分者は対象としない。

ニ. 再入学志望学科は、従前在学の学部・学科であること。

ホ. 再入学の年次は、退学時の年次(進級可能な場合は進級年次)とし、従前在学中に取得した単位は原則として認定する。

#### 8. 編入学(学士入学)

本大学卒業者(卒業見込者)で卒業学部他学科または他学部学科の3年次または2年次に編入学を希望する者のあるときは、欠員のある場合に限り、選考の上入学を許可する。

イ. 3年次編入を出願していても、志望学科の単位認定の結果、2年次に入学を許可することがある。

ロ. 3年次または2年次に編入学を許可された者は、既に、それぞれ2年または1年の在学年数を経たものとする。

## 9. 転部・転科

本学の学生で、同一学部の他学科または他の学部学科に転科若しくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。(学科により異なる。)

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

## 10. 学生氏名・保証人

- イ. 届け出の学生氏名は戸籍抄本または外国人登録済証明書に記載されたとおりとする。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本学在学中一貫して通称名を使用することとし、本学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は日本国内に在住する親権者若しくはそれに準ずる者で、独立の生計を営む成年者とし、在学中の一切の事項について保証する者とする。
- ホ. 学生・保証人の氏名・住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

## 11. 学生番号

- イ. 昭和62年度より、従来使用していた学生番号(8桁)を改め新規の学生番号を設定する。
- ロ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ハ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

### 学生番号区分

⋮	⋮	⋮	┌──────────┐		
学	学	入	一		
部	科	学	連		
		西	年		
		年	曆		
		度	番		
			号		

### 学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

(例) 1987年度入学・文学部国文学科12番の場合

2	1	7	0	1	2
⋮	⋮	⋮	┌──────────┐		
文学部	国文学科	一九八七年入学	12番		

## XI 既修得単位の認定について

### イ. 新たに第1年次に入学した者の既修得単位の認定

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者については、学則第30条の2により、従前在学した大学等において既に修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本学において修得した単位として認定することができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、入学した年度の4月3日までに既修得単位認定申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願出しなければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

### ロ. 編入学生の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位に算入される。

### ハ. 再入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位については、再入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

### ニ. 転部・転科者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位に算入される。

この単位認定については、昭和62年度新入生、編入学者、再入学者および転部・転科者から適用する。

## XII 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領 (必要書類)	本人印	保証人印	取扱窓口	
届 書	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所定用紙あり。</li> <li>・ 各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること。</li> </ul>	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所定用紙あり。</li> <li>・ 本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示参照)</li> </ul>	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所定用紙あり。</li> <li>・ 掲示板にて指示。</li> </ul>	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所定用紙あり。</li> <li>・ 戸籍抄本添付。</li> <li>・ 変更後1週間以内。</li> </ul>	要	不要	⑤
	本籍地変更届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所定用紙あり。</li> <li>・ 戸籍抄本添付。</li> <li>・ 変更後1週間以内。</li> </ul>	要	不要	
	保証人変更届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所定用紙あり。</li> <li>・ 在学誓書(保証書)添付。</li> <li>・ 変更後1週間以内。</li> </ul>	要	要	
	保証人住所変更届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所定用紙あり。</li> <li>・ 変更後1週間以内。</li> </ul>	要	不要	
	死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所定用紙あり。</li> <li>・ 死亡診断書添付。</li> </ul>	/	要	
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所定用紙あり。</li> <li>・ 傷病による場合は、医師の診断書添付。</li> <li>・ 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在学期間を証明する書類。</li> <li>・ その他の場合は、保証人連署の理由書。</li> </ul>	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所定用紙あり。</li> <li>・ 傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付。</li> <li>・ 4月7日までに提出すること。</li> </ul>	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所定用紙あり。</li> <li>・ 学生証添付。</li> </ul>	要	要	

### XIII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	1通 100円  (英文証明書) 1通 300円)
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

## 試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

### （目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

### （試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

### （試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
- (2) 追加試験（以下「追試験」という。） 病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
- (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
- (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。

2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。

3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。

- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
- (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
- (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

### （試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

### （試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

### （受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

## 附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

# 進 級 規 程

(昭和51年4月1日制定)

昭和62年2月23日改正

## (目 的)

第1条 この規程は、駒沢大学学則第14条に基づき、学生が上級学年に進級するために必要な修得単位数の基準を定めることを目的とする。

## (進級基準単位数)

第2条 学生が上級学年に進級するときは、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得していなければならない。

- (1) 1年から2年に進級するときは、30単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年に進級するときは、60単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年に進級するときは、仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、経済学部第2部、法学部第2部、経営学部第2部においては90単位以上、法学部においては99単位以上を修得していること。ただし、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の所要単位をすべて修得していなければならない。

## (注意進級基準単位数)

第3条 前条の規定にかかわらず、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得しているときは、本人に注意を喚起し、上級学年への進級を認めることができる。

- (1) 1年から2年への進級を認めるときは、20単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年への進級を認めるときは、経営学部及び経営学部第2部においては48単位以上、他の学部においては50単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年への進級を認めるときは、次に掲げる条件の一に該当していること。

ア. 仏教学部、文学部、法学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

イ. 経済学部及び経済学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が16単位以下であること。

ウ. 法学部においては、99単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

エ. 経営学部においては86単位以上、経営学部第2部においては84単位以上を修得し、かつ、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

## (原 級)

第4条 修得単位数の合計が、注意進級基準単位数に達しない者は、原級に留め置くものとする。

## 附 則

### 省 略



## 講 義 内 容 目 次

一般教育科目（共通）.....	(70)
保健体育科目（共通）.....	(75)
随 意 科 目（共通）.....	(76)
国 文 学 科.....	(80)
英 米 文 学 科.....	(90)
地 理 学 科.....	(99)
歴 史 学 科.....	(108)
社 会 学 科.....	(122)
教職および資格講座.....	(137)



一般教育科目（共通）

人文分野	
宗教学Ⅰ（佐々木 宏幹）	70
宗教学Ⅰ（洗 建）	70
宗教学Ⅰ（山岡 隆晃）	70
宗教学Ⅰ（脇本 平也）	70
宗教学Ⅰ（再クラス）（岡部 和雄）	70
宗教学Ⅰ（再クラス）（奈良 康明）	70
宗教学Ⅱ（青龍 宗二）	70
宗教学Ⅱ（峰岸 孝哉）	71
宗教学Ⅱ（河村 孝道）	71
宗教学Ⅱ（若月 正吾）	71
宗教学Ⅱ（石井 修道）	71
哲学（円谷 裕二・久保 陽一）	71
論理学（小宮山 隆・丸山 豊樹）	71
歴史学（広瀬 良弘）	71
文学（田中 徳定）	72
芸術学（日本美術）（林 良一）	72
芸術学（西洋美術）（宮崎 克己）	72
社会分野	
法学憲法（和知 恵一）	72
法学憲法（鷓徳 啓登）	72
経済学（前期）（渡辺 和則）	72
（後期）（荒木 勝啓）	
政治学（小林 正敏）	72
社会学（岡田 真）	73
文化人類学（加藤 正春）	73
地理学（渡邊 盾夫）	73
地理学（矢野 陽子）	73
自然分野	
自然科学概論（宇和川 正人）	73
自然科学概論（斎藤 浩三）	73
数学（斎藤 浩三）	73
生物学（清水 善和）	74
生物学（山村 靖夫）	74
心理学（天野 珠子）	74
心理学（坂原 明）	74
人類学（中島 寿雄）	74
地学（宇和川 正人）	74
化学（高木 正博）	74
物理学（篠原 正雄）	74

保健体育科目（共通）

保健体育理論（森本 葵）	75
保健体育理論（田中 佳孝）	75
保健体育理論（村松 誠）	75
保健体育理論（再クラス）（三幣 晴三）	75

保健体育理論（再クラス）（森本 葵）……………75

随意科目（共通）

宗教学特講Ⅰ（松田 文雄）	76
宗教学特講Ⅱ（脇本 平也）	76
宗教学特講Ⅲ（洗 建）	76
哲学特講Ⅰ（東洋）（篠原 壽雄）	76
哲学特講Ⅱ（西洋）（國嶋 一則）	76
宗教学人類学（佐々木 宏幹）	76
民間信仰論（谷口 貢）	76
日本宗教文化史（脇本 平也）	76
民衆宗教成立史（洗 建）	77
歴史哲学（山下 太郎）	77
美術史概説（林 良一）	77
東洋思想研究（船津 富彦）	77
日本文化史Ⅰ（有元 修一）	77
日本仏教史（広瀬 良弘）	77
日本民俗学（山折 哲雄）	77
英会話Ⅱ（J.ウエルズ・J.G.ギャリソン・ T.J.コーガン・P.A.ベンディネリイ）	77
英語LLⅡ（T.J.コーガン・見上 晃）	77
ドイツ語F（吾妻 雄次郎）	78
ドイツ語FLL（初級）（小林 佳世子）	78
ドイツ語FLL（中級）（野島 利彰）	78
フランス語F（佐伯 隆幸）	78
フランス語FLL（初級）（松岡 宏一）	78
フランス語FLL（初級） （マドレーヌ・マルタン）	78
フランス語FLL（中級） （マドレーヌ・マルタン）	78
中国語F（釜屋 修）	78
中国語FLL（初級）（果 荃英）	79
中国語FLL（中級）（羅 濂明）	79
スペイン語F（佐藤 玖美子）	79
スペイン語FLL（初級）（ホワン・ナバロ）	79
スペイン語FLL（中級）（ホワン・ナバロ）	79
ロシア語F（杉山 秀子）	79
ロシア語FLL（初級）（タチアナ・野村）	79
ロシア語FLL（中級）（タチアナ・野村）	79
英語（海外演習）	79

# 一般教育科目(共通)

## 人文分野

### 宗教学 I

佐々木 宏 幹

人類の文化における宗教の位置について考察するとともに宗教・呪術の人間・社会にとっての意味や役割について、宗教学者たちの理論・学説を手掛りに説明する。日本人の宗教の特質を他国のものと比較しつつ考察する。また仏教の基本的思想と社会的性格について検討する。  
〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

### 宗教学 I

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）  
¥2,000

### 宗教学 I

山 岡 隆 晃

宗教は人類に普遍的な文化現象であるとの認識に立ち、宗教の社会的な意味や構造・機能について概観する。さらに、宗教文化の基層をなしているシャーマニズムなどの諸信仰や外来宗教としての仏教、及び両者の関係など、わが国における宗教現象の個別的問題についても考えてみたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）  
〔参考書〕『シャーマニズム』（中公新書）  
『日本宗教』（大明堂）

### 宗教学 I

脇 本 平 也

人間生活のあるところには必ず何らかの形の宗教現象が見られる。これは古今東西を通じて変らぬ一つの事実である。それでは、宗教はいかにして始まったのか、その歴史はどのように展開したか、また宗教にはどのような種類のものがあるか、といった疑問が続いて出てくることになろう。これらの疑問にできるだけ体系的に答える努力を試みたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）  
〔参考書〕脇本平也『宗教を語る』（日新出版）

### 宗教学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）  
『仏教の歩んだ道 I』（東京書籍）

### 宗教学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）  
『仏教のおしえ』（東京書籍）

### 宗教学 II

青 龍 宗 二

この講座は「宗教学 I」のあとをうけて、「禅仏教」を取り扱う科目であるが、特に禅思想を中心として、我々自身の人間形成にどのような関わり合いをもっているかを考え、併せて日本文化と禅との関連をも言及してゆく。

## 宗 教 学 II

峰 岸 孝 哉

この宗教学IIは、宗教学Iを学んだ後を承けて、中国で成立し、大なる展開をとげた禅仏教の解説を内容としている。まずインド、中国、日本の禅仏教の歴史をたどり、その思想と行動の特色について考えてみる。とりわけ日本文化に与えた影響や、今日の意味については特に注意して考えたい。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学II』（更生社）  
〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

## 宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違についての理解、禅仏教の立場の思想的理解、および宗教（禅）と人生との関り合いと、そこからの種々の問題について考察する。

〔参考書〕 『宗教学II』（更生社）  
『宗教学ハンドブック』（世界書院）

## 宗 教 学 II

若 月 正 吾

昭和の初期、和辻哲郎博士の「沙門道元」によって近代における道元禅師の日本精神史上の位置づけがなされ、続いて秋山範二氏の「道元の研究」さらには田辺元博士の「正法眼蔵哲学私観」の著書によって、道元禅師の研究は学界の注目するところとなった。

道元禅師の著「正法眼蔵」の研究は戦後ますます旺んになったが、その内容はまことに難解とされている。

「正法眼蔵随聞記」は禅師の弟子懷昇禅師が親しく随侍した間に、教えを聞くに随って書きとめたもので、正法眼蔵研究の手がかりとなる好個の書である。随聞記を講読することによって、道元禅師の思想ならびに禅とは何かということを探索してみたいと思う。

〔教科書〕 大久保道舟校註『正法眼蔵随聞記』（山喜房佛書林）¥1,000

## 宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行われている宗教学IIとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Iの後を承けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ科目である。インドからやって来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重ん

じているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを重要課題とするので、第二は禅でいう自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学II』（更生社）  
¥1,950

## 哲 学

円 谷 裕 二 ・ 久 保 陽 一

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

## 論 理 学

小 宮 山 隆 ・ 丸 山 豊 樹

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

## 歴 史 学

広 瀬 良 弘

文化の成立および展開、寺社が持った社会的な機能、社会慣習と法との関係など、日本の中・近世社会をさまざまな角度から分析することにより、歴史の流れを把握する力、すなわち、“歴史を見る目”が養われるようつとめたいと思う。

〔参考書〕 授業中に随時指示。

## 文 学

田 中 徳 定

説話文学、昔話・民話の世界が捉えた人間像とその周辺について考える。また、中世の説話文学に題材を求めた芥川龍之介の文学作品について、説話文学と比較検討を行い、芥川の追求したものについて考えていく予定。

〔教科書〕『羅生門・鼻』（新潮文庫）¥ 240

## 芸 術 学（日本美術）

林 良 一

日本美術の古代より近世までの様式的展開ならびに全般を通しての芸術的特色について講述する。なお、現地撮影の遺構および作品のカラーズライドにより、理解を深めるよう努める方針である。

## 芸 術 学（西洋美術）

宮 崎 克 己

ヨーロッパの中世から現代までの美術を考える。各地域、各時代の絵画、彫刻、建築の代表的名作を選んで、掘り下げて論ずる。西洋の美術作品の基本的な見方を修得する事を目標とする。

受講者には、適宜、美術館、展覧会の見学、およびレポートの提出を要求する。

## 社 会 分 野

### 法 学 憲 法

和 知 恵 一

我々の日常生活は法と密接に関わり合っている。例えば、本屋さんで週刊誌を買う行為は、「売買契約」という民法555条以下の規定で律される。映画を見る・電車に乗るといった行為も同様に、すべて法的な側面を持っている。

天ぶらを揚げていて火事を出してしまうということがあるが(S.59年の東京都では6964件の火事のうち529件が天ぶら油による火災)、この火事を出したことで、どんな刑罰が科されるのか、また隣家を焼失させてしまった損害の賠償はどうすべきか？

こういった具体的事例を多数挙げて講義を進める。

〔教科書〕 小林・高橋・花井・和知著『事例法学入門』（東京教学社）、

『ポケット六法』（有斐閣）

〔参考書〕 小林弘人他著『憲法27講』（創成社）

橋本辰夫編著『ケースメソッド現代法学入門』（圭文社）

### 法 学 憲 法

鷓 徳 啓 登

よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学である。法に共通する根本的な理念は何か、法の目的は何かなど、法を研究する場合にどうしても解明しなければならぬ問題がある。

また憲法は、国家の基本法として他の諸々の法令の根幹をなすものであり、人権と統治機構よりなる。そして現代にいたっては、社会状況の変化に伴い新しい人権といわれるものの研究もなされている。

そこで、本講義では、これらのテーマを中心にまず一通り法学をやり、つぎに法の中でもその中枢をなす憲法の理念や原則などについて説明してゆきたいと思う。

〔教科書〕『憲法27講』（創成社）¥ 2,500

〔参考書〕『事例法学入門』（東京教学社）  
¥ 1,700

『ケースメソッド現代法学入門』（圭文社）¥ 1,800

### 経 済 学

（前期）渡 辺 和 則 啓  
（後期）荒 木 勝 啓

教養の経済学として最低限必要なマクロ経済理論を講義する。予定は次の通りである。

- |              |      |
|--------------|------|
| 1. 貨幣数量説     | } 前期 |
| 2. 国民所得決定の理論 |      |
| 3. 乗数理論      |      |
| 4. IS・LM分析   | } 後期 |
| 5. 経済政策の効果   |      |
| 6. 総需要・総供給分析 |      |

〔参考書〕 中谷 巖『入門マクロ経済学』（日本評論社）

### 政 治 学

小 林 正 敏

現代政治学の諸領域を、政治理論、政治集団、政治機構等にわたって系統的に論述する。特に社会学科の政治学であることを考慮して、政治社会学、政治心理学的な

視点を重視したい。

〔教科書〕 高橋正則他著『現代日本の政治構造』  
(芦書房)

## 社会学

岡田 真

社会学という学問のもつ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものである。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係的現象、集团的現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書・参考書〕 授業の際に指示する。

## 文化人類学

加藤正春

文化人類学の基礎的概念、方法、理論等を講義する。各地の民族の具体的な生活事実をできるだけ紹介しながら、人類文化の多様性と、この学問の基本的視点の理解に努める。日本の伝統的社会・文化の紹介もおこなう。

## 地理学

渡邊盾夫

ここでは、人文地理学を中心とし、地理学史、自然環境、この自然環境の中で人間がどのように適応して活動をしているのかを講義する。

講義では、特に教科書は使用しないが、必要な時にはプリントを配布する。

## 地理学

矢野陽子

地球上最大の大陸と最大の大洋の間に位置する日本列島は、複雑な自然に富み、地震・火山噴火・集中豪雨・台風等多くの天災に見舞われながらも、今日の発展を日本国民にもたらしています。

本講では、この発展の母体である日本列島の自然と人間生活について地誌的立場から、日本全域を対象として地域の本質(地域的特性)を明らかにしたいと思います。

〔教科書〕 『日本地誌』〔改訂増補版〕¥1,900  
地図帳使用。

## 自然分野

### 自然科学概論

宇和川 正人

自然環境と資源、とくに、水資源、農林海洋、エネルギー資源の諸問題について解説する。あわせて、これら資源の開発利用と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔参考書〕 その都度紹介する。

### 自然科学概論

斎藤 浩三

わが国においては、大規模な工業化と急速な都市開発が進展しており、エネルギーの大量消費や人口の都市集中にともなって各種の環境問題が深刻になっている。その様相も複雑化・多様化しつつあって、有害物質による汚染のほかに、感覚公害も社会生活に大きな障害を与えるようになった。さらに汚染は国内だけでなく、遠隔地の海洋・河川・大気にもまで拡散してきて、国際規模での改善対策が急務となってきた。そこで環境破壊や自然災害の実態をさぐり、さらに公害防止技術についても平易に解説する。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

### 数 学

斎藤 浩三

科学、技術、産業、経済、社会などあらゆる分野において、膨大な量のデータが氾濫している。これらのデータを統計的手法によって整理・集約し、図表化することによって、はじめて情報として役に立つようになる。データの集計・整理、図表の作成、集団の特性、相関、分布、検定、推定、標本調査などの基本事項について、随時演習を行いながら講義する。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

## 生 物 学

清 水 善 和

複雑多岐にわたる生物学の各分野の内容を、生命の起原から人類の誕生までの生物進化の流れに沿って配列し直し、進化の概念で統一・大系化された生物学の基礎知識の修得をめざす。また、折りにふれて、遺伝子組換えや脳死などの現代的な問題にも言及する。

〔参考書〕 小野幹雄ほか『バイオサイエンス』（芦書房）

## 生 物 学

山 村 靖 夫

生物の進化、生命の維持、遺伝のしくみ、植物や動物の生活などの生命科学の基本的なことから解説し、遺伝子操作、がん、様々な環境汚染など、人間の健康と人類の生存にかかわる今日の問題について考える。

〔参考書〕 『BIOSCIENCE 生命の科学』（芦書房）¥2,200

## 心 理 学

天 野 珠 子

この講座は、一般教養科目に組入れられているので、心理学を始めて学ぶ学生を対象に、心理学の基礎的分野のそれぞれについて概観し、現代心理学の理解と、日常生活への適用を捉えて行きたい。

心理学を学ぶことで、人間の行動や精神を客観的に把握することができると、社会生活における人間関係や物の見方が変わってくるものと思われる。従来の研究成果をもとに、具体的事例を紹介しながら講義を進めてゆきたい。

〔参考書〕 『心理学概説』（八千代出版）

## 心 理 学

坂 原 明

心理学の各分野を概観し、その基礎的知識を解説すると共に、今日、社会において心理学が担っている問題について考えてゆきたい。また、日常生活において見られる人間の様々な行動を従来の研究成果をもとに解説し、心理学的なものの方の見方、考え方がどのようなものであるかを考えてゆきたい。講義では、随時供覧実験などを折り込み心理学的研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

〔教科書〕 中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）

## 人 類 学

中 島 寿 雄

人類学の範囲はきわめて広く、短時間にその各項目を講ずるときは、表面をなでるだけの散漫なものになりがちなので、ここでは問題を「性」にしぼって講ずる。性は人類学上の重要な概念であるばかりでなく、人類学のほとんど全領域をおおいうものだからである。本学の人類学は一般教育の自然科学分野に属しているので、講義も自然科学的方面に主眼をおくことは勿論だが、ヒトの本質上、社会や文化にも言及せざるをえず、むしろ身体と文化との関連を考究させることこそ、人類学一般教育の目的に副うものというべきであろう。

〔参考書〕 講義中に随時指示する。

## 地 学

宇和川 正 人

気、水、地圏および生物圏を通じて人類とのかかわり合いを主軸にして解説する。あわせて、自然環境の保全に関する諸問題について考察する。

〔参考書〕 その都度紹介する。

## 化 学

高 木 正 博

まず、物質の本性について、原子の結びつきから解説する。つぎに、地球化学および環境汚染の視点から、化学物質と自然環境の関係や、人間とのかかわり合いについてのべる。

## 物 理 学

篠 原 正 雄

まず、物理学の出発点である力学の考え方を、「力」、「エネルギー」を中心に解説する。次に、電磁気、光、熱、原子等の分野について、地学的な応用にもふれつつ概説する。最後に、物理学の応用例として、宇宙物理学の成果にも触れたい。演習をおり混ぜつつ講義を行なう。

〔教科書〕 『一般教育物理学』（東京教学社）

¥1,500

# 保健体育科目(共通)

## 保健体育理論

森 本 葵

### 体力づくり

- <若年層における体力づくりの必要性>
- <体力のメカニズム>
- <体力づくりの方法>
- <体力づくりにかかわる疲労の問題>
- <疲労の判定法>

### オリンピックゲーム

- <歴 史>
- <問題点>
- <その将来>

〔教科書〕 『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕 『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

## 保健体育理論

田 中 佳 孝

日常生活及びスポーツ・レクリエーション時に於ける傷害の救急処置法。並びに健康な生活をする為に必要な栄養学的知識について、食物とビタミンを中心に講義を行なう。

## 保健体育理論

村 松 誠

健康とその意義について理解し、健康を阻害する因子を解明して、健康の保持増進の方策を学習する。さらに進んで健康のための体力づくりについても考えて行く。また、スポーツ・体育に関する基礎的、基本的な知識の習得と、現代における、スポーツ・体育の問題点について言及して行く。

## 保健体育理論（再クラス）

三 幣 晴 三

体育・スポーツに関する全般的知識、特に生涯体育、スポーツの文化的視点からの考察、人間の運動に関する実際の考察を中心とし、さらに現在および将来にむけての健康的内容を取りあつかう。

## 保健体育理論（再クラス）

森 本 葵

### 体力づくり

- <若年層における体力づくりの必要性>
- <体力のメカニズム>
- <体力づくりの方法>
- <体力づくりにかかわる疲労の問題>
- <疲労の判定法>

### オリンピックゲーム

- <歴 史>
- <問題点>
- <その将来>

〔教科書〕 『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕 『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

## 随 意 科 目 ( 共 通 )

### 宗教学特講 I

松 田 文 雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔参考書〕 随時指示する。

### 宗教学特講 II

脇 本 平 也

——宗教現象の構造——宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想・教義、儀礼、教団などの諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔教科書〕 脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』(日新出版)

### 宗教学特講 III

洗 建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係について考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

### 哲学特講 I (東洋)

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期是老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかを受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕 『荘子』〔第一冊〕(岩波文庫)

### 哲学特講 II (西洋)

國 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

### 宗教人類学

佐々木 宏 幹

宗教がある社会においてどのような意義と役割をもつかという問題を考察することを主眼としながら、宗教と人生観・世界観との関係、宗教儀礼の象徴的性格などについて、とくに言及したい。東南アジア・仏教文化圏の事例を多く用いる。

〔参考書〕 小口偉一編『宗教学』(弘文堂)  
¥1,300

### 民間信仰論

谷 口 貢

日本人の精神構造の基層を形成する民間信仰の性格と機能を、各地の具体的な調査事例を示しながら明らかにしていきたい。また、生活のリズムを構成する「ハレ」と「ケ」の相関を軸に、祭りの原点を追究し、民俗社会における年中行事や通過儀礼の諸相を考察したい。

〔教科書〕 桜井徳太郎著『民間信仰と現代社会』(評論社)

### 日本宗教文化史

脇 本 平 也

日本には、神道、仏教、キリスト教、民俗宗教、その

他さまざまな多様な宗教が並び行われている。しかし、それらすべての宗教を通じて、いわば日本宗教とでもよぶべき共通の特色が見られるのではあるまいか。そういう問題関心を軸としながら、日本宗教文化史の流れを探ってみたい。

〔教科書〕 堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）

### 民衆宗教成立史

洗 建

現代における民衆宗教、すなわち新宗教をめぐる諸問題について考察し、主要な新宗教を紹介する。

〔参考書〕 堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）  
¥2,000

### 歴史哲学

山 下 太 郎

歴史哲学は、歴史研究における意義、方法、目的、原理等を探究するものであり、実証的な歴史学の基礎をさぐる学問である。本講義はおおむね次のテーマに従って行ない、歴史の認識および存在についての基本的理解をえさせることを意図する。

#### 第1章 歴史認識の問題

(1)批判主義（カント） (2)新カント派（ヴィンデルバン  
ト） (3)生の哲学（ディルタイ） (4)実存哲学

#### 第2章 歴史原則の問題

(1)終末論的史観（キリスト教） (2)進化論的史観（ス  
ペンサー） (3)弁証法的史観（ヘーゲル、マルクス）  
(4)実存主義史観（ヤスパース）

### 美術史概説

林 良 一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

### 東洋思想研究

船 津 富 彦

広大な中国で長い年月をかけて、彼等が独自に創作した思想は、それ自体、貴重であるのみならず、日本や朝鮮、安南などの文化に大きな影響を与えている。今年度は主に古代中国の思想に重点をおいて概説し、さらに、そのテキスト、著者について考察をし、それが後世どの

ように受容されたかについて、彼等の代表的な文を参考にしつつ考えてみたい。

〔参考書〕 授業中に適時指示する。

### 日本文化史 I

有 元 修 一

日本文化の多様な流れを概観するとともにその特色をあきらかにする。本年は特に古代・中世を中心とする。

〔参考書〕 家永三郎著『日本文化史 第2版』（岩波新書）

### 日本仏教史

広 瀬 良 弘

本講座では仏教の歴史の流れを概観し、のちに中世後期から近世・近代にかけての仏教と当該期の社会・文化とのかかわりについて講述する。

〔参考書〕 参考史料は随時コピーして配布。

### 日本民俗学

山 折 哲 雄

柳田国男と折口信夫の民俗学について考察し、現代文化の諸相に光をあてる。

〔教科書〕 山折著『神と仏』（講談社新書）

### 英 会 話 II

J. ウェルズ・J. G. ギャリソン  
T. J. コーガン・P. A. ベンディネリ

全学で4クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担任名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

### 英 語 LL II

T. J. コーガン・見上 晃

英語LL I のアドバンスト・コースとして全学で2クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語LL I を履修しなかった学生も参加し履修できるようにしてあります。

担任名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

### ドイツ語 F

吾妻 雄次郎

主として一、二年次でドイツ語を履修した学生諸君を対象に、第二次大戦前後の短編小説を通して、ドイツの特異性の一端に触れ、同時にドイツ文法の更に包括的な習得につとめる。

〔教科書〕 プリントによる教材使用。

〔参考書〕 特に必要なし。

### ドイツ語 FLL (初級)

小林 佳世子

ビデオテープ等の視聴覚教材を用いて、まず、生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

### ドイツ語 FLL (中級)

野島 利彰

週一回という限られた時間内で、LLを通して語学を学ぶ方法としては基本的には多数の文章の記憶以外にはない。耳から音を聴き、記憶し、そしてそれを口から出す。こうした機械的な——時には無味乾燥な——練習の場としてこの授業を活用して行きたい。

なお受講者には前年度にFLI (初級) をとった者を望む。

〔教科書・参考書〕 教場で指示する。

### フランス語 F

佐伯 隆幸

やさしいフランス語の教材を読みつつ、現代のフランス社会、文学のこと、また演劇のことなどを日本と対照させつつ講ずる予定です。教科書に類するものは教場で指示します。

### フランス語 FLL (初級)

松岡 宏一

“Entrée Libre”を教材として用いる予定です。スライド画面とテープの音とを併用して、基礎的な表現能力を養成したいと思います。会話は、音を真似ることから始められなければならないので、積極的に授業に参加し、フランス語を聞いたり話することに慣れるようにして下さい。また、途中であきらめることなく、一年をとおして出席し、少しでも「フランス語」の中に入りこむことができるように、希望したいと思います。テキストは教場で配布します。

〔教科書〕 『Entrée Libre 1』

### フランス語 FLL (初級)

マドレーヌ・マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的な会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕 『Avec Plaisir』 Emission 1 より。

### フランス語 FLL (中級)

マドレーヌ・マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕 『Entrée Libre 1』

### 中国語 F

釜屋 修

すでに習得した中国語能力をいかしてより高く、より正確な中国語への理解力を高めるための共学の場である。最新の文学素材 (短篇小说, 評論文) を用いて文章解析力、朗読能力の向上に焦点をあてる。あわせて現代中国への理解の増進をも試みたい。

〔教科書〕 開講後に受講生諸君の希望も聞き選定する。

〔参考書〕 その都度指示する。

## 中国語 FLL (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 教場にてプリントを配布する。

## 中国語 FLL (中級)

羅 漾 明

中国語FLL初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。

〔教科書〕 必要に応じて教場でプリントを配ります。

## スペイン語 F

佐 藤 玖美子

スペイン文学とえば、誰もまず思い浮べるのはセルバンテスのドン・キホーテであろう。しかし、スペイン語を勉強する学生でも、この有名な作品を原文で読むものは案外少ない。本年度のスペイン語Fでは、現代語に書き改めたテキストを参照しながら、この世界の名著をできるだけ味わってみたいと思う。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 ハイメ・フェルナンデス著『ドン・キホーテへの招待』（西和書林）

## スペイン語 FLL (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履習している学生の受講を望みます。

## スペイン語 FLL (中級)

ホワン・ナバロ

前年度LL初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

## ロシア語 F

杉 山 秀 子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるための平易な読みもの——文学新聞の抜粋、諷刺漫画（クロコディル）、スポーツニクなどをさまざまな角度からとりあげていきたい。

〔教科書〕 プリントを教場で配布。

## ロシア語 FLL (初級)

タチアナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 教場にて指示。

## ロシア語 FLL (中級)

タチアナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

## 英語 (海外演習)

この授業科目は、ハワイ大学・カリフォルニア大学における短期留学サマーセミナーでの4週間・60時間における現地演習を中心として行われる、英語随意科目である。

受講対象学生は、1年次生から卒業年次生までとし、6月上旬から7月上旬にかけての事前指導・事前講習、7月中旬から8月中旬にかけての現地演習、9月下旬のテストを通じて単位（2単位）が認定される。

受講希望者は、5月上旬に実施される説明会に参加し、5月中旬に所定の手続に従って申込まれたい。受講の可否は、5月下旬に決定される。

# 国文学科

## 基礎教育科目

基礎国文学(田中 徳定).....	81
基礎国文学(高田 知波).....	81
基礎国文学(林 達也).....	81
基礎国語学(木村 晟).....	81
基礎中国文学(中村 璋八).....	81

## 専門教育科目

国文学概論(水原 一).....	81
国語学概論(木村 晟).....	81
国文学講読Ⅰ(村上 光徳).....	82
国文学講読Ⅱ(田中 徳定).....	82
国文学講読Ⅲ(富士 昭雄).....	82
中国文学講読(篠原 壽雄).....	82
国語学研究(山田 巖).....	82
国文学史(上代)(遠藤 宏).....	82
国文学史(中古)(高橋 文二).....	82
国文学史(中世)(牧野 和夫).....	83
国文学史(近世)(林 達也).....	83
国文学史(近代)(片岡 懋).....	83
国語学演習Ⅰ(木村 晟).....	83
国文学演習Ⅰ(上代)(小野 寛).....	83
国文学演習Ⅰ(中古)(高橋 文二).....	83
国文学演習Ⅰ(中世)(村上 光徳).....	83
国文学演習Ⅰ(近世)(林 達也).....	83
国文学演習Ⅰ(近代)(片岡 懋).....	83
国文学演習Ⅰ(近代)(高田 知波).....	84
国文学演習Ⅰ(近代)(橋本 芳一郎).....	84
国語学演習Ⅱ(山田 巖).....	84
国文学演習Ⅱ(上代)(小野 寛).....	84
国文学演習Ⅱ(中古)(高橋 文二).....	84
国文学演習Ⅱ(中古)(廣島 まさる).....	84
国文学演習Ⅱ(中世)(水原 一).....	84
国文学演習Ⅱ(中世)(村上 光徳).....	84
国文学演習Ⅱ(近世)(林 達也).....	84
国文学演習Ⅱ(近世)(富士 昭雄).....	85
国文学演習Ⅱ(近代)(片岡 懋).....	85
国文学演習Ⅱ(近代)(高田 知波).....	85
国文学演習Ⅱ(近代)(橋本 芳一郎).....	85
国文学研究(片岡 懋).....	85
国文学研究(橋本 芳一郎).....	85
国文学研究(村上 光徳).....	85
文学概論(橋本 芳一郎).....	85
国語史(木村 晟).....	85
言語学概論(飯島 周).....	85

上代文学講読(小野 寛).....	86
近代文学講読(高田 知波).....	86
上代文学(小野 寛).....	86
中古文学(廣島 まさる).....	86
中世文学(大隅 和雄).....	86
近世文学(林 達也).....	86
近代文学(畑 実).....	86
国文学特講Ⅰ(近藤 瑞男).....	86
国文学特講Ⅱ(岩佐 美代子).....	86
国文学特講Ⅲ(長谷川 政春).....	87
国文学特講Ⅳ(野中 雅行).....	87
中国文学(中村 璋八).....	87
中国文学演習(飯田 利行).....	87
中国文学概論(飯田 利行).....	87
仏教概論(山内 舜雄).....	87
東洋思想研究(船津 富彦).....	87
日本史概説Ⅰ(古代・中世)(杉山 博).....	87
日本史概説Ⅱ(近世・近代)(木槻 哲夫).....	87
日本文化史Ⅰ(有元 修一).....	88
書道史(谷村 義雄).....	88
書道実習Ⅰ(金子 卓義).....	88
書道実習Ⅱ(金子 卓義).....	88
美術史概説(林 良一).....	88
美術史(谷村 義雄).....	88
現代美術(宮崎 克己).....	88
編集実務(宇賀田 達雄).....	88
英米文化(荒井 良雄).....	88
日本民俗学(山折 哲雄).....	89

# 国 文 学 科

## 基礎教育科目

### 基礎国文学

田 中 徳 定

上代から近代に至る文学の史的展開を、具体的作品の「読み」を通して概説する。

〔教科書〕『資料日本文学史 上代—中古篇』（桜楓社）¥1,600

### 基礎国文学

高 田 知 波

日本文学における〈近代〉と〈前近代〉の連続と不連続の問題を中心にしながら国文学の基礎的な学習を深める。

〔教科書〕前田 愛編『日本文学新史 近代』（至文堂）¥1,500

### 基礎国文学

林 達 也

日本古典・近代文学の関連を見わたし、或いは、比較検討しながら、諸問題（作品論・表現論・歴史状況との関係・文体・解釈・考証・伝本など）に対する基礎的学力の確立を目的とする。具体的には、まず、和歌を素材にして見ていくこととする。

〔教科書〕古典研究会編『日本詩歌選』（改訂版）（新典社）¥800

### 基礎国語学

木 村 晟

国語を愛し、正しく育てるために十分な理解と批判力を養いたいと思う。併せて現代国語の諸問題をも採り挙げて考察する。

本年は日本語古典の文法を体系的に講義する。文法体系は現在最も一般的とされている橋本学説によるが、必要に応じて山田・時枝両学説を比較対照させることもある。

〔教科書〕塚原鉄雄著『新講古典文法』（新典社）¥1,200

〔参考書〕授業中に紹介する。

### 基礎中国文学

中 村 瑋 八

中国の先秦時代より唐・宋時代に至る散文・韻文、それに諸子百家を始めとする思想的な作品を歴史的な背景を考えながら解読し、それによって中国古典の読解力を養い、また、漢字の構成、中国の風土や習慣なども説明し、それらの中国の文化が如何に日本に伝来し、日本の文化一般に影響を及ぼしたかも述べて行く。この講義によって中国古典・日本の漢詩文が抵抗なく読めるようにしたい。

〔教科書〕『中国思想文学通史』（明治書院）¥1,500

## 専門教育科目

### 国文学概論

水 原 一

国文学の領域、種類、思想的・芸術的理念について講じ、研究課題・研究方法等について概観する。

〔教科書〕藤野義雄『日本文芸概論』（加藤中道館）

### 国語学概論

木 村 晟

国語学は特殊言語学の一つである。従って一般言語学の研究成果が国語学の研究にも応用されることが当然あ

り得る。しかしながら、一方国語には他の諸言語に見られない多くの特徴がある。そのために国語学独自の研究分野や研究方法が存することも事実である。——こういう観点から本年は国語学全般について講ずるとともに、文字論や文体論に重点を置く。

〔教科書〕 福島邦道著『国語学要論』（笠間書院）  
¥ 800

〔参考書〕 橋本進吉著『国語学概論』（岩波書店）  
時枝誠記著『国語学原論』（岩波書店）  
山田忠雄著『国語学概論』（日大通信教育部）

### 国文学講読 I

村上光徳

『平家物語』の代表的な句を選んで読み、本文を通して平家物語という作品を十分鑑賞する。そして軍記物語と呼ばれるジャンルの問題や平家物語の文学史的評価、または成立の問題、作者の問題、群がる諸異本の問題、つまり、語りもの・読みものなどの問題、今後の研究方向等さまざまな問題を取りあげて多方面から平家物語を研究してゆく。

〔教科書〕 『平家物語抄』（桜楓社）  
〔参考書〕 『平家物語全注釈』（角川書店）

### 国文学講読 II

田中徳定

『伊勢物語』を講読。解釈を行いながら、背景となった時代と作品の中に流れる精神世界のありようを考える。

〔教科書〕 片桐洋一校注『伊勢物語』（明治書院）  
¥ 980

### 国文学講読 III

富士昭雄

西鶴の町人物『世間胸算用』を講読し、西鶴文学の特質を考察する。

〔教科書〕 富士昭雄編『世間胸算用』（明治書院）

### 中国文学講読

篠原壽雄

古典文学作品中のきわめて代表的なものを学習して、その精華を味読する。訓読法に精通することを主眼にしたいが、韻文は中国音にて読むことにとめたい。

〔教科書〕 『詩文精粹』（明治書院）¥ 1,100  
〔参考書〕 その都度紹介したい。

### 国語学研究

山田巖

天草版平家物語は、天草版伊曾保物語、天草版金句集と合綴して文禄2年（1593年）天草のイエズス会学林で刊行されたローマ字文である。イエズス会の神父たちのための日本語教科書であったが、ローマ字書きであるために当時の話しことばを研究するには第一級の資料である。

古代語が近代語に変化する様相があざやかに見られる言語資料である。語法・音韻・語彙等について詳しく究明したい。

〔教科書〕 『天草版平家物語（上）』（勉誠社）  
¥ 1,500  
〔参考書〕 『ハビヤン抄キリシタン版 平家物語』（吉川弘文館）¥ 5,500

### 国文学史（上代）

遠藤宏

文学の発生からの上代文学の流れを講述する。

〔教科書〕 小野寛・金井清一編『年表資料 上代文学史』（笠間書院）

### 国文学史（中古）

高橋文二

単なる通史ではなく、例えば自然観の推移・展相を辿って王朝文学の流れの一端を明らかにしたい。『文華秀麗集』を始めとする漢詩集、『古今集』などの和歌集、さらには『蜻蛉日記』や『源氏物語』などの女流作家たちの日記・物語を通して、平安文学の流れの特質を考えたい。

〔教科書〕 『風景と共感覚』（春秋社）

## 国文学史(中世)

牧野和夫

中世の文化は、誠に混沌として懐の深いものである。従って、中世の文学も又興行きが深く、入り組んでいて、ある一人の人物や“場”を介することによって、全く無縁と考えられていた作品間相互に、思いもかけない緊密な交流が認められることも多い。そうした点について、諸資料に基づき、推量・臆測し、整然たる文学史の中に、「混沌」の息吹きを吹きこめれば、と考えている。

〔教科書〕 『資料日本文学史 中世篇』(桜楓社)  
¥1,600

## 国文学史(近世)

林達也

近世文学を、歴史状況との関連、表現論・文体論・作家論等にわたって検討する。昨年は初期俳諧史を見たが、本年は狂文、狂歌を中心にし、できれば、狂詩にも言及したい。教材は、とりあえず、下記のものとするが、必要に応じて、プリントをする。

〔教科書〕 『年表資料 近世文学史』(笠間書院)  
¥800

## 国文学史(近代)

片岡懋

明治、大正文学の流れを思潮や流派を中心に考察する。

## 国語学演習 I

木村 晟

室町期の国語資料である室町時代物語『弁慶物語』を採り挙げ、室町時代の音韻・語彙・語法・仮名づかいの各方面から考察する。『日葡辞書』『下学集』『節用集』等の古辞書の類は常に参照する。

〔教科書〕 大友信一他編『弁慶物語』(桜楓社)  
¥1,800

〔参考書〕 授業中に紹介する。

## 国文学演習 I (上代)

小野 寛

上代文学の演習では『万葉集』から作品を選んで、各自一首ずつ担当して、徹底的によみ込んでゆく。今年度は巻八から歌を取り上げる。

〔教科書〕 鶴久・森山 隆編『万葉集』(桜楓社)  
〔参考書〕 小野 寛校註『万葉集抄』(笠間書院)

## 国文学演習 I (中古)

高橋文二

『源氏物語』の「幻」の巻を読み、王朝文学世界の特徴を考える。古注釈の検討、本文の異同の確認、用語の通時的・共時的調査などを演習に臨む基礎的な作業とする。作業は、時間をかけた、厳密なものでありたいので、それなりの覚悟をもって臨んでいただきたい。

〔教科書〕 『源氏物語(4)』(岩波文庫) ¥500  
『まぼろし』影印本 (新典社)

## 国文学演習 I (中世)

村上光徳

『無名抄』の研究。とくに歌論・歌学に関する研究を中心とする。六条源家の流れを受けている長明が当時の歌壇をどううけとめていたのか、また作歌態度等も考える。

〔教科書〕 『方丈記・無名抄』(双文社)

## 国文学演習 I (近世)

林 達也

細川幽齋が折にふれて述べたことを、烏丸光広が筆記した『耳底記』を読む。幽齋は、中世と近世が接するところに位置する歌人・古典学者であり、当代に大きな影響を及ぼしている。丁寧に読みとり、和歌及び歌壇の傾向だけでなく、この時代の考え方もも見ていきたい。尚、教材は、版本をプリントしたものを用いる。参考資料等もその都度指示する。前年度に引き続き部分からよみはじめる。

## 国文学演習 I (近代)

片岡 懋

国木田独歩(源叔父、河霧、酒中日記、女難、窮死)、夏目漱石(永日小品、硝子戸の中)、森鷗外(かのよう

に、阿部一族、高瀬舟)、志賀直哉(荒網、范の犯罪、  
兒を盗む話、赤西蠣太)、内田百閒(冥途)、堀辰雄(塙  
家族、風立ちぬ、菜穂子)、中野重治(砂糖の話、村の  
家、歌のわかれ、空想家とシナリオ)、岡本かの子(河  
明り、鯨、東海道五十三次)、壺井栄(大根の葉、暦、  
襦袢)などの作家、作品を中心に演習を行う。

### 国文学演習Ⅰ(近代)

高田知波

演習のテーマは樋口一葉。一葉の代表作は「奇蹟の十  
四ヶ月」と呼ばれる時期に集中しているが、この時期に  
書かれた主要作品を丁寧に読んでいく。幸田弘子による  
朗読テープも活用する予定である。

〔教科書〕 木村貞佐幸編『樋口一葉』(桜楓社)  
¥1,800

### 国文学演習Ⅰ(近代)

橋本芳一郎

「鷗外・漱石」……森鷗外・夏目漱石の両文豪の作品  
の中から、発表者の希望する作品について演習として攻究  
し、近代文学の研究法を学ぶ。

〔教科書〕 各自手持ちのもの。(文庫本でも可)  
〔参考書〕 その都度教示する。

### 国語学演習Ⅱ

山田 巖

一百座間書抄は法華経を中心に仏典が講じられたとき  
の聞書である。院政時代の言語資料として貴重なもので  
あるが、ほぼ同時の打聞集、極楽願往生歌と比較参照し  
ながらこの時代の語法を究めたい。同時に影印本によっ  
て片仮名の字体がどうであったか、この三つの資料を比  
較して究明したい。

〔教科書〕 『法華修法一百座間書抄』(勉誠社)  
¥900

### 国文学演習Ⅱ(上代)

小野 寛

上代作品を徹底的によく読んでゆく。万葉集巻一を対  
象とする。並行して、各自が卒業論文に選んだテーマに  
関して研究発表し、みんなで考え、揉み合いながら、そ  
れぞれの卒業論文への結実を図る。

### 国文学演習Ⅱ(中古)

高橋文二

『枕草子』を読み、王朝女流文学の特質を考える。卒  
論の指導も兼ねる。

〔教科書〕 『枕草子』(校注古典叢書)(明治書院)  
¥980

### 国文学演習Ⅱ(中古)

廣島まさる

影印本によって、変体かなの読み方に馴れると共に、  
源氏物語の文章を精読して、文章表現、情調、人物描写  
などについて吟味する。なお古註釈の使用にもなじみ  
たい。

〔教科書〕 源氏物語『賢木』影印本(新典社)  
『写本の読み方』(桜楓社)

### 国文学演習Ⅱ(中世)

水原 一

南朝の説話集として編述された『吉野拾遺』を教材と  
して、演習を行なう。併せて卒業論文作成につき指導助  
言する。

〔教科書〕 授業時に指示する。

### 国文学演習Ⅱ(中世)

村上光徳

承久記の研究。とくに古本と考えられている慈光寺本  
を中心に他の諸本と対校し、慈光寺本の特色・作品とし  
ての本書を検討する。

〔教科書〕 『承久記・慈光寺本』影印(桜楓社)

### 国文学演習Ⅱ(近世)

林 達也

上田秋成の「春雨物語」の演習。「春雨物語」は研究  
史が新しく、解釈上にも、本文上にも、さまざまな問題  
が残っている。丁寧に読み解いていきたい。あわせて、  
卒業論文の指導を行なう。

〔教科書〕 森田喜郎編校注『春雨物語』(笠間書院)

### 国文学演習Ⅱ（近世）

富士 昭雄

影印本による西鶴など近世小説の演習。併せて卒業論文の指導をする。

〔教科書〕 教場でプリントを配布する。

### 国文学演習Ⅱ（近代）

片岡 懋

北村透谷の詩、評論、小評について演習を行い、その中で浪漫主義や写実主義について考え、卒業論文についても話し合う。

〔教科書〕 勝本清一郎校訂『北村透谷選集』（岩波文庫）

### 国文学演習Ⅱ（近代）

高田 知波

学生の卒業論文テーマと関連させながら日本の近代小説を対象にした演習を行う。

〔教科書〕 教室で指示する。

### 国文学演習Ⅱ（近代）

橋本 芳一郎

日本近代文学のうち、学生が卒業論文に選んだ作家の主要作品を演習として攻究し、併せて卒業論文の執筆指導を行う。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

### 国文学研究

片岡 懋

正宗白鳥と有島武郎との作品を通して、作家の在り方、時代とのかかわり方などについて考える。

### 国文学研究

橋本 芳一郎

「日本近代象徴派と耽美派」……鷗外の初期評論、晶

子の詩歌、上田敏による西欧高踏派・象徴派の詩の紹介、有明・白秋・空太郎らの創作詩、荷風・潤一郎の初期小説・戯曲などを作品鑑賞を中心に研究する。

〔教科書〕 詩歌はプリントして与える。

〔参考書〕 その都度指示する。

### 国文学研究

村上 光徳

平安朝末期から中世にかけて宮廷生活のなれ者として許された一女性の書『無名草子』を読む。特に源氏物語批評の部分で女の論・男の論を中心に源氏物語と合わせて研究する。続いて清少納言・紫式部等中古の女流作家批評へ移る。中世初期の物語論等見ることができ有意義。

〔教科書〕 『昭和校注 無名草子』（武蔵野書院）

### 文学概論

橋本 芳一郎

世界文学の観点から、文学の本質・目的意識・要素・ジャンルなどについて重要な学説を紹介しながら概説し、併せて近代文芸思潮の概説も行う。

〔教科書〕 ノート使用。

〔参考書〕 その都度指示する。

### 国語史

木村 晟

国語の変遷のあとを上代から近代に至るまで音韻・語法・語彙の各分野に亘って概観するが、本年は特に古代から院政鎌倉期までの前半部に重点を置いて講義し、古代語が近代語に移り変わっていく様相を眺めることとする。

〔教科書〕 佐藤喜代治編『国語史 上』（桜楓社）  
¥1,800

〔参考書〕 『講座 国語史』〈音韻・文字・語彙・言語生活史〉（大修館）

### 言語学概論

飯島 周

言語研究の歴史、方法、分野について略述し、“ことばの仕組み”や“ことばのはたらき”について具体的な分析を試みる。日本語を主な対象とするが、初歩的な英文法の知識を持つことが望ましい。

〔教科書〕 特に指定しない。

〔参考書〕 V. マテジウス『機能言語学』（桐原書

## 上代文学講読

小野 寛

上代は日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。説話文学として『古事記』や『日本書紀』の神話・伝説がある。『古風土記』の地名起源説話などもおもしろい。『古事記』『日本書紀』にはまた、「うた」が多く含まれている。古代人たちが節をつけ、所作をつけ、楽器を伴奏にうたったものである。これを『記紀歌謡』という。そして「うた」はやがて書記されるようになり、記載文学としての「うた」の集である『万葉集』が登場する。これら上代文学の神髄に触れてみよう。  
〔教科書〕 適宜指定し、あるいはプリントを使う。

## 近代文学講読

高田 知波

二葉亭四迷「浮雲」と森鷗外「舞姫」を精読する。両作品とも日本近代文学の出発期を飾る名作でありながら、今日なお定説が確立していない。諸説をふまえて新しい読みの可能性を追求してみたいと思う。

〔教科書〕 『浮雲』(岩波文庫)  
『阿部一族・舞姫』(新潮文庫)

## 上代文学

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむに当たって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

〔教科書〕 小野 寛校注『万葉集抄』(笠間書院)  
〔参考書〕 金井清一・小野 寛編『年表資料 上代文学史』(笠間書院)

## 中古文学

廣島 まさる

影印本によって草がなの読み方を学ぶとともに、源氏物語の本文解釈を進め、作品の持つ文芸性や作品中の人物像にも触れることにする。

〔教科書〕 源氏物語『野分』影印本(新典社)

## 中世文学

大隅 和雄

『愚管抄』『増鏡』『神皇正統記』などの文体について考えながら、中世の歴史叙述と文学との関係を明らかにしてみたい。

## 近世文学

林 達也

前年にひきつづき、芭蕉の紀行文を読む。本年は、「野ざらし紀行」「笈の小文」をとりあえず検討し、時間があれば、他の俳文にも及ぶこととする。

〔教科書〕 湯沢賢之助編『野ざらし紀行・笈の小文』(新典社)

## 近代文学

畑 実

日本自然主義文学  
明治の末に全盛をきわめた自然主義文学の動きを小説・評論の両面から考え、その特質と日本の社会や文学に果たした役割を明らかにしていきたい。テキストは用いないが、時々プリントを配布する予定。

## 国文学特講Ⅰ

近藤 瑞男

『仮名手本忠臣蔵』をとり上げる。赤穂浪士四十七士の敵討ちは、現代の映画・テレビなどでも人々に親しまれているが、その基になったのが、本作である。赤穂浪士事件の実説から出発し、人形浄瑠璃の舞台で開花するまでを考察し、そこに流れる日本人の精神も考えてみたいと思う。

〔教科書〕 校註『仮名手本忠臣蔵』(笠間書院)

## 国文学特講Ⅱ

岩佐 美代子

『千載和歌集』。中世最初の勅撰集であり、新古今集を生み出す基盤となったこの集を演習形式で読みたい。注釈書は無いに等しいので、自力による和歌読解の力を養い、多くの作品を読みなれる事を目的とする。

〔教科書〕 久保田淳校注『千載和歌集』（岩波文庫）  
¥ 550

### 国文学特講Ⅲ

長谷川 政 春

古代（奈良・平安時代）文学を中心に、語り・話型・モチーフの三題断を展開して、物語史の在りようを、できれば本質的に捉えてみる。

〔教科書〕 講義中に適宜指示してゆく。

〔参考書〕 講義中に適宜紹介してゆく。

### 国文学特講Ⅳ

野 中 雅 行

荷風の文学と人生観は、潤一郎のそれに、どう受け継がれたのか。発禁処分に対する反応、結婚生活形態、回想記・自伝作品など、幾つかの事項を検討し、潤一郎昭和初年代作品へのあらわれ方を追究したい。扱う作品は「あめりか物語」、「ふらんす物語」、「雨瀟瀟」、「蓼喰う虫」、「乱菊物語」、「武州公秘話」など。

〔教科書〕 講義のつど印刷物にして手渡す。

### 中国文学

中 村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平身な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕 『五行大義校註』（汲古書院）¥ 3,000

### 中国文学演習

飯 田 利 行

二十一世紀をリードするにいたる仏者の一人に良寛和尚が挙げられている。その良寛詩集を縦横に講釈し、また学生に意見を発表させて真価を確認させる。

〔教科書〕 飯田利行訳著『良寛詩集譯』（大法輪閣）  
¥ 3,000

### 中国文学概論

飯 田 利 行

国語科教師として、その任を全うしうるように配慮して、小学（文字・音韻・訓詁）の基礎知識と、特に日本文学と中国文学とのかかわりある事項・作品を強調して講ずる。

〔教科書〕 飯田利行著『中国文学概論』（中国・日本史文研究会）¥ 2,000

### 仏教概論

山 内 舜 雄

先づ仏陀観・仏身論の発達・形成という仏教の基本構造を詳説し、次いで各宗の教義を、概ね歴史的展開に沿って詳述する。すべてノート講義とし、教科書を使用しない。

### 東洋思想研究

船 津 富 彦

広大な中国で長い年月をかけて、彼等が独自に創作した思想は、それ自体、貴重であるのみならず、日本や朝鮮、安南などの文化に大きな影響を与えている。今年度は主に古代中国の思想に重点をおいて概説し、さらに、そのテキスト、著者について考察をし、それが後世どのように受容されたかについて、彼等の代表的な文を参考しつつ考えてみたい。

〔参考書〕 授業中に適時指示する。

### 日本史概説Ⅰ（古代・中世）

杉 山 博

室町時代の諸様相を各方面から検討してみたい。

〔教科書〕 脇田晴子著『室町時代』（中公新書 776）  
（中央公論社）¥ 600

### 日本史概説Ⅱ（近世・近代）

木 槻 哲 夫

近世・近代にわたる日本社会の発展を概観しつつ、研究史にもふれ、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するよう努めたい。

〔参考書〕 『地方史研究必携』（岩波書店）  
¥ 4,800

## 日本文化史 I

有元修一

日本文化の多様な流れを概観するとともにその特色をあきらかにする。本年は特に古代・中世を中心とする。

〔参考書〕 家永三郎著『日本文化史 第2版』  
(岩波新書)

## 書道史

谷村義雄

文字の発生から書体の変遷、書風の変化、書法の成立の過程を、まず中国に於ける書の歴史を辿り、また日本での独自の展開を概観する。本学では書道科の教職課程として開講しているので、書道史を中心に講義する。従って美術史も内容は書道史の延長とする。

〔参考書〕 神田喜一郎『中国書道史』(岩波書店)  
¥5,800

## 書道実習 I

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半(9月頃まで)は楷、行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国北魏時代の楷書「高貞碑」を細かに深く研究する。

〔教科書〕 『書道 I』〔高校用教科書〕(教育出版)  
『高貞碑』〔書学名蹟選〕(日本書道資料㈱)

## 書道実習 II

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半(9月頃まで)は楷、行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国王羲之の行書「集字聖教序」を細かに深く研究する。

〔教科書〕 『書道 II』〔高校用教科書〕(教育出版)  
『集字聖教序』〔書学名蹟選〕(日本書道資料㈱)

## 美術史概説

林良一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛

鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

## 美術史

谷村義雄

書道科の教職課程として開講する関係上、講義や内容は書の歴史とする。

〔参考書〕 『書の本』(筑摩書店) ¥1,200

## 現代美術

宮崎克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題(色彩、空間など)、表現内容の問題(象徴性、思想など)、社会的問題(展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など)等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学、およびレポートの提出を要求する。

## 編集実務

宇賀田達雄

編集者は何を考え、どのような仕事をしているのか。編集者が知っていなければならないことは何か。編集者に必要な技術とはどんなものか——この講義では、主として雑誌づくりのために必要な知識を中心に、編集の現場での仕事のやり方を、できるだけ実技を通して伝えようと思う。将来マスコミ方面に進む人には当然必要な知識だが、情報化時代の今日、官庁でも企業でも団体でも広報誌、会報、カタログ、広告など、いろいろな形の印刷物を作る機会がふえているので、そういう場合にも対応できるように、編集の実務に必要なことをまとめてみたい。

〔参考書〕 『編集校正便覧』(印刷学会出版部)  
¥250

## 英米文化

荒井良雄

英米文化を、思想、教育、映画、演劇、音楽、絵画などを中心に講義します。特に英米の映画文化に焦点を合わせて講義を進めます。

〔教科書〕 VIEWING FILM (研究社)

日本民俗学

山折哲雄

柳田国男と折口信夫の民俗学について考察し、現代文化の諸相に光をあてる。

〔教科書〕 山折著『神と仏』（講談社新書）

# 英米文学科

## 基礎教育科目

英文学概論(中岡 洋) .....	91
米文学概論(金関 寿夫) .....	91
基礎英語 I A (東 雄一郎) .....	91
基礎英語 I A (坂本 武) .....	91
基礎英語 I A (高野 正夫) .....	91
基礎英語 I B (N.Readdy) .....	91
基礎英語 I B (A.G.Ryder) .....	91
基礎英語 I B (T.J.Wright) .....	92
基礎英語 II A (東 雄一郎) .....	92
基礎英語 II A (坂本 武) .....	92
基礎英語 II A (高野 正夫) .....	92
基礎英語 II B (N.Readdy) .....	92
基礎英語 II B (A.G.Ryder) .....	92

## 専門教育科目

英語学概論(大沢 一雄) .....	92
英作文 I (東 雄一郎) .....	93
英作文 I (岡田 尚) .....	93
英作文 I (佐藤 千春) .....	93
英作文 I (坂本 武) .....	93
英文学史 I (荒井 良雄) .....	93
英文学史 II (中岡 洋) .....	93
米文学史(佐藤 千春) .....	93
英語史(岡田 尚) .....	93
音声学(坂本 武) .....	93
英米語学演習(英作文 II)	
(57年度以前入学生:批評論研究)	
(佐藤 千春) .....	94
英米語学演習(英作文 II)	
(57年度以前入学生:批評論研究)	
(坂本 武) .....	94
シェイクスピア(荒井 良雄) .....	94
英文学演習 I (中世)(小倉 美知子) .....	94
英文学演習 II (英文学 16・17 C)	
(高野 正夫) .....	94
英文学演習 IV (英文学 18 C)(小林 亨) .....	94
英文学演習 V (詩 19・20 C)(高野 正夫) .....	94
英文学演習 VI (小説 I 19 C)(中岡 洋) .....	94
英文学演習 VII (小説 II 20 C)(飯島 淳秀) .....	95
英文学演習 VIII (批評 19・20 C)	
(東 雄一郎) .....	95
米文学演習 I (詩)(金関 寿夫) .....	95
米文学演習 II (小説 I)(岡崎 寿一郎) .....	95
米文学演習 III (小説 II)(佐藤 千春) .....	95

米文学演習 IV (小説 III)(田中 剛) .....	95
米文学演習 V (批評)(赤祖父 哲二) .....	95
米文学演習 VI (小説 IV)(寺門 泰彦) .....	95
英米演劇演習(荒井 良雄) .....	95
英文学特講 I (英文学 16・17 C)	
(石原 孝哉) .....	96
英文学特講 II (英文学 18 C)(小林 亨) .....	96
英文学特講 III (詩 19・20 C)(高野 正夫) .....	96
英文学特講 IV (小説 I 19 C)(中岡 洋) .....	96
英文学特講 V (小説 II 20 C)(飯島 淳秀) .....	96
英文学特講 VI (批評 19・20 C)	
(中岡 洋) .....	96
米文学特講 I (詩)(東 雄一郎) .....	96
米文学特講 II (小説 I)(佐藤 吉介) .....	96
米文学特講 III (小説 II)(山縣 敏夫) .....	97
米文学特講 IV (小説 III)(田中 剛) .....	97
米文学特講 V (批評)(佐藤 吉介) .....	97
英米演劇特講(落合 和昭) .....	97
英米語学演習(英語学)(大沢 一雄) .....	97
英米語学演習(英語史)(繁尾 久) .....	97
英米語学演習(英文法)(岡田 尚) .....	97
英米語学演習(英会話)(W. D. Hubbard) .....	97
英米語学演習(英会話)(N. Readdy) .....	97
英米語学演習(英会話)(T. J. Wright) .....	98
英米文化(荒井 良雄) .....	98
時事英語(大沢 一雄) .....	98
商業英語(青山 則雄) .....	98
ラテン語特講(佐藤 玖美子) .....	98
日本文化史 I (有元 修一) .....	98
現代美術(宮崎 克己) .....	98

# 英 米 文 学 科

## 基礎教育科目

### 英 文 学 概 論

中 岡 洋

Shakespeareを始めとして多くのすばらしい作家たちが作りあげる英文学の世界は深い魅力をたたえている。その魅力ある世界について基礎となる知識を講じていく。英文学を学ぶ喜びを味わい、学ぶ意欲を一層深めてもらいたい。

### 米 文 学 概 論

金 関 寿 夫

米文学鑑賞研究に必要な時代背景、思想、文学批評などを解説、アメリカ文学の特質を明らかにする。

〔教科書〕 志村・八木著『アメリカの文学』（南雲堂）

〔参考書〕 教場で示す。

### 基 礎 英 語 I A

東 雄 一 郎

Reading, Writing, Hearing, Speakingの総合的な見地から英語力を養成することに主眼をおく。特に、ReadingとHearingに関するtrainingを主とする。平易な英文を通して英語力を高める。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示します。

### 基 礎 英 語 I A

坂 本 武

Tape使用を主体とする内容で、いわゆる「読んで訳して」ではない。毎時限「書取り」(Dictation)を実施し、いわゆるHearing (Understanding)の能力向上につとめたい。積極的に受講してほしい。出欠は重視する。

〔教科書〕 教場にて指示する。

### 基 礎 英 語 I A

高 野 正 夫

基本的な英文や文法を学習しながら、作文の演習を行なっていきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

### 基 礎 英 語 I B

N. Readdy

In this class we will be using the audio-lingual method which entails the use of tapes (about 10 minutes each class) and class participation; both group and individual. The textbook we will be using is ENGLISH 900 which comprises the 900 essential sentences for speaking everyday English. The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he or she can use them with ease as well as make substitute sentences. There will be two examinations each school year and all students are expected to attend both to receive a grade.

TEXTBOOK: ENGLISH 900, BOOK 4.

### 基 礎 英 語 I B

A. G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English.

This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided:in

pronunciation, intonation, word-grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

### 基礎英語 I B

T. J. Wright

This class will cover the four skills of the language comprehension. Students will be expected to try to understand and communicate in English. The class will be challenging and educational.

Textbooks to be announced.

### 基礎英語 II A

東 雄一郎

ReadingとHearingの英語力の養成に主眼をおくものとする。毎回、授業の開始から15分間ほどの時間は、前回の内容に関する教問の小テストにあて、これを出席にかえる。イディオムを中心とした基本的な構文を、このテストでは扱うつもりである。授業に対する各自のpreparationは必要不可欠。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示します。

### 基礎英語 II A

坂 本 武

英検一級合格を目標とする英語総合力の養成につとめる。随時Tapeの使用をもってその効果を挙げたい。出欠は重視する。

〔教科書〕 教場にて指示する。

### 基礎英語 II A

高 野 正 夫

英文を読みながら、読む能力の増進をはかり、作文の演習とともに、文法的な方面も注意していきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

### 基礎英語 II B

N. Readdy

As we have all studied ENGLISH 900 last year, the textbook needs no introduction. However, this year, we will be using the same series but of a more advanced nature. As previously, all students are required to take two examinations during the school year in order to receive grade. TEXTBOOK: ENGLISH 900, BOOK 4.

### 基礎英語 II B

A. G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English. This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided in pronunciation, intonation, word grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

## 専門教育科目

### 英語学概論

大 沢 一 雄

英語学とはどういう学問であるか、一口にいえば、それは、英語という言語を研究の対象とする学問であるから、言語について研究する学問すなわち言語学の一部である。すなわち、英語学は英語という言語を研究する言語学なのである。「英語学」が英語でEnglish philologyとかEnglish linguisticsといわれることは、そのことをよく示している。

ところで、言語学は、音声学、音韻論、文法論、語彙(い)論、意味論、語源論、文体論、辞書編纂論、言語史等の諸部門に分かれる。したがって、英語学の研究も、結局これらの部門のどれかについておこなわれることになるのであるが、そういう各論的な研究に入る前に、英語学という学問について、英語という言語について、一般的、総論的な知識をもつことも必要なことといわなければならない。「英語学概論」の講義は、英語学や英米文学を勉強しようという学生諸君のために、そのような概説的な知識を提供しようとするものである。

### 英 作 文 I

東 雄一郎

基本構文から応用へと、ある程度自己の感情、思想を自由に英語で表現できるようになるためのtrainingを行う。しかし、英作文はあくまでも four skills of English learning の一つであることを忘れずに。毎回、授業の始まりから 20 分間ほどの時間は、数問の小テストにあて、それを出席にかえる。授業に対する preparation は必要不可欠。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示します。

### 英 作 文 I

岡 田 尚

英文を書くことによって、英語の総合力の増進をはかりたい。積極的に発表し質問をして活気のある授業にしたい。テキストは教室で指示する。

### 英 作 文 I

佐 藤 千 春

易しい英文の表現で、自分の考えを自由に書き記すことができるようになることを目指す。基礎力を充分に養ってもらいたい。テキスト、その他詳しい内容は授業開始の時に連絡する。

### 英 作 文 I

坂 本 武

一般的散文、時事文および手紙文等について申広く採りあげる積りである。積極的に受講してほしい。出欠は重視する。

〔教科書〕 教場にて指示する。

### 英 文 学 史 I

荒 井 良 雄

中世から 18 世紀までの英文学史を、時代背景、文芸思潮、作家、作品、有名な引用句などの解説を中心に講義します。

〔教科書〕 『イギリス文学案内』(朝日出版社)

### 英 文 学 史 II

中 岡 洋

英文学は世界に冠たる作品を数多く産み出してきた。Wordsworth, Scott, Austen らの時代以降それらの作品を年代順に跡づけ、現代に至る。不滅の作品群にふれる喜びを共に味わいたい。

### 米 文 学 史

佐 藤 千 春

一般にアメリカの歴史は 17 C. から始まると言えるが、この地への植民がどんな夢を抱いてなされたものかという序論に始まり、ピューリタニズム、18 C. の合理主義、やがてロマン主義へと、歴史は時代の動向と文芸思潮をからませながら進んで行く。この流れにそって、どのような作家が、どのような精神で、どのような作品を書きあげたのかを探ってみる。講義はできるだけ作家、作品の羅列を避け、作家の中心思想、作品の主要テーマなどに焦点をしばり分析と解説を行いつつ、これを味わってみたい。

〔教科書〕 井上謙治編『アメリカ文学史入門』(創元社)

### 英 語 史

岡 田 尚

今日の英語に親しんでいる人には他国語のような感じのする古英語の時代から、一千余年の間に、英語がどのように変化してきたか、その主要な流れを概観する。

〔教科書〕 教室で指示する。

### 音 声 学

坂 本 武

「調音音声学」の概要について、英語を主体とした流れの中で学習することが本講義の内容である。今更発音の修正など…と思わず、英米文学科生として必須の科目

であると考え、第一歩から徹底的に取り組んでほしい。英語の母音、子音からはじめて、各論に至るまでの知識を得てほしいものである。英語専攻の学生が、「nativesの言うことが判らない」では困るので、英音、米音の区別等についても詳しくふれる。出欠は重視すると同時に、年間数冊のノートおよびTapeの提出を求める。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英米語学演習（英作文Ⅱ）  
（57年度以前入学生：批評論研究）

佐藤 千春

すでに英作文Ⅰで十分な基礎力が身についたとの想定で、ここでは応用の段階に入ってみる。作文だけでなく、読むことも時に応じて行いたい。テキスト、その他詳しいことは授業開始の時に連絡する。

英米語学演習（英作文Ⅱ）  
（57年度以前入学生：批評論研究）

坂本 武

英作文に関する作法、表現等については、既に英作文Ⅰにおいてそれらの基礎力は充分涵養済みと思われるので、この演習では、更に応用面、実用面についての実力を身につけるよう望んでやまない。

〔教科書〕 教場にて指示する。

シェイクスピア

荒井 良雄

シェイクスピアの人生観と劇作術と言葉の魅力を、『マクベス』を中心に講義します。生涯と作品、批評史や上演史などにもふれながら講義を進め、『マクベス』以外の悲劇からも引用しますので、特にシェイクスピアに関心の深い学生は、全作品を一冊に収録したThe Alexander Textを持つのが望ましいと思います。

〔教科書〕 『マクベス』（日本放送出版協会）

英文学演習Ⅰ（中世）

小倉 美知子

中世方言文学のうちNorth-West Midlandの代表的な頭韻詩である*Pearl*と*Sir Gawain and the Green Knight*を読む。いわゆる*Gawain-poet*の作とされる5つの頭韻詩のうち、この2つはその綿密に構成された詩型から、他の3つと区別されるべきものである。

Introductionとし、中世の方言文学の分布と*Gawain-group*の位置等について講義する。その後、参考書として挙げてある2冊を用いて、文法事項、詩型などに関する

基礎知識を学習したのち、*Pearl*から読んでいく。

〔教科書〕 Cawley, A.C.ed. *Pearl and Sir Gawain and the Green Knight*. Everyman's Library No. 346. Dent & Sons, 1968.

〔参考書〕 Gordon, E.V.ed. *Pearl*. Oxford: Clarendon press, 1980. ¥1,980  
Davis, Norman. ed. 2nd ed. *Sir Gawain and the Green Knight*. Oxford: Clarendon Press, 1967. ¥1,980

英文学演習Ⅱ（英文学16・17C）

高野 正夫

Sidneyの*Astrophel and Stella*や、彼と親交のあった、Spenserの処女詩集である、*Shepherd's Calendar*, John Donneの*Elegies, Songs and Sonnets*など、16世紀に流行した、恋愛ソネット集や牧歌集を中心に読んでいきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

英文学演習Ⅳ（英文学18C）

小林 亨

Zonathan Swift: *Gulliver's Travels* 第4部を読む。世界文学史上でも特筆すべき諷刺小説であるこの作品の、最も特色ある部分を精読し、その核心に迫りたい。

〔教科書〕 『研究社小英文叢書』 ¥960

英文学演習Ⅴ（詩19・20C）

高野 正夫

イギリス・ロマン派の詩人、キーツ、ワーズワス、ブレイクなどの初期の作品を中心に読んでいきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

英文学演習Ⅵ（小説Ⅰ19C）

中岡 洋

Emily Brontë の *Wuthering Heights* (『嵐が丘』1847) について勉強する。

英文学演習Ⅶ（小説Ⅱ 20 C）

飯島淳秀

20世紀イギリス小説（中篇または短篇）をよむ。毎回必ず当ててやってもらうが、それもできるだけ頻繁に回るようにローテーションを組んでいく。前期と後期にそれぞれ課題レポート（即ち単位レポート）の提出が要求される。テキストは最初のときに指示する。

英文学演習Ⅷ（批評 19・20 C）

東雄一郎

前期は主として詩作品を扱い、実践批評を試みる。また、T.S. Eliot, Ezra Pound, M. Arnold, I. A. Richard 等の論文も読んで行く予定である。各作品の味読が中心となる。

後期は小説を扱うが、現代小説が中心となろう。「意識の流れ」の技法が駆使された作品を読み、小説の技法に関する考察を進めて行きたい。まずは個々の作品世界がもつ妙味を鑑賞することが肝要である。

また、19、20世紀の批評態度の変遷に関しても考察して行きたい。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示します。

米文学演習Ⅰ（詩）

金関寿夫

エミリー・ディキンソンから、H.D., M. ムアーなどを経てE. ビショップ, A. リッチに至るまで、豊かなアメリカ女性詩人の系譜を辿る。実作を読みながら、討論形式で行う。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 教場で示す。

米文学演習Ⅱ（小説Ⅰ）

岡崎寿一郎

アメリカ現代小説についての講義を通して、文学が現代にもつ意味を探究する。

〔教科書・参考書〕 教場にて指示する。

米文学演習Ⅲ（小説Ⅱ）

佐藤千春

アメリカ文学史上、1850年から1855年にいたる五年間は、“moment of adult health” と呼ばれる黄金時代であり、アメリカ文学が世界に誇る名作を続々と世に出した。「アメリカ・ルネッサンス」と呼ばれるのはこの時期のことである。ここでは、その代表的作家、エマソン、ソーロウ、ホーソーン等を取りあげ、彼らの格調高い文体に触れてみることにする。

〔教科書〕 亀井俊介編注『アメリカン・ルネッサンス』（北星堂）

米文学演習Ⅳ（小説Ⅲ）

田中剛

フォークナーの数篇の短篇小説を取りあげ、彼の特徴を考えつつ精読する。その上、フォークナーの長篇小説数篇について解説する予定。

〔教科書〕 William Faulkner: A Rose for Emily and Other Stories (英宝社), William Faulkner: Delta Autumn and Three Other Stories (研究社)

米文学演習Ⅴ（批評）

赤祖父哲二

言葉のもつイメージが文学作品のなかでどのように働くかを追求する。

〔教科書〕 Peter Milward: Words in Connotation (桐原書店) ¥900

〔参考書〕 赤祖父哲二編『英語イメージ辞典』（三省堂）¥3,200

米文学演習Ⅵ（小説Ⅳ）

寺門泰彦

1920年代のアメリカ作家5人の短篇小説を講読する。

〔教科書〕 Anderson 他: Best American Short Stories (I), (太陽社)

〔参考書〕 その都度、紹介する。

英米演劇演習

荒井良雄

アメリカの劇作家ウィリアム・インズの代表作『階段

の上の暗闇』とその劇評を読みます。

〔教科書〕 『ザ・ダーク・アット・ザ・トップ・オブ・ザ・ステアーズ』（金星堂）

### 英文学特講Ⅰ（英文学 16・17 C）

石原孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕 『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』（三修社）

### 英文学特講Ⅱ（英文学 18 C）

小林 亨

18世紀の主要な散文作家5、6名を取り上げ、絢爛と花開いたイギリス近代小説の特質を考察する。講義だけでなく出来る限り作品に接することをこの講座の特徴としたい。

〔教科書〕 教室にて指示する。

### 英文学特講Ⅲ（詩 19・20 C）

高野正夫

W.H.Audenの *Collected Shorter Poems* のなかから、後期の1948年から1957年までの作品を読んでいます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

### 英文学特講Ⅳ（小説Ⅰ 19 C）

中岡 洋

市民階級の台頭によって19世紀には多くの女流作家が輩出されている。当時女性が置かれていた立場は当然彼女たちの描くヒロインの姿に映し出されているが、男性作家による女性群像も女性の生き方について多くのことを示唆している。教育、結婚、家庭、職業その他の面について19世紀には女性がどのような立場に置かれていたか、人間として生きることが社会の状況によっていかに条件づけられるか、また真に人間として目ざめるのがどういうことか、理解できればと思う。

### 英文学特講Ⅴ（小説Ⅱ 20 C）

飯島 淳 秀

現代イギリス文学、特に小説にみられる現代の特徴、20世紀の心理小説、小説作品と作家の伝記の相関関係、その他について講義をする予定。特定のテキストは用いない。参考文献はそのつど伝える。前期と後期にそれぞれ課題レポート（即ち単位レポート）の提出が要求される。出席も重視。

### 英文学特講Ⅵ（批評 19・20 C）

中岡 洋

浪漫主義時代の想像力論から現代の批評までを歴史的に通観し、主要な批評の具体例について講ずる。

### 米文学特講Ⅰ（詩）

東 雄一郎

主として20世紀、現代のアメリカ詩を扱う。勿論、アメリカ詩の流れを考察する場合に不可欠な存在である詩人達、Edgar Allan Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson 等も扱うことは言うまでもない。実際、個々の詩人の代表作品を味読、鑑賞しながら講義をすすめていく。また、Edward TaylorにみられるMetaphysical Poetryの特質に関しては、イギリスのJohn Donneの作品に触れることにもなる。清教徒主義の内向性と開拓者精神の外向性を常に遍在させ、American Renaissance, Realism, Chicago Renaissance, Harlem Renaissanceを展開させて行くアメリカの精神風土との関連の上から、ModernismとPost-Modernismを代表する詩人の個々の作品にあたるつもりである。

〔教科書〕 開講時に指示します。

〔参考書〕 金関寿夫著『アメリカ現代詩ノート』（研究社）

新倉俊一著『アメリカ詩論：同一性の歌』（篠崎書林）

### 米文学特講Ⅱ（小説Ⅰ）

佐藤 吉 介

アメリカ文学——特に19世紀の作品、Mark Twain, Ambrose Bierce, Stephen Crane, Nathaniel Hawthorneなどを用いて英語文学の風土背景を講述する。

〔教科書〕 プリント

米文学特講Ⅲ（小説Ⅱ）

山 縣 敏 夫

アメリカにおける黒人文化の歴史的発展を考察し、現代黒人文学の代表的作家・ポールドウィン（James Baldwin）、エリソン（Ralph Ellison）等を中心に、その作品研究を行う。

〔教科書〕 開講後指示する。

米文学特講Ⅳ（小説Ⅲ）

田 中 剛

J.F.クーパーからW.フォークナーに至るまでのアメリカの代表的小説家の作品から十数篇を選び、それについて解説する予定。

〔教科書〕 The American Novels（英潮社）

米文学特講Ⅴ（批評）

佐 藤 吉 介

アメリカ文学の作品を材料に使用して批評の方法—分析、文体論、表現論、時間論—を習得せしめるように講述する。最近の言語記号論も考察に入れてみたい。

〔教科書〕 プリント

英米演劇特講

落 合 和 昭

昨年度は、ギリシャ悲劇の時代からジェームス一世の時代までの劇場構造の発達をみてきたが、今年度は、王政復古（1660年）の時代から現代にいたるまでの劇場の構造とその発達をとうして、演劇の思潮を考察する。

また、講義には、劇場の写真や構造図が約三百あまりのっているイギリスのテキストやアメリカの大学生用のテキストを用いる。課題としては、英文のテキストを読んでもらい、レポートは一回に原稿用紙一、二枚程度のものを年間十回ぐらい提出してもらう。

英米語学演習（英語学）

大 沢 一 雄

Good English, bad Englishとはどういうことか、とくに、口語体の英語について考えてみる。テキストには、いくつかのone-act playsと方言に関する論文を用いる。

英米語学演習（英語史）

繁 尾 久

英語の歴史を先史時代の背景から、OE、MEを通じて近代英語に至る約1500年の歴史を、音韻・形態・統語の各部門について、原文例を読み具体的に通観したい。

〔教科書〕 開講時指定。

英米語学演習（英文法）

岡 出 尚

生きた英文に接しながら、伝統的な文法の知識を確認するとともに、どのような文法がよいかを考えてみたい。

〔教科書〕 教室で指示する。

英米語学演習（英会話）

W. D. Hubbard

English conversation for third and fourth year students. English only will be used so, you will learn English directly by hearing, speaking and using it. Directed free conversation as well as a variety of interesting methods will be used.

Textbook will be decided at class time.

英米語学演習（英会話）

N. Readdy

In this class we will be using the audio-lingual method which entails the use of a tape recorder (about 10 minutes each class) as well as class participation; both group and individual. The textbook we will be using in this class is ENGLISH 900 which comprises the 900 essential sentences for speaking everyday English.

The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he or she can use them will ease as well as make substitute sentences.

There will be two examinations during the school year and all students are expected to attend both in order to receive a grade.

TEXTBOOK: ENGLISH 900, BOOK 3.

## 英米語学演習 (英会話)

T. J. Wright

This will be an intensive conversation class. We will study skills in listening comprehension and speaking. Students will be required to SPEAK! in English. The class will be challenging-exciting and educational.

Textbooks to be announced.

## 英米文化

荒井良雄

英米文化を、思想、教育、映画、演劇、音楽、絵画などを中心に講義します。特に英米の映画文化に焦点を合わせて講義を進めます。

〔教科書〕 VIEWING FILM (研究社)

## 時事英語

大沢一雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等のmass mediaすなわちマスコミで用いられる英語である。

## 商業英語

青山則雄

前期は輸出入の流れに沿ってテキストのモデル・レターを読み、貿易用語を解説する。また簡単なビジネス英文の練習を行う。後期は正式なフォームで英文レターを作成できるようにし、時間が許せば経済レポートの書き方を指導する。

〔教科書〕 斎藤祥男著『国際貿易英語通信』(梓出版社)

## ラテン語特講

佐藤玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、や

さしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

〔教科書〕 『ラテン語入門』(駿河台出版社)

## 日本文化史 I

有元修一

日本文化の多様な流れを概観するとともにその特色をあきらかにする。本年は特に古代・中世を中心とする。

〔参考書〕 家永三郎著『日本文化史 第2版』(岩波新書)

## 現代美術

宮崎克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題(色彩、空間など)、表現内容の問題(象徴性、思想など)、社会的問題(展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など)等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学、およびレポートの提出を要求する。

# 地 理 学 科

## 基 礎 教 育 科 目

基礎人文地理学(今朝洞 重美) .....	100
基礎人文地理学(長野 寛) .....	100
基礎自然地理学(長沼 信夫) .....	100
基礎自然地理学(早船 元峰) .....	100

## 専 門 教 育 科 目

人文地理学実習(今朝洞 重美) .....	100
人文地理学実習(桜井 正信) .....	100
人文地理学実習(土谷 敏治) .....	100
人文地理学実習(長野 寛) .....	100
人文地理学実習(再クラス)(菱口 善美) .....	101
自然地理学実習(小池 一之) .....	101
自然地理学実習(高木 正博) .....	101
自然地理学実習(中村 和郎) .....	101
自然地理学実習(長沼 信夫) .....	101
自然地理学実習(再クラス)(早船 元峰) .....	101
野外巡検 I(今朝洞 重美) .....	101
野外巡検 I(小池 一之) .....	101
野外巡検 I(高木 正博) .....	102
野外巡検 I(土谷 敏治) .....	102
野外巡検 I(中村 和郎) .....	102
野外巡検 I(長沼 信夫) .....	102
日本地誌 I(今朝洞 重美) .....	102
外国地誌 I(菱口 善美) .....	102
経済地理学 I(土谷 敏治) .....	102
郷土地理学(長野 寛) .....	102
集落地理学(小川 徹) .....	102
地形学 I(西村 嘉助) .....	103
地 図 学(高木 正博) .....	103
交通地理学(奥野 隆史) .....	103
地理学総論(小川 徹) .....	103
地理学総論(中村 和郎) .....	103
地理学総論(西村 嘉助) .....	103
野外巡検 II(小川 徹) .....	103
野外巡検 II(菱口 善美) .....	103
野外巡検 II(桜井 正信) .....	103
野外巡検 II(長野 寛) .....	103
野外巡検 II(西村 嘉助) .....	104
野外巡検 II(早船 元峰) .....	104
日本地誌 II(生井澤 進) .....	104
外国地誌 II(内藤 正典) .....	104
経済地理学 II(生井澤 進) .....	104
地形学 II(今泉 俊文) .....	104
歴史地理学(桜井 正信) .....	104

人口地理学(土谷 敏治) .....	104
原書講読(梅原 弘光) .....	104
地 質 学(小池 一之) .....	104
土壤地理学(漆原 和子) .....	105
気 候 学(中村 和郎) .....	105
海洋学及び陸水学(長沼 信夫) .....	105
環境地理学(早船 元峰) .....	105
日本地誌 III(中島 義一) .....	105
外国地誌 III(梅原 弘光) .....	105
都市地理学(今朝洞 重美) .....	105
計量地理学(奥野 隆史) .....	105
応用地理学 I(高木 正博) .....	105
応用地理学 II(今野 修平) .....	106
文化地理学(菱口 善美) .....	106
空中写真判読法及び測量学(小池 一之) .....	106
地理学特講 I(長野 寛) .....	106
地理学演習(小川 徹) .....	106
地理学演習(今朝洞 重美) .....	106
地理学演習(小池 一之) .....	106
地理学演習(菱口 善美) .....	106
地理学演習(桜井 正信) .....	106
地理学演習(高木 正博) .....	107
地理学演習(土谷 敏治) .....	107
地理学演習(中村 和郎) .....	107
地理学演習(長沼 信夫) .....	107
地理学演習(長野 寛) .....	107
地理学演習(西村 嘉助) .....	107
地理学演習(早船 元峰) .....	107

# 地 理 学 科

## 基礎教育科目

### 基礎人文地理学

今朝洞 重 美

地理学的な「見方」,「考え方」とはどのようなものであるか, について事例を中心に説明する。

### 基礎人文地理学

長 野 覚

世界的視野において, 自然と人間活動の相関性を考えながら, 多彩な人文現象の基礎知識を, 系統地理的に講義する。テキストは下記のほか, 適宜プリントで補足する。受講に際して地図帳の併用を心掛けること。

〔教科書〕 藤岡謙二郎著『五訂 人文地理学』(大明堂)

### 基礎自然地理学

長 沼 信 夫

本講義は地理学を専攻する学生諸君のために, 自然地理的な立場から基礎的知識を提供しようとするものである。今年度も下記のテキストを使用し, 第四紀時代の自然環境の変遷について講義する。

なお, 参考書は適時講義中に紹介する予定である。

〔教科書〕 『自然環境の生い立ち』(朝倉書店)  
¥ 2,000

### 基礎自然地理学

早 船 元 峰

地質年代では最も新しく, かつ, 人間と密接なかわりをもつ第四紀の自然環境について講義する。

## 専門教育科目

### 人文地理学実習

今朝洞 重 美

地形図, 都市図を利用して土地利用, 宗教, 集落など人文地理学に関する実習を行う。

### 人文地理学実習

桜 井 正 信

人文現象を総合学の立場で実習させていくが, とりわけ地図化することに重点を置く。必要参考文献は, そのつど指示し, 実習の成果をあげるようにする。

### 人文地理学実習

土 谷 敏 治

人文地理学の研究に必要な資料の収集, 既存の統計資料の整理・加工, 統計処理, 地図・図表の作成などの実習を行ない, 基本的な能力を身につける。毎回学習した内容について課題を与え, レポートを作成することを原則とする。

### 人文地理学実習

長 野 覚

前期は地形図の読図に習熟するよう, 土地利用図・地形段彩図・地形図模型などを作成し, 人文現象と自然条件の相関性を考察する。後期は各自で収集した統計資料をもとにして, 各種の統計地図類を作成することにより, 主として人文現象の図化を習得する。

### 人文地理学実習（再クラス）

こもぐち  
焚口善美

この実習は、人文地理学の諸分野において用いられている技術的表現の理解、および基礎的諸作業の修得を目的としている。実際の授業内容は次の通りである。すなわち、(1)人文地理学にとって基礎的な統計図表に関する講義、(2)産業や人口に関する統計資料の収集、整理および図表化作業の修得、(3)地域を選定し、その地理学的説明のための図表およびレポートの作成、(4)一定地域の変化をテーマとして、種々の資料にもとづくレポートの作成。

### 自然地理学実習

小池一之

自然地理とくに地形学関係のデータ整理および野外調査方法などについて実習を行う。必要に応じパーソナル・コンピューターによるデータ整理についても紹介する。  
実習内容（予定）

1. 地形図の読図、主題図の作成
2. 各種統計データの整理方法
3. 空中写真判読（含現地調査）
4. その他

### 自然地理学実習

高木正博

自然地理学を研究するうえで必要となる基礎的な諸事項の修得を目的とし、その手段として各種の作業を実施してもらう。作業内容については、つぎのことがらを予定している。

1. 地形図、空中写真などを利用し、各種の主題図を作成する。
2. 各種統計資料の図化など、授業の進捗状況に応じて指示する。

評価に際しては、提出物と出席の状況を重視する。

### 自然地理学実習

中村和郎

自然地理学の基礎的な実習を行う。次の内容を予定しているが、実施の順序は変更することがある。

1. 計測（野外および机上で各種の計測を行う）
2. 統計処理（各種データの整理方法を学ぶ）
3. 地図化（主題図を作成する）
4. 読図（地図の読図を行う）

5. 空中写真判読（空中写真から必要な情報を読む）
6. 地上写真撮影（地理的事象を写真で表現する）

### 自然地理学実習

長沼信夫

この実習は自然地理的な立場から、専門領域を深めるために必要な基礎的諸作業を修得する目的で実施する。実習を通じて種々の資料の蒐集・整理、その結果から図表等の表現化、作成した図表からその読み方等を実施する。また野外調査の際に必要な技術的作業等の方法についても実習する予定である。

出席を重視し、平常点（レポート、図表等の提出物）で評価する。

〔参考書〕 谷岡武雄ほか『新訂地理実習』（大明堂）  
三野与吉編『自然地理調査法』（朝倉書店）

### 自然地理学実習（再クラス）

早船元峰

地理学を修める上に必要な自然関係の基礎的作業を中心に行う。

前期

○図上作業（切峰面図・起伏量図・帯状平行投影地形断面図等の作成）

○資料の収集・整理・分析の方法

○調査器械・器具の使用法

後期（班別）

○粒度分析

○空中写真判読（土地利用図・地形学図・標定図作成）

○水調査（湖水・河川水・地下水の水温、水質等）

○微地形・表層地質調査（元荒川・古利根川流域）

### 野外巡検 I

今朝洞重美

北陸地方（金沢市、となみ平野、五箇山方面）巡検を夏季休暇に実施する。

### 野外巡検 I

小池一之

地理学、とくに地形学を中心とする野外実習法を学ぶ。本年はフィールドを福島県只見川流域とし、2日間は火

砕物の流下機構、段丘地形、断層地形などを学び、1日は各人の自由テーマで自主巡検を行う。

〔巡検地〕 福島県只見川流域

〔日程〕 10月末ごろ

ただし、大島三原山の噴火状況によっては、大島に変更することもある。

### 野外巡検 I

高木正博

地域の実態調査をとおして、それぞれの地域が有する自然的・人文的な特長の一端を明らかにしたい。

現地では班別に行動し、各種の実測調査や聞き取り調査などを実施する。

今年度は北信地域（飯山市、斑尾など）の災害、開発や湖沼調査などを予定している。

### 野外巡検 I

土谷敏治

都市圏の形成、都市内部の地域構造、産業、都市間の結合、交通問題などに重点を置いて巡検を行なう。また、参加者は各自、上記の重点に則したテーマを設定して現地調査を行ない、調査結果をレポートとしてまとめ提出する。巡検地域は東海地方（静岡県）を予定しているが、変更があった場合は提示する。巡検日時は6月上旬の予定である。

### 野外巡検 I

中村和郎

長野県川上村で自然・人文地理学の基礎的調査法を学ぶ。5月下旬に3泊4日を実施する予定であるが、詳細はガイダンスの際に指示する。

### 野外巡検 I

長沼信夫

次の要領で実施する予定であるが、詳細については申込時（ガイダンス4月14日）に報告する。

1. 巡検地域：伊豆半島
2. 巡検期日：昭和62年6月上旬、3泊4日で実施。
3. 巡検テーマ：自然環境と人々の生活。

### 日本地誌 I

今朝洞重美

地誌学の本質論を考察しつつ、「日本」、「日本各地方」の個性を追求する。

〔参考書〕 『日本の地域—新しい日本地誌—』  
（森北出版）

### 外国地誌 I

こもぐち  
茨口善美

本講義では、『地域』の概念について述べ、次に具体的地域区分の方法を吟味し、さらに北米その他の「地誌」を概説する。都市の発生的、地域論的立場に重点を置く。

### 経済地理学 I

土谷敏治

経済現象を地理学の側面からとらえるために、1.立地論（経済立地論、工業立地論）、2.中心地理論、3.都市の地域構造に重点を置いて講義を行なう。

### 郷土地理学

長野 覚

1. 郷上の地域概念を理解するため、古代から現代に至る行政変化について学習し、各自で調査した成果をレポートする。（前期）
  2. 国土面積の約34%を占める山地の包蔵する山岳信仰文化の地域的特色を考察し、各自の郷土における山岳信仰を調査しレポートする。（後期）
- 〔参考書〕 『山岳宗教史研究叢書』（名著出版）  
『地名大辞典』（角川書店）  
『日本歴史地名大系』（平凡社）

### 集落地理学

小川 徹

居住の地理学という観点から、民家と村落構成の両側面について講義する。プリント・テキストは開講後指示する。巡検もその趣旨に沿って行うので、小川巡検を希望するものは、この科目を選択しておいて欲しい。

## 地形学 I

西村嘉助

地理学の基礎的な部分を講義する。営力地形学から発達地形学に亘る解説を行う。

## 地図学

高木正博

まず、地図の歴史をとおして、地図の重要性を認識する。つぎに、地図の作成・表現方法などのちがいによる多様な地図をもとに解説、利用法について講ずる。

授業内容に応じて作図実習を伴うので、定規、コンパス、分度器を揃えておくこと。

## 交通地理学

奥野隆史

現代の地域の発展動向は交通の良否によって左右されている。この交通について、(1)その本質、(2)地域的意味付け、(3)交通発達と経済立地の関係、(4)モデル解析という課題で平易に講義する。

〔教科書〕 テーフ・ゴージェ著、奥野隆史訳『地域交通論』（大明堂）¥2,000

## 地理学総論

小川徹

詳細は開講直後に指示する。講義の趣旨は「地理を学ぶことは如何なることか」を考えてゆくことである。各自も、このテーマに沿って、考えてみて欲しい。

旧科目（地理学研究法及び地理学史）未履修者はその対策について教務部担当者に相談すること。

## 地理学総論

中村和郎

「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆく。各自もこのテーマを十分考えてみて欲しい。

## 地理学総論

西村嘉助

詳細は開講直後に指示する。「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆくことである。各自も充分考えてほしい。

## 野外巡検 II

小川徹

巡検ふりわけガイダンス前、掲示する。班編成して、現地で調査するので、4名の同志を予め組んで巡検ふりわけに臨んで欲しい。

## 野外巡検 II

こもぐち  
茨口善美

目的：地域の変貌についての実態把握  
調査地：未定（ガイダンスの際に発表）

## 野外巡検 II

桜井正信

地域を指定して、人文学の立場で、研究調査をいたします。地域は巡検の講義のときに決定して、作業とともに詳にしていきます。

## 野外巡検 II

長野覚

富山湾岸から立山に至る、海・平野・河川・山岳・気象などの自然条件と、人文現象のかゝわりを、現地に即して考察する。主な着眼点は、湾岸立地の近代工業、伝統的な富山売薬、砺波平野の散村、立山の山岳信仰（登頂する）、黒四ダムなど。何れかの着眼点では、テーマを設定して簡単な調査を行なう予定。

## 野外巡検Ⅱ

西村 嘉助

初夏の数日間、東北地方の一地域を選び、終始徒歩で野外調査の基礎を訓練する。対象は主として自然地理学の問題である。地形学Ⅰを受講し合格した者でないと参加の意味がない。

## 野外巡検Ⅱ

早船 元峰

教室の講義のみでは理解しがたい地理学的事象（自然的・人文的）を、学生自らの現地での体験（観察・調査）を通じて理解させる。班別行動・現地集合・現地解散の予定。巡検地等はガイダンスの際に発表する。

## 日本地誌Ⅱ

生井澤 進

日本の各地域を「文化誌」の観点から見つめてゆく。講義の内容は若干散漫になるが、「地域」というイメージが鮮明になるように心がけてゆく。

〔参考書〕『世界の地理—日本の部分』（週刊朝日百科）

## 外国地誌Ⅱ

内藤 正典

広い意味での地中海地域の地誌。

地中海沿岸から、ヨーロッパ、北アフリカ、中東などの諸地域をながめ、地中海のもつ地理的な意味を考える。

## 経済地理学Ⅱ

生井澤 進

地方における生活活動の中心となる商業活動について、商店街形成という観点から分析、講義を行う。夏季休暇中に各自調査を行い、レポートを作成することを条件とする。

〔教科書・参考書〕講義中にその都度指示する。

## 地形学Ⅱ

今泉 俊文

“動かざること大地のごとし”と言われるが、変動帯に属する日本の地形は、活発な地殻変動のもとで形成されている。変動地形を中心に講義を行う。

〔参考書〕 貝塚爽平ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）  
笠原慶一ほか編『岩波講座 地球科学10』（岩波書店）

## 歴史地理学

桜井 正信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

## 人口地理学

上谷 敏治

前半は、人口分布の研究に重点を置き、人口分布の特徴と統計的記述、都市内部の人口分布と人口移動、因子生態研究などについて講義を行なう。後半は、地域間人口移動の特色、人口移動とアクセシビリティ、人口移動モデルなどを中心に、都市システム研究の視点から講義を進める。

## 原書講読

梅原 弘光

熱帯地域の農業に注目して、その人びとと環境との関係を考察する。

〔教科書〕 W. Manshard, (translated by Mis. D. Fraenleel) *Tropical Agriculture; A Geographical Introduction and appraisal.*  
(Longman, London, 1974) より抜すい。

## 地質学

小池 一之

地質学の基礎を中心に講義を進め、後半は、地球科学全般にわたるトピックスを講義したい。内容は、(1)地球史、(2)岩石と地層、(3)海洋底、(4)古地磁気と大陸移動、(5)プレート・テクトニクスなどである。講義にはスライ

ド・ビデオをまじえる予定である。

- 〔教科書〕 ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅲ』  
(東大出版会) ¥ 3,400
- 〔参考書〕 ホームズ著、上田ほか訳『一般地質学Ⅰ  
・Ⅱ』(東大出版会) 各¥ 3,400
- 貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』  
(東大出版会) ¥ 4,200

## 土 壤 地 理 学

漆 原 和 子

土壌の生成について解説し、多くの土壌生成因子のうち、特に時間、気候、地形について詳しく考察する。さらに人為によって、土壌がどのように変りつつあるかをも考察する。

- 〔教科書〕 『地形と土壌』〔新地学教育講座9〕  
(東海大学出版会)

## 気 候 学

中 村 和 郎

身近な気候現象に注目し、その研究を通して気候学の基本的諸概念と研究方法、世界諸地域の気候を学ぶ。

小テストを3回実施する。

- 〔教科書〕 中村和郎・内嶋善兵衛・木村龍治『日本の気候』(岩波書店)

## 海洋学及び陸水学

長 沼 信 夫

水を研究対象としている学問分野はいろいろあるが、ここでは自然地理学(水文学)の立場から水に関するテーマを選び講義する。また隣接分野における水の研究についても紹介する予定である。

- 〔教科書〕 『海洋と陸水』〔新地学教育講座10〕  
(東海大学出版会)
- 〔参考書〕 『水文学』〔自然地理学講座3〕  
(大明堂)
- 『日本の水』〔環境と人間の科学4〕  
(三省堂)

## 環 境 地 理 学

早 船 元 峰

自然の人間への影響、人間の自然へのはたらきかけについて、土地利用・水利用を通じ歴史的観点をふまえて論じる。

## 日 本 地 誌 Ⅲ

申 島 義 一

歴史地理学の諸問題に重点をおいて講義する。下記の教科書のほか、地図帳(高校生用の時に使ったものでよい)を忘れずに持ってくる。

- 〔教科書〕 矢守一彦『空からみた歴史景観』  
(大明堂) ¥ 2,000
- 〔参考書〕 授業の際に紹介する。

## 外 国 地 誌 Ⅲ

梅 原 弘 光

東南アジアを対象として、前半で地域全体の特性を概観、後半で特定の一回を取上げて地域の特徴を具体的に検討する。

## 都 市 地 理 学

今 朝 洞 重 美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか、日本、外国にテーマをとり学習する。

- 〔参考書〕 山鹿誠次『都市地理学』(大明堂)

## 計 量 地 理 学

奥 野 隆 史

地理的事象の計量的分析を説明する。講義の内容は、(1)データの入手と吟味と整理、(2)分布解析、(3)ネットワーク分析、(4)共変動分析、(5)拡散分析であり、実際の地理学研究の流れに沿っている。予備知識として中学校の数学を習得していれば十分である。

- 〔教科書〕 奥野隆史著『計量地理学の基礎』(大明堂) ¥ 2,400

## 応 用 地 理 学 Ⅰ

高 木 正 博

自然環境の変貌について、災害や各種の人為的な改変との関係からとらえる。また、河川の治水・利水に関する問題を、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

- 〔参考書〕 西村嘉助編『応用地形学』(大明堂)
- 大矢雅彦著『河川の開発と平野』  
(大明堂)

## 応用地理学Ⅱ

今野修平

応用地理学として、地域開発論の講義を行う。地域開発論の学的体系をのべる他、第四次全国総合開発計画および長期展望下の日本列島の将来や、地域開発政策の流れ等全般に亘る。

〔教科書〕『2000年の日本』

『日本21世紀の展望』

閣議決定後は『第四次全国総合開発計画』

## 文化地理学

こもぐち  
菱口善美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

## 空中写真判読法及び測量学

小池一之

測量学の基礎的事項を中心に講義する。随時課題を出すので、かならず締切日までに提出すること(課題数は年間5-6)。また、対数、三角関数(数学I程度)の復習もしておくこと。実習も含まれる。

本年度は、自然地理の基礎となる写真判読法にも力を入れる予定である。

(1)誤差論 (2)角の測定 (3)距離測定 (4)水準測量  
(5)多角測量 (6)地形測量 (7)写真測量 (8)写真判読法  
(9)リモートセンシング

〔教科書〕〔前期〕小田部和司『図解土木講座 測量学』(技報堂出版) ¥2,800

〔後期〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』(東大出版会) ¥4,200

## 地理学特講Ⅰ

長野 覚

高等学校・中学校の社会科地理教員の採用試験を受験する者を対象とする。指導内容は1学年以来、学習した地理学の教科内容を整理・集約することに重点を置く。また、小・中・高校一貫した社会科教育カリキュラムに対応した受験が可能のように、地理以外の教科についてゼミ形式の補講を予定している。テキストはプリントを主体とするが、下記参考書も必備のものである。

〔教科書〕『教育小六法』(学陽書房)・学習指導要領・日本国勢図会・高校地理教科書・中学校社会科教科書・地図帳

## 地理学演習

小川 徹

卒業論文の指導を中心にする。およその日程であるが、春休みに調査することを前提とするので、この点について前年12月から個別にガイダンスを行う。その内容は(1)テーマ決定・題目の検討 (2)調査資料・調査方法の検討 (3)秋学期に調査結果の報告と論述の検討。以後この日程にしたがって、各自少なくとも3回報告の必要がある。この規定は厳密に実施する。

## 地理学演習

今朝洞 重美

地理学の本質論の研究と地誌学および一般地理学(人文地理学)に関する卒業論文の演習を行う。

## 地理学演習

小池 一之

前期: 地理学調査方法(野外調査・文献調査)の習得、調査資料の分析法、データの統計処理などについて学ぶ。

後期: 各人のテーマにそった具体的な指導を中心とする演習。

## 地理学演習

こもぐち  
菱口善美

ここでは4年生を対象とする卒業論文の作成の指導を行う。前期においては、各履修者の論文の主題に包含される問題点の指摘と研究方法について、後期には、実態調査にもとづく論文作成の技術的方法について重点をおく。

## 地理学演習

桜井 正信

地理学の演習を通じて、最終学生の成果をあげるよう努力します。また卒業論文の作成の指導もしたい。

## 地理学演習

高木正博

卒業論文の作成指導を主体とする。まず、各自のテーマや、参考文献・資料の選択整理、現地調査の方法などを検討する。現地調査後は、各自その成果を発表し、討論のうえ論文作成へと導く。

## 地理学演習

西村嘉助

卒業論文を作成する学生に対し、問題の設定・情報の収集・論理のたて方など、討論を主として指導する。

## 地理学演習

土谷敏治

前半は、各自の研究テーマに沿った論文の講読を通じ、卒業論文の作成法、調査方法、資料の収集・整理法の習得する。後半は、研究・調査結果の中間報告を行ない、討論を重ねて論文完成をめざす。

## 地理学演習

早船元峰

卒業論文を作成する学生に対する演習である。前半には論文の作成・現地調査・文献資料の収集・整理等の方法について講じ、後半は卒業論文のテーマにしたがって調査研究した成果の発表（中間報告）や関連した論文の内容の紹介をさせる。

## 地理学演習

中村和郎

卒業論文の作成指導を中心に行う。テーマの決定、研究の進め方、文献収集とその読み方、資料の整理のし方、現地調査の方法、論文の書き方、口頭発表のし方などについて指導する。

## 地理学演習

長沼信夫

卒業論文の作成指導を中心におこなう。前期は論文の書き方、文献資料の蒐集・整理・調査方法、文献紹介等についておこなう。後期は各自の卒論テーマによる調査・研究成果を報告してもらう。

出席を重視し、平常点で評価する。なお、前期・後期に各1回合宿（総合報告・中間検討会）を行う予定である。

## 地理学演習

長野覚

卒業論文の作成を目標にして、前期は参考文献・資料収集・実施調査・成果の整理などの方法を指導する。後期は論文作成の進度に合わせて中間発表を行い、討論を重ねて内容を充実させ、完成までの指導をする。

卒業論文の提出後、論文内容の発表会を、一人15分程度で実施する。

# 歷史學科

## 基礎教育科目

基礎歷史學(飯島 武次) .....	110
基礎歷史學(広瀬 良弘) .....	110
基礎歷史學(渡辺 惇) .....	110

## 專門教育科目

史學概論(椽川 一朗) .....	110
日本史概説Ⅰ(古代・中世)(杉山 博) .....	110
日本史概説Ⅱ(近世・近代)(木槻 哲夫) .....	110
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)(長瀬 守) .....	110
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)(渡辺 惇) .....	111
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)(椽川 一朗) .....	111
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)(青木 道彦) .....	111
考古學概説Ⅰ(日本)(倉田 芳郎) .....	111
考古學概説Ⅱ(外國)(飯島 武次) .....	111
日本史學史(葉貫 磨哉) .....	111
東洋史學史(福井 文雅) .....	111
西洋史學史(石川 澄雄) .....	111
考古學史(平井 尚志) .....	112
演習Ⅰ(杉山 博) .....	112
演習Ⅱ(杉山 博) .....	112
演習Ⅰ(所 理喜夫) .....	112
演習Ⅱ(所 理喜夫) .....	112
演習Ⅰ(長野 ひろ子) .....	112
演習Ⅱ(長野 ひろ子) .....	112
演習Ⅰ(葉貫 磨哉) .....	112
演習Ⅱ(葉貫 磨哉) .....	112
演習Ⅰ(広瀬 良弘) .....	113
演習Ⅱ(広瀬 良弘) .....	113
演習Ⅰ(山口 一之) .....	113
演習Ⅱ(山口 一之) .....	113
演習Ⅰ(渡辺 直彦) .....	113
演習Ⅱ(渡辺 直彦) .....	113
演習Ⅰ(渡辺 惇) .....	113
演習Ⅱ(渡辺 惇) .....	113
演習Ⅰ(石川 澄雄) .....	113
演習Ⅱ(石川 澄雄) .....	113
演習Ⅰ(椽川 一朗) .....	114
演習Ⅱ(椽川 一朗) .....	114
演習Ⅰ(飯島 武次) .....	114
演習Ⅱ(飯島 武次) .....	114
演習Ⅰ(加藤 晋平) .....	114
演習Ⅱ(加藤 晋平) .....	114
演習Ⅱ(倉田 芳郎) .....	114
日本史各説Ⅰ(渡辺 直彦) .....	114

日本史各説Ⅲ(土肥 鑑高) .....	114
日本史各説Ⅳ(山口 一之) .....	114
東洋史各説Ⅱ(古代)(宇都木 章) .....	115
東洋史各説Ⅳ(中世)(町田 隆吉) .....	115
東洋史各説Ⅵ(近世)(吉田 寅) .....	115
東洋史各説Ⅶ(近・現代)(渡辺 惇) .....	115
東洋史各説Ⅷ(周辺史)(岡本 敬二) .....	115
東洋史各説Ⅸ(周辺史)(片岡 一忠) .....	115
東洋史各説Ⅹ(周辺史)(光嵐 督) .....	115
西洋史各説Ⅰ(中村 道雄) .....	115
西洋史各説Ⅲ(伏島 正義) .....	115
西洋各國史Ⅰ(青木 道彦) .....	116
西洋各國史Ⅱ(加納 格) .....	116
西洋各國史Ⅲ(椽川 一朗) .....	116
西洋各國史Ⅳ(石川 澄雄) .....	116
考古學各説Ⅲ(清水 潤三) .....	116
考古學各説Ⅳ(江坂 輝彌) .....	116
古文書學(葉貫 磨哉) .....	116
古文書講読Ⅰ(久保田 真継) .....	116
古文書講読Ⅱ(有元 修一) .....	116
日本史特講Ⅱ(中世)(葉貫 磨哉) .....	117
日本史特講Ⅲ(中世)(芥川 龍男) .....	117
日本史特講Ⅳ(中世)(杉山 博) .....	117
日本史特講Ⅴ(近世)(土肥 鑑高) .....	117
日本史特講Ⅵ(近世)(広瀬 良弘) .....	117
日本史特講Ⅶ(近代)(山口 一之) .....	117
東洋史特講Ⅰ(古代)(福井 文雅) .....	117
東洋史特講Ⅱ(古代)(宇都木 章) .....	117
東洋史特講Ⅲ(中世)(町田 隆吉) .....	117
東洋史特講Ⅳ(近世)(長瀬 守) .....	118
東洋史特講Ⅴ(近・現代)(渡辺 惇) .....	118
東洋史特講Ⅵ(近・現代)(吉田 寅) .....	118
東洋史特講Ⅶ(周辺史)(岡本 敬二) .....	118
東洋史特講Ⅷ(周辺史)(片岡 一忠) .....	118
東洋史特講Ⅸ(周辺史)(光嵐 督) .....	118
西洋史特講Ⅰ(伏島 正義) .....	118
西洋史特講Ⅱ(三小田 敏雄) .....	118
西洋史特講Ⅲ(中村 純) .....	118
考古學特講Ⅱ(高浜 秀) .....	119
考古學特講Ⅳ(飯島 武次) .....	119
日本仏教史Ⅲ(広瀬 良弘) .....	119
日本文化史Ⅰ(有元 修一) .....	119
西洋文化史Ⅲ(三小田 敏雄) .....	119
考古発掘実習(寺社下 博) .....	119
考古学実習(写真)(斎藤 孝哉) .....	119
考古学実習(測量)(栗山 稔) .....	119
考古学実習(石器)(田中 英司) .....	119
考古学実習(土器)(酒井 清治) .....	120
地誌学(今朝洞 重美) .....	120
地誌学(長野 覚) .....	120
地誌学(渡邊 盾夫) .....	120

人文地理学概説 (小林 高寿) .....	120
歴史地理学 (桜井 正信) .....	120
哲学史 (川戸 好武) .....	120
歴史哲学 (山下 太郎) .....	120
美術史概説 (林 良一) .....	121
西域美術史 (林 良一) .....	121
仏教美術 (林 良一) .....	121
中国歴史文学 (中村 璋八) .....	121
ラテン語特講 (佐藤 玖美子) .....	121
日本民俗学 (山折 哲雄) .....	121

# 歴史学 科

## 基礎教育科目

### 基礎歴史学

飯島 武次

考古学より見た東洋の歴史について。この科目名は、「基礎歴史学」であるが、担当教員（飯島）が専門とする東洋考古学の講義を行なう。

### 基礎歴史学

広瀬 良弘

歴史とは何か、なぜ歴史を学ぶのか、など歴史研究を行っていく上での基本的な問題をはじめとして、研究方法論や史料批判等について講述する。テキストはコピーして配布。ただし実費を徴収する。

### 基礎歴史学

渡辺 惇

歴史に対する基礎的な見方、考え方を養う上で、素材としてアジアの歴史（中国、インド、東南アジア、西アジア、内陸アジア）をとりあげ、これについて中広く講義する。

〔教科書〕 特に定めず、プリント・資料を配布する。

## 専門教育科目

### 史学概論

椽川 一朗

歴史学的研究法とくに比較史的方法につき諸事例を挙げて講述する。

### 日本史概説Ⅰ（古代・中世）

杉山 博

室町時代の諸様相を各方面から検討してみたい。  
〔教科書〕 脇田晴子著『室町時代』（中公新書776）  
（中央公論社）¥600

### 日本史概説Ⅱ（近世・近代）

木槻 哲夫

近世・近代にわたる日本社会の発展を概観しつつ、研究史にもふれ、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するよう努めたい。

〔参考書〕 『地方史研究必携』（岩波書店）  
¥4,800

### 東洋史概説Ⅰ（古代・中世）

長瀬 守

北方異民族と漢民族の文化摩擦を中心に、中国を中心とした東アジア世界の概説を行う。

## 東洋史概説Ⅱ（近世・近代）

渡辺 惇

元・明・清代の政治、対外関係、社会経済、文化等について、総合的に講義する。

〔教科書〕 特に定めない。

〔参考書〕 授業の中で指示する。

## 考古学概説Ⅱ（外国）

飯島 武次

『考古学ゼミナール』の講読を通じて外国考古学について講義を行なう。

〔教科書〕 江上波夫監修『考古学ゼミナール』（山川出版社）1976年（学生版、¥2,800）

## 西洋史概説Ⅰ（古代・中世）

椋川 一朗

西洋古代より近代前期までの社会経済史および思想史を総合的に講述する。

## 日本史学史

葉貫磨 哉

古代から近代に至る歴史書の成立過程と、その概要について講義する。

## 西洋史概説Ⅱ（近世・近代）

青木 道彦

ヨーロッパの近世初頭から現代に至る歩みを概観するが、必要な限りにおいてヨーロッパ中世にもふれて講義したい。中世においては必ずしも他の文化世界に対して優位にたつてはなかった西欧世界が、なぜ近代工業化の先頭にたつて、他の文化世界に強い衝撃を与えるようになったのかという問題を念頭において、受講して頂きたい。西洋史に関する平易な文献を指定し、読書レポートを提出させる課題を課す。4年生を除き、この課題を提出しない者には受験資格を与えないので、注意すること。

〔参考書〕 祇園寺信彦編『西洋史要綱』（御茶の水書房）

堀米庸三監修『西洋史展望』（晶文社）

## 東洋史学史

福井 文雅

中国人は「歴史」をどのように考えていたか、その歴史を動かす「人間」をどのように考えていたか、人間の命運、運・不運をどのように解釈していたのか、等々の問題について、伝統的な見方を中心に述べることにしたい。仏教思想などの外来文化が伝統的な見方に及ぼした影響へも言及する。

〔教科書〕 『原典対照 中国思想文学通史』（明治書院）¥1,500

〔参考書〕 『支那史学史』（創文社）

『史学論集』（毎日新聞社）

## 考古学概説Ⅰ（日本）

倉田 芳郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

## 西洋史学史

石川 澄雄

西洋史学の発達を、文化史の動きをからませて概観する。1年で完結する短い講義であるから、受講者は、西洋史概説の知識を十分にこなして出席されたい。プリント併用の予定だが、授業をととして参考書類を指示、説明する。

〔参考書〕 『西洋史概説』で使用するテキストでよいから、概説書を必ず持参すること。

## 考古学史

平井尚志

まず考古遺物、遺跡についての古記録をのべ、17、18世紀に入るや欧州では古典文化、中近東の遺跡、遺物への関心が高まり、時を同じくして日本でも石器類を採集し同好知識人間の意見開陳も初まった。大英博物館を始め欧州首都の博物館の創設、個人の収集品を中心とした研究が考古学前史となる。19世紀に入り進化論に刺激され、地質学の発達と相まって方法論と目的をもった学問としての考古学が逐次定着した。

本講は主として極東シベリア、中国東北地区、モンゴルの1世紀間に亘る日本人、外人学者による調査研究業績をのべ、今日日本考古学が深い関心を寄せているこの地域の学史と現況に及ぶ講述を行う。

特に渤海の研究史(日・中・ソ・朝)をや、詳細に講ずる。

## 演習 I

杉山博

前半に引続き「快元僧御記」をテキストとして戦国大名の領国支配の具体相を検討してみたい。

〔教科書〕 プリント使用。『快元僧御記』

## 演習 II

杉山博

戦国期の諸相を追究し、あわせて卒業論文の指導を行う。

〔参考書〕 『日本の歴史11 戦国大名』〔中央文庫〕(中央公論社) ¥480

## 演習 I

所 理喜夫

「東照宮御実紀」をテキストとして、江戸幕府創業史を追求する。テキストはプリントして配布する。

〔教科書〕 影写を配布する。

## 演習 II

所 理喜夫

受講者が専攻したい分野につき発表させ、それとの関係において卒業論文作成の指導を行う。

〔参考書〕 受講者ごとに指示する。

## 演習 I

長野ひろ子

幕末維新期を中心とした政治・経済・社会について。

演習なので、テキストを指定し順番にレポートしてもらおう形式をとりたい。テキストについては開講時に指示する。

## 演習 II

長野ひろ子

幕末維新期を中心とした政治・経済・社会について。

卒業論文作成予定者を対象とする。したがってテキストは用いない。

## 演習 I

葉貫磨哉

『蔭涼軒日録』の文明18年正月より講読して、室町將軍の動静や時代思潮などを考える。また五山派のあり方を理解するために見学も行う。

## 演習 II

葉貫磨哉

鎌倉・室町時代の歴史を通観し、研究発表を通して問題点を探り、併せて卒業論文の指導をも行う。

演 習 I

広 瀬 良 弘

下記の史料を用いて近世幕藩体制社会の成立過程を考察し、併せて近世史料の読解力・分析力を養う。

〔教科書〕 『徳川実紀』のコピーを配布する。

演 習 II

渡 辺 直 彦

律令官制とその定員とを規定した「職員令」を講読する。

〔教科書〕 『令義解』（吉川弘文館）¥ 3,200

演 習 II

広 瀬 良 弘

近世史料を講読し、その読解力を養い、併せて受講者の研究発表を通じて卒業論文の指導を行う。

〔教科書〕 史料はコピーして配布。

演 習 I

渡 辺 惇

趙翼著『二十二史劄記』の明代の部分（漢文）を講読する。

〔教科書〕 プリントを配布する。

演 習 I

山 口 一 之

毛筆書きの近代文書のコピーを使用し、史料の読解力と批判力をつけることに主眼を置き、一年間みっちり勉強するつもりである。教材については最初の時間に指示するが、下記の書物を用意して活用してもらいたい。

〔参考書〕 児玉幸多編『くずし字解読辞典』

〔普及版〕（近藤出版社）¥ 2,000

演 習 II

渡 辺 惇

范文瀾著『中国近代史』のアヘン戦争の部分（現代中国文）を講読する。

〔教科書〕 プリントを配布する。

演 習 II

山 口 一 之

下記の書物を使用して研究発表と討論を行う。各人のこれまでの勉強の程を示す時間である。

〔教科書〕 筒井若水等編『法律学教材 日本憲法史』

（東京大学出版会） ¥ 3,200

演 習 I

石 川 澄 雄

西洋史、3年。ドイツ語のテキスト輪読形式で進める。教材は開講時に指示する。山川出版社「世界史小辞典」のほか、できたら平凡社「カラー世界史百科」をも携行すること。（卒業論文作成のための予備指導を兼ねる。）

演 習 I

渡 辺 直 彦

桓武天皇の延暦十五（796）年七月条から、順次史料を講読する。

〔教科書〕 『日本後紀』（吉川弘文館）¥ 2,000

演 習 II

石 川 澄 雄

卒業年次生の卒論指導を兼ねるので、該当者は必ず出席すること（出席重視）。古典の熟読を行う。

テキストは開講時に指示する。

演習 I

椽川一朗

フランス思想史関係の原典講読。(卒業論文作成のための予備指導を兼ねる。)

演習 II

加藤晋平

先土器時代及び縄文時代における生業活動に関する各種論文を、受講生とともに講読する。

演習 II

椽川一朗

ルソー『民約論』(フランス語原典)の講読、および卒業論文作成の指導。

演習 II

倉田芳郎

日本の弥生時代以降に関する考古学の報告書を1篇ずつ選ばせ、論評するか、あるいは資料を調べて補強させて、考古学の方法を身につけるように仕向けたい。あわせて、この時間を用いて、卒業論文作成の指導をする。年度第1週目の授業に必ず出席のこと。

演習 I

飯島武次

『史記』平準書講読。

日本史各説 I

渡辺直彦

平安初期の政治や文化について、基本史料を解説しながら講述する。

〔教科書〕『史料による日本の歩み 古代編』  
(吉川弘文館) ¥2,800

演習 II

飯島武次

卒業論文の指導を兼ね、考古資料の調査研究を行なう。発表方法については、最初の授業の折りに指示する。

日本史各説 III

土肥鑑高

江戸時代の元禄——天保期について、いわゆる三大改革を中心に講ずる。田沼時代や化政期についても再評価してゆきたい。

〔教科書〕『改革の虚像』(秀英出版) ¥1,200

演習 I

加藤晋平

Robin Dennell (1983) European Economic Prehistory. を講読する。講読資料は、授業時に配布する。

日本史各説 IV

山口一之

資料を通じて近代日本の問題点を把握するということを中心とし、下記の書物を使用して勉強する。今年度は大正期から後をとりあげたい。

〔教科書〕筒井若水等編『法律学教材 日本憲法史』  
(東京大学出版会) ¥3,200

## 東洋史各説Ⅱ(古代)

宇都木 章

秦漢時代から隋唐に至るまでの概説を行う。  
同時にそれぞれの時代の主要な問題を解説し、特に日本との関係についても考察してみたい。

## 東洋史各説Ⅳ(中世)

町田隆吉

魏晉南北朝～隋唐時代の政治史・社会経済史について最近の研究成果をふまえて概観し、問題の所在を明らかにする。

## 東洋史各説Ⅵ(近世)

吉田 寅

明・清時代における中国史の発展を概説的に講述する。なお歴史的考察と関連しつつ、史料の解説を行い、明・清時代史研究への導入とすることを期している。

〔教科書〕 史料プリントを配布する。

## 東洋史各説Ⅶ(近・現代)

渡辺 惇

辛亥革命にいたる中国近代化の過程を、最近の研究をふまえて講義する。

〔教科書〕 特に定めない。

〔参考書〕 講義の中で紹介、指示する。

## 東洋史各説Ⅷ(周辺史)

岡本敬二

政治的にも文化的にも東アジアの歴史世界に多大な影響を与えていた中国の唐朝が衰退すると、契丹族や女真族などの諸民族が抬頭して、新しい歴史の展開がみられた。やがて蒙古族によって、世界史的な大帝国が建設され、東アジア歴史世界は大きく進転する。こうした問題について考察する。参考書は適時に紹介する。

## 東洋史各説Ⅸ(周辺史)

片岡一忠

中国周辺地域(なかでも西域)の歴史を中国の歴史との関連を中心に概説する。

## 東洋史各説Ⅹ(周辺史)

光 巖 督

古代中国の思想と共にアジアの思想を代表する古代印度の思想、それは古代印度のヴェーダ学よりはじまり、ブラーフマナ、二大叙事詩を経てプラーナに至り、現代の印度教を大成させた宗教思想であるが、この宗教思想の一支脈として、原始佛教を成立させ、この佛教思想が中国を経由することにより、中国の思想、哲学を取り入れ、更に、日本に伝来して日本人の人生観と交って今日の日本佛教と、その文化を形成して来た。この日本佛教の思想的原点となった印度の聖典とその神々について、文化史的に、思想史的に解説を進め、日本佛教思想に、また日本人の生活文化にどのように影響して来たかを探るものである。

〔教科書〕 光巖 督著『印度の聖典と神々』(成文堂)

## 西洋史各説Ⅰ

中村道雄

主としてアメリカ合衆国の歴史を考察する。西洋史専攻者のみでなく、日本史・東洋史専攻の学生諸君の受講を希望する。

〔教科書〕 有賀貞・大下尚一編『概説アメリカ史』(有斐閣) ¥1,800

〔参考書〕 ビーアド著『新版 アメリカ合衆国史』(岩波書店)

## 西洋史各説Ⅲ

伏島正義

中世史に興味がひかれる契機は、ある伝説的物語のもつ魅力に負うところが少なくない。本講ではそうした物語を選んでみたい。そして、そうした物語がある特定の歴史的背景を反映したものであるとの認識に立ち、それがいかなる社会的背景に基づくものであるかについて考えてみたい。具体的にどのような物語を扱うかについては、受講生と相談のうえ決める。文献、関係論文(邦文、英文)、史料などを読みつつ、演習形式により授業を進

めたい。テキスト、文献等は授業時に指示する。

但し、受講生の希望により、必ずしも物語に限定されるものではない。

### 西洋各国史 I

青木道彦

「イギリス国教会の動揺と安定」をテーマとして、エドワート6世、メアリ1世時代からエリザベス1世時代前半の政治と国際関係を概観したい。この時代およびそれに先立つヘンリー7世・8世時代についての英文年表を配布し、その日本語訳をレポートとして課する予定である。

〔参考書〕 植村雅彦『エリザベス1世』（教育社歴史新書）

### 西洋各国史 II

加納格

ソ連（ソビエト社会主義共和国連邦）は、日本の隣邦であるにも拘らず、私達のもっている具体的知識が乏しい国である。いわゆる「近くて遠い国」の1つである。しかし、この国がヨーロッパ、アジアの歴史にもった関わりは深く、日本も良きにつけ、悪しきにつけこの国と相互に影響を与えあってきた。そして現在も日本のおかれている国際環境は、この国との相互理解を求めている。講義ではそうした理解のために、この国のたどった歴史を様々なエポックにおいてみていくことにしたい。

〔参考書〕 『世界各国史4 ロシア史』（山川出版社）  
¥2,800

### 西洋各国史 III

椽川一朗

ミシュレ『フランス革命史』等の原典講読を中心に、フランス史を講述する。（二年次学生向き。）

〔教科書〕 桑原武夫等訳『世界の名著 第48巻  
「ミシュレ」』（中央公論社）

### 西洋各国史 IV

石川澄雄

主にドイツ史を専攻する学生に対して、独文によりドイツ文化の理解を深めたいと考える。ゼミ形式で進める。2、3年生のほか、4年生の出席をも期待する。教材は開講時に指示する。

### 考古学各説 III

清水潤三

開講時に指示する。

### 考古学各説 IV

江坂輝彌

日本の縄文土器文化の変遷を中心として、この時代の東アジア地域との文化交流について講義を行う。随時プリントを配布し、スライドを使用する。

### 古文書学

葉貫磨哉

文書作成の目的や様式・保存・伝来等の理由、文章・料紙・筆蹟等の観賞用に至るまで、古文書についての概括的な講義を行う。後期は演習も行う。

### 古文書講読 I

久保田真継

普段は兎角、活字などで読みがちな歴史史料としての古文書を、写真版で解読することにより、古文書に親しむことにつとめる。なおとくに中世古文書を中心に講読する。一応教科書を設定するが、随時コピーなども使用していきたい。

〔教科書〕 『演習古文書選（古代・中世編）』  
（吉川弘文館）¥1,400

〔参考書〕 『古文書解読字典』（柏書房）  
¥1,500

### 古文書講読 II

有元修一

幕府・藩・地方・町方史料など、近世古文書の解説を行う。特に、接する機会が多い地方史料に重点をおく。

〔教科書〕 日本歴史学会編『演習古文書選（近世編）』

(吉川弘文館) ¥1,500

[参考書] 『古文書解読字典』(柏書房) ¥2,500

### 日本史特講Ⅱ(中世)

葉 貫 磨 哉

武家社会と禅宗と題して、鎌倉・室町時代の禅宗の発展について講義する予定である。

### 日本史特講Ⅲ(中世)

芥 川 龍 男

「武士に関する諸問題」

表題にしたがって、中世武士団の成立・変質過程を多角的に考察する予定。受講に際しては、講義中に紹介する文献・史料等を積極的に読破し、レポートするようつとめてほしい。

特にテキスト・参考書は指定しない。

### 日本史特講Ⅲ(中世)

杉 山 博

戦国期の文書を使用して、戦国時代の諸相を追求する。

[教科書] 『日本の歴史11 戦国大名』(中央文庫)  
(中央公論社) ¥480

[参考書] プリント使用。

### 日本史特講Ⅳ(近世)

土 肥 鑑 高

近世は「米遣い経済」といわれている。そこで、米を軸としてその流通→統制の過程を考えるとともに、「天下の台所」といわれる大坂の市場構造にもふれてゆきたい。

[教科書] 『米と江戸時代』(雄山閣出版)

¥1,800

『江戸の米屋』(吉川弘文館)

¥1,200

### 日本史特講Ⅴ(近世)

広 瀬 良 弘

本講座では、中世末期から近世前期にかけて何故に歴史上最多の寺院建立がみられたのか、また、近世仏教の特徴である寺請制度やその前提となったものは何であったかを考察し、さらに近世寺院僧侶の活動や村落社会とのかかわりについても考察を加えることにする。

[参考書] 授業中にプリントして配布する。

### 日本史特講Ⅶ(近代)

山 口 一 之

近代日本の対外問題をとりあげて講義するつもりである。

### 東洋史特講Ⅰ(古代)

福 井 文 雅

中国古代史にとって司馬遷『史記』は第一級の資料であるが、なかでも「封禅書」は、当時の文化を知るには先ず読まねばならない文献である。同じ『史記』の中の「始皇本紀」その他の関連章節や『漢書』の対応記事と比較しつつ、精読することにした。テキストはプリントして配布する。

[教科書] プリント(『史記』封禅書)

[参考書] 小竹文夫・武夫共訳『史記』(弘文堂)

### 東洋史特講Ⅱ(古代)

宇 都 木 章

春秋左氏伝の研究。

1. 「春秋」と「左氏伝」の概要
2. 「左氏伝」の文献学的説明
3. 「左氏伝」における貴族政治とその変遷

以上の事柄について、漢文文献を使用しながら解説する。

### 東洋史特講Ⅵ(中世)

町 田 隆 吉

魏晋南北朝時代、とりわけ五胡十六国～北魏時代の諸問題(国家構造・土地制度など)について具体的に史料に即して考察し、この時代の特徴を明らかにする。

### 東洋史特講Ⅶ(近世)

長瀬 守

宋元における江南について、歴史地理学的手法によって、都市・郷村・商業・農業・水利などを総合して地域開発の問題を検討する。

〔参考書〕 長瀬 守『宋元水利史研究』(国書刊行会)

### 東洋史特講Ⅹ(近・現代)

渡辺 惇

近代中国民衆結社史：近代中国における民衆の動きを理解する一環として、秘密結社(会党、帮会)をとりあげ、その発生、発展、組織の特色、時代背景等について講義する。

〔教科書〕 特に定めない。

〔参考書〕 講義の中で紹介、指示する。

### 東洋史特講Ⅺ(近・現代)

吉田 寅

明・清時代以降の中国キリスト教史を、中国文化史の流れの上において講述する。特にヨーロッパ文化の中国流入および、それに対する中国人の対応を中心に考察する。なお、講義の展開と関連しつつ、史料の解説を行い、より深い研究への手引きとする。

〔教科書〕 史料プリントを配布する。

### 東洋史特講Ⅻ(周辺史)

岡本 敬二

東北アジアにおける諸民族の間における経済的・文化的交通について、原史料を取り扱いながら、具体的に研究を進める。その際、歴史史料の取り扱いや基礎的な研究方法などについても、十分に考慮する。テキストは新しく作成する予定である。

### 東洋史特講ⅩⅣ(周辺史)

片岡 一忠

中国周辺地域に対する中国王朝の政策の特徴を、清朝の新疆(西域)に対する統治政策を例として考察する。

### 東洋史特講ⅩⅤ(周辺史)

光島 督

チベット佛教史

チベットには古来民族宗教としてボン教があったが、七世紀の佛教伝来以後、ボン教と佛教との二百年に亘る確執の後ダルマ王の宗教弾圧に合い、以後百年間佛教ボン教共に姿をひそめるが、やがてその復興に当り、佛教ボン教両者の妥協と協力が成立して、ここに宗教復興運動が盛んとなり、また印度に対する回教徒軍の侵入により、印度を追われた印度後期密教の論師達が經典を背負ってチベット入りをし、後期印度密教を受け継ぎ、それにボン教の呪咀的行法を加えたチベット独特の佛教が盛立し、更にそれに中国禪宗の要素が加わって、いわゆる喇嘛教と称せられるチベット佛教が成立する過程を追う。

### 西洋史特講Ⅰ

伏島 正義

西洋史を専攻する学生諸君は、将来に備えて語学力を養うことが望まれる。この特講Ⅰでは、平易な英文をテキストとして、西洋史の概説的知識を身につけるよう、演習形式をとる。新2年生および北海道教養部からの3年生で、西洋史を希望する学生は必ず出席すること。テキストは第一時限目に指示する。

### 西洋史特講Ⅲ

三小田 敏雄

原始キリスト教から現代までのキリスト教を概説する。西洋史概説の講義と重複する部分は省略して、各時代のキリスト教の特色と問題点を明確にしてみたい。教科書および参考書は開講時に指示する。

### 西洋史特講Ⅳ

中村 純

古代ギリシアの歴史は、そこに固有の国家形態であるポリスの形成と発展、そして衰退の歴史に他ならない。このポリス社会の政治的・文化的側面について考える予定である。

〔教科書・参考書〕 開講時指示。

## 考古学特講Ⅱ

高 浜 秀

ハンガリーから中国の北方オルドス地方に至るユーラシア北方草原地帯では、紀元前1000年紀に青銅器時代から初期鉄器時代へ移行すると共に、紀元前8～7世紀頃、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が興った。講義では、これらの文化を概観する。

## 考古学特講Ⅳ

飯 島 武 次

UNESCO, "Recent Archaeological Discoveries in the People's Republic of China"の講義を行なう。  
〔教科書〕 UNESCO, "Recent Archaeological Discoveries in the People's Republic of China," 東洋文庫附属ユネスコ東アジア文化研究センター 1984年 ¥2,100

## 日本仏教史Ⅲ

広 瀬 良 弘

本講座では仏教の歴史の流れを概観し、のちに中世後期から近世・近代にかけての仏教と当該期の社会・文化とのかかわりについて講述する。

〔参考書〕 参考史料は随時コピーして配布。

## 日本文化史Ⅰ

有 元 修 一

日本文化の多様な流れを概観するとともにその特色をあきらかにする。本年は特に古代・中世を中心とする。

〔参考書〕 家永三郎著『日本文化史 第2版』  
(岩波新書)

## 西洋文化史Ⅲ

三小田 敏 雄

今年度はローマの文化を取り上げる。今日われわれがローマ文化と呼んでいるものは、いつごろから現われたのか、そしてその特質はどんなものか、をできるだけ翻訳史料をあたりながら調べ、遺跡や彫刻を通じて確認し

てみる。ローマ時代にオリエントの影響が増大し最後にキリスト教の伝播によって、中世文化が生まれるところまで講義する予定である。教科書および参考書は開講時に指示する。

## 考古発掘実習

寺 社 下 博

野外における考古発掘実習を行う。20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

## 考古学実習(写真)

斎 藤 孝 哉

写真撮影技術および処理技術の基礎を習得することを目的とし、主として考古資料写真に必要なと思われる技術を実習、演習を交えながら、解り易く講義する。

1. 写真プロセスの基礎と写真用語
2. 撮影技術の基礎
3. 現像処理
4. 考古資料写真撮影の基礎
5. カラー撮影
6. 大型カメラの操作
7. ライティング
8. その他

〔教科書〕 プリントテキスト配布。必要によりその都度配布。

## 考古学実習(測量)

栗 山 稔

遺跡調査等において必要となる測量の基礎知識と技術取得、特に後者に重点を置き講義・実習を行う。夏休みに3～4日の集中実習に参加することが必要である。

〔教科書〕 檀原 毅著『測量の基礎』(山海堂)

## 考古学実習(石器)

田 中 英 司

石器研究の基礎である石器の観察と石器実測図についての講義を行う。石器の研究史と実測図の歴史、石器製作と打撃の原理、投影法、表現法等の基本的知識と、それをふまえた実技を通して、考古資料の記録と観察法を

学ぶ。

〔参考書〕 『図録石器の基本知識Ⅱ・先土器（下）』  
（柏書房）¥2,000

### 考古学実習（土器）

酒井清治

出土遺物である「もの」の調査は考古学の基本であるとともに、その後の研究の基礎資料となる。出土遺物の一つである土器を通して、実測の目的および基礎技術、観察の方法などを理解できるようにする。

〔参考書〕 大井晴男『野外考古学』（東京大学出版会）  
『発掘調査の手びき』（国土地理協会）  
服部敬史『発掘と整理の知識』（東京美術）

### 地誌学

今朝洞重美

地誌学の本質論を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

### 地誌学

長野覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎共著『世界地誌』（改訂版）  
（大明堂）

### 地誌学

渡邊盾夫

読図の方法を理解したのちに、各国の地誌について日本地誌と比較しながら講義する。受講希望者は地図帳を持参して下さい。

### 人文地理学概説

小林高寿

歴史学は時間の経過を追って、人間の作り出した社会構造と人間心理に迫ってゆくが、地理は空間の中に人文現象と、人間の認識される範囲の自然現象を追求し、説明する。人文地理学は従って常に歴史現象と歴史学とに交錯しつつ、人文現象に対する学的究明を深め、拡大しつつ、空間のもつ意味を固定的にでなく、究明しようとする。それ故にそこで扱われる素材は多様となる。

かくの如くして、本講においては、人文地理学の多様性をしっかりと受けとめ、将来の教職の現場にあって、応用のきく学問を勉強させようとする。

環境としての自然の基礎的理解、歴史学と地理学の交錯分野にまで、講義の内容が及ぶのは必然である。

〔教科書〕 小林治『人文地理学入門』（東大出版会）¥2,800

〔参考書〕 高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店地理統計。

### 歴史地理学

桜井正信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

### 哲学史

川戸好武

はじめに、古代ギリシャおよび中世の哲学の要点を簡単に述べた後で、ルネッサンス以後の近世哲学史を概説する。

〔教科書・参考書〕 授業の際に指示する。

### 歴史哲学

山下太郎

歴史哲学は、歴史研究における意義、方法、目的、原理等を探究するものであり、実証的な歴史学の基礎をさぐる学問である。本講義はおおむね次のテーマに従って行ない、歴史の認識および存在についての基本的理解をえさせることを意図する。

## 第1章 歴史認識の問題

- (1)批判主義(カント) (2)新カント派(ヴィンデルバン  
ト) (3)生の哲学(ディルタイ) (4)実存哲学

## 第2章 歴史原則の問題

- (1)終末論的史観(キリスト教) (2)進化論的史観(ス  
ペンサー) (3)弁証法的史観(ヘーゲル, マルクス)  
(4)実存主義史観(ヤスパース)

### 美術史概説

林 良 一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

### 西域美術史

林 良 一

アフガニスタンより東西のトルキスタンにいたる西域美術を、仏教美術の東伝を中心に、各地の遺跡および遺品について講述する。現地の遺構や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔教科書〕 林 良一著『ガンダーラ美術紀行』(時事通信社) ¥ 2,200

### 仏教美術

林 良 一

インドにおける古代初期よりガンダーラ期の仏像成立にいたるまでの展開および仏教美術の図像学について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、現地撮影のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔教科書〕 林 良一著『ガンダーラ美術紀行』(時事通信社) ¥ 2,200

### 中国歴史文学

中 村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国

文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕 『五行大義校註』(汲古書院) ¥ 3,000

### ラテン語特講

佐 藤 玖 美 子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読も行いたいと思います。

〔教科書〕 『ラテン語入門』(駿河台出版社)

### 日本民俗学

山 折 哲 雄

柳田国男と折口信夫の民俗学について考察し、現代文化の諸相に光をあてる。

〔教科書〕 山折著『神と仏』(講談社新書)

## 社会学科

### 基礎教育科目

社会学概論(坪井 健)……………	123
社会福祉概論(高橋 重宏)……………	123
心理学概論(篠原 英壽)……………	123

### 専門教育科目

社会統計学(渡辺 裕子)……………	123
社会学史(安藤 喜久雄)……………	123
社会学方法論(金丸 由雄)……………	124
社会調査(川本 勝)……………	124
社会調査実習(川本 勝・坪井 健)……………	124
マスコミュニケーション(川本 勝)……………	124
産業社会学(安藤 喜久雄)……………	124
都市社会学(文屋 俊子)……………	124
農村社会学(文屋 俊子)……………	124
家族社会学(山根 常男)……………	125
法社会学(小林 弘人)……………	125
宗教社会学(藤井 正雄)……………	125
社会心理学(坪井 健)……………	125
社会病理学(中本 博通)……………	125
外書講読Ⅰ(金丸 由雄)……………	125
外書講読Ⅱ(坪井 健)……………	125
社会学特講Ⅰ(橋爪 敏)……………	125
社会学原論(渡辺 源樹)……………	126
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)……………	126
図書館学Ⅱ(源 昌久)……………	126
社会保障概論(近藤 功)……………	126
社会福祉法制(小林 弘人)……………	126
社会福祉方法総論(高橋 重宏)……………	127
社会福祉実習Ⅰ(高橋 重宏)……………	127
公的扶助論(近藤 功)……………	127
障害福祉論(原田 信一)……………	127
老人福祉論(東條 光雅)……………	127
児童福祉論(原田 信一)……………	127
母子福祉論(林 千代)……………	128
医療社会事業論(松本 栄二)……………	128
地域福祉論(永田 幹夫)……………	128
社会福祉事業発達史(林 千代)……………	128
社会福祉管理運営論(重田 信一)……………	128
福祉外書講読(東條 光雅)……………	129
リハビリテーション論(原田 信一)……………	129
社会福祉調査論(小林 昭二)……………	129
ケースワーク論(高橋 重宏)……………	129
グループワーク論(松本 栄二)……………	129
海外社会福祉論(星野 貞一郎)……………	129

社会福祉学特講Ⅰ(東條 光雅)……………	129
社会福祉学特講Ⅱ(星野 貞一郎)……………	130
社会福祉学特講Ⅲ(永田 幹夫)……………	130
社会福祉実習Ⅱ(原田 信一)……………	130
障害児教育方法論(井田 範美)……………	130
障害児教育原論(井田 範美)……………	130
心理学史(萩野 源一)……………	131
心理統計学(篠原 英壽)……………	131
心理学実験(実習)(篠原 英壽・小野 浩一・ 谷口 泰富)……………	131
心理学研究法(小野 浩一)……………	131
基礎心理学Ⅰ(人格)(谷口 泰富)……………	131
基礎心理学Ⅱ(発達)(篠原 英壽)……………	131
基礎心理学Ⅲ(学習)(小野 浩一)……………	131
基礎心理学Ⅳ(社会)(水原 泰介)……………	131
基礎心理学Ⅴ(臨床)(中村 昭之)……………	131
心理学研究Ⅰ(実習)(萩野 源一)……………	132
心理学研究Ⅱ(実習)(水原 泰介)……………	132
心理学研究Ⅲ(実習)(中村 昭之)……………	132
心理学研究Ⅳ(実習)(篠原 英壽)……………	132
心理学研究Ⅴ(実習)(小野 浩一)……………	132
心理学研究Ⅵ(実習)(谷口 泰富)……………	132
生理心理学(谷口 泰富)……………	132
児童心理学(天野 珠子)……………	132
産業心理学(大塚 秀治)……………	133
グループ・ダイナミクス(坂原 明)……………	133
カウンセリング(鈴木 順一)……………	133
心理検査法(森山 敏文)……………	133
禅心理学(脇本 平也)……………	133
心理学特講Ⅰ(佐々木 雄二)……………	133
心理学特講Ⅱ(佐々木 宏幹)……………	133
心理学特講Ⅲ(大塚 秀治)……………	134
精神医学(柴田 出)……………	134
社会政策(光岡 博美)……………	134
民法(青山 尚史)……………	134
労働法(平岡 一實)……………	134
行政法(鷓徳 啓登)……………	134
経済原論(浅野 克巳)……………	135
青少年問題研究(和田 謙寿)……………	135

# 社 会 学 科

## 基礎教育科目

### 社会学概論

坪 井 健

社会学は、多くの人にとって初めて出会う学問である。「社会学とは何か?」。この問いに答えることは難かしいが、要は私たちの日常的な様々の社会経験を社会システムとの関連で理解するための知的枠組の1つであると言える。

この講義では、そうした点を考慮して社会の経験的な諸事象に対する社会学的な見方を獲得することを主眼とし、当初は社会学の基礎的概念の理解に努め、その後、現代社会の諸現象を選択的に分析していく中で、社会学的分析の有効性を見極めていきたい。

〔教科書〕『新版社会学概論』『統計からみる社会学』（学文社）

### 社会福祉概論

高 橋 重 宏

戦後、制度としての社会福祉が整備・体系化され、社会福祉は日常生活の中で必要不可欠なソーシャル・システムとなった。だが、数年来、国家財政の窮乏化を主因に、財政再建という流れの中で社会福祉の見直し、補助金の一括カットが実施されており、日本の社会福祉は危機的状況にある。

このような現実をふまえつつ、本講義では、まず、社会福祉の基礎的な概念の整理をすることから始めたい。ついで、歴史的展開過程、しくみ、分野などについて論及し、社会福祉の諸制度の現状と、現代的課題について、一応の体系的理解ができるようにつとめたい。

- 〔教科書〕
- 1) 高橋重宏・松本寿昭編著『現代社会福祉考』（家政教育社）
  - 2) 高橋重宏・島村忠義編著『社会福祉を考える』（川島書店）
  - 3) 仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）
  - 4) 『国民の福祉の動向』（昭和60年版）（厚生統計協会）

### 心理学概論

篠 原 英 壽

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕『心理学概説』（八千代出版）

## 専門教育科目

### 社会統計学

渡 辺 裕 子

近年、統計が用いられることはますます多くなってきているが、データの見方・使い方については、よく理解されているとはいえない。また、コンピュータの普及や統計計算用プログラム・パッケージの開発により、統計解析を行なうことは容易になったといえるが、それらの解析法の基本的考え方や算出の過程は、知らずに用いられることも増えている。本講義では、統計学の基礎的な知識を身につけるとともに、社会統計の読み方や使い方について学ぶ。

〔教科書〕西平重喜『統計調査法』（補訂版）（培風館）¥1,500

〔参考書〕ザイゼン著、木村 定・安田三郎訳『数字で語る』（東洋経済新報社）¥1,800

### 社会学史

安 藤 喜 久 雄

現代における主要な社会学理論を概観するのみならず、社会学説の中であって現代にも大きな影響を与えている主要な社会学理論について理解をしながら講義を進める

予定である。

〔教科書〕 新睦人他著『社会学のあゆみ』（有斐閣新書）¥ 700

## 社会学方法論

金丸由雄

人間活動における情動性を究明する為に、種々の文化遺産を検討する。

〔参考書〕 アISKYロス、呉 茂一訳『縛られたプロメテウス』（岩波文庫）  
ソボクレス、呉 茂一訳『オイディプス王』（岩波文庫）

## 社会調査

川本 勝

社会調査は、社会的現実を科学的、実証的に把握、分析するための研究方法である。それは、直接現地調査によってデータを蒐集し、分析することに特色がある。

そこで、まず社会学理論と仮説と社会調査との関係を考察し、社会調査の手順にしたがって講義を進める。社会調査実習で具体的なテーマのもとに調査を実施するので、実習とのかねあいを配慮しながら、調査を実施する上で特に注意しなければならない点やデータ蒐集の技法、データの読み方、検定の仕方などを検討する。

## 社会調査実習

川本 勝・坪井 健

社会調査の技法をマスターすることを目的として、主として統計調査の実習を行う。まず社会調査の手順をひとつと理解した上で、調査の企画、設計、データの収集、集計、分析、報告書の作成の一連の作業を実施する。

データの集計及び解析には、コンピュータも併用する予定である。

尚、調査実習は、通常の講義科目とは異なり、実際の作業を通じて社会調査の技法を修得することが目的であるので、遅刻、欠席は厳しくチェックする。

〔参考書〕 その都度指示する。

## マスコミュニケーション

川本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミュニケーションの成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニ

ケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会的に分析する。

〔参考書〕 竹内・児島編『現代マス・コミュニケーション論』（有斐閣）  
川本 勝著『流行の社会心理』（勁草書房）¥ 2,300

## 産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の生成、発展について概観するとともに、以下のような主要な領域について解説し、そこでの諸問題が人間にとってどのような意味をもっているか考えてみたい。

序．産業社会学の生成、発展

1. 企業と経営組織
2. 職場の人間関係
3. 労働者の生活と意識
4. 労働組合
5. 労使関係
6. 産業と社会

〔教科書〕 本間康平他著『産業社会学入門』（有斐閣新書）¥ 560

## 都市社会学

文屋 俊子

都市社会学の形成と展開、都市化、都市的生活様式、都市の社会構造についてとりあげる。とくに現代日本の大都市におけるひとびとの生活様式について、最近の研究をとりあげ、議論したい。

参考文献等は、授業の際に適宜紹介する。

## 農村社会学

文屋 俊子

現代の農村をとりまく環境は、さまざまの意味で大変厳しい状況にある。農村社会学の成り立ちも、以前の苦しい状況からその必要性が叫ばれたのであった。これまでの研究を振り返り、現実の状況を見ることで、農村社会の問題を考えていきたい。

参考文献等は、授業の際に適宜紹介する。

## 家族社会学

山根常男

1. 家族とは何か?
2. 結婚と家族の歴史
3. 現代の家族問題
  - a. 夫婦の問題
  - b. 子供の問題
  - c. 老人の問題
4. 家族の未来

〔教科書〕 『家族の論理』(垣内出版) ¥2,600  
〔参考書〕 『ゆれ動く現代家族』(日本放送出版協会) ¥1,100  
『家族と人格』(家政教育社) ¥3,200

## 法社会学

小林弘人

前期は、法社会学の基礎理論(学説の説明が中心になる)の解説、後期は、法と社会の関連について、具体的なテーマを設定して講義する予定である。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕 及川 伸著『法社会学入門』(新版)  
(法律文化社)  
〔参考書〕 六本佳平著『法社会学』(有斐閣)

## 宗教社会学

藤井正雄

宗教社会学説の展開を把握し、最近の国際学会の場で論じられた統一テーマを中心にして、近・現代社会においてくりひろげられている宗教と社会、宗教と人間の関係の多様性の理解につとめる。

〔参考書〕 井門富二夫編・藤井他著『秩序への挑戦』(講座・宗教学)(東大出版会)1978年  
R・ロバートソン著、田丸徳善監訳『宗教の社会学』(川島書店)1983年  
『社会学用語辞典』(新版)(学文社)1985年

## 社会心理学

坪井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕 穴田義孝編『こころ・行動そして社会』(人間の科学社)

## 社会病理学

中本博通

人格、家族及び地域社会の社会病理についての講義を行う。まず、社会病理とは何かを明らかにし、ついで、人格の社会病理(人格論、社会病理現象、一自殺、少年非行、犯罪、家出、浮浪、薬物中毒等)家族の社会病理(離婚、家庭内紛争、保育問題、老人問題等)及び地域社会の社会病理(スラム、都市公害、住宅問題、交通問題、過疎問題等)の順で論じたい。

〔教科書〕 未定。  
〔参考書〕 中本博通編『社会病理と社会問題』(亜紀書房)  
大橋 薫編『社会病理学』(有斐閣)

## 外書講読 I

金丸由雄

講読する英文は易しすぎても難しすぎてもいけない。又内容は参加者の興味と出来るだけ合致することが望ましいので、テキストはクラスの諸君と相談して決定する。

## 外書講読 II

坪井 健

外書講読IIは、原書(英文)の講読を通して社会的なものの方や考え方を深めることを目的とする。具体的には、いくつかの論文を輪読しながら、討議し、理解を深めていくことになるが、テキストは開講時に指示する。

## 社会学特講 I

橋爪 敏

本講では、政治社会的諸問題について取り扱うことになる。政治社会学は、政治現象について社会的アプ





































































